

INSTRUCTOR MANUAL

日本語



PADI® *Instructor Manual*

© PADI 2025

No part of this product may be reproduced, sold or distributed in any form without the written permission of the publisher.

® indicates a trademark is registered in the U.S. and certain other countries.

この製品のいかなる部分も出版社の文書による許可なく、いかなる形でも複製することはできません。

® 商標は、米国 およびその他一部の国々で登録されていることを示します。

Published by PADI – Professional Association of Diving Instructors®
30151 Tomas
Rancho Santa Margarita, CA 92688-2125 USA

Product No. 79173J (Rev. 04/25) Version 2025

スクーバ・ダイビングは、リスクを伴わない完全に安全な活動にはなり得ない。しかしながら、PADIコースやプログラムに参加するダイバーをトレーニングし、監督するときには、このマニュアルに概説されている規準を守ることにより、ダイバーや初心者がリスクを管理する方法を学び、そのプロセスにおいて楽しい時間を過ごすための強力な基盤とすることができる。

このマニュアルの使い方

このマニュアルは、PADIコース必要条件を規定するものである。**太字**で書かれた部分は、コースを教えるにあたって、逸脱してはならない必須規準を示す。しかしながら、PADI規準は地域の法律や条例に優先するものではない。指導活動を行なう地域の法律や条例について、最新情報を把握している必要がある。

このマニュアルはPADIメンバー全員が使用するものであるが、コースの達成条件を除いて、インストラクターの視点で書かれている。達成条件は生徒ダイバーまたはプログラム参加者の視点で書かれており、デモンストレーションしなければならないことを具体的に説明している。

最初に上を目指す努力、ということに精通する。これには、インストラクターの信条、PADIメンバーの行動規範とコース・リーダーとしての義務が含まれる。このセクションでは、ダイバーの安全性と責任とリスク・マネジメントなど、プロとしての責任の実行について概説している。最初にこれを読み、その後も頻繁に読むこと。

次に「一般規準と手続き」を見て、それから、各コースに定められている個別の規準を確認する。PADI *Instructor Manual*の内容と、記載されている情報の効率的な探し方は次の通りである。

一般規準と手続き

個々のコース・ガイドで別途に指定されている場合を除き、「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準は、すべてのPADIコースおよびプログラムに適用される。個々のコース・ガイドには「一般規準と手続きガイド」の規準は記載されていないため、まずその内容を理解する必要がある。

この部分を最初に読む。「一般規準と手続きガイド」で最も重要なのは、**すべての**PADIコースおよびプログラムに適用される総合規準が規定されているという点である。コースまたはプログラム用の個々のガイドに規準が明記されていない場合には、「一般規準と手続きガイド」の規準が適用される。このガイドは2つのセクションに分かれている：

- **トレーニング規準** - このセクションには、使用されている用語の定義と、マニュアル全体に適用される主なコンセプトがリストされている。監督、教材、必要器材、他団体からダイバーをPADIコースに受け入れる場合の手順などについての一般情報が記載されている。
- **書類と事務手続き** - このセクションには、PADIコースおよびプログラムの事務手続きについてインストラクターが知っていなければならない一般情報がリストされている。内容例：必要書類、認定／登録手続き、ダイバーの知識評価、クオリティ・マネジメント、事故報告書の提出、PADIコースのリンク。

コース／プログラム・ガイド

次に、個々のガイドには、様々なノンプロフェッショナルレベルのコース／プログラムの規準と、PADI Divemasterレーニングの規準が首尾一貫した形式で記載されている：

- **セクション1、コース／プログラム規準** - コース／プログラムに適用される全般的な規準。一般規準に従い、個々のガイドに記されている一般規準との違いに注意する。
- **セクション2、知識開発** - トレーニングの知識開発部分に関する規準。一般的に、ダイバーは生徒用教材を使って事前に学習して知識を習得する。インストラクターが知識開発プレゼンテーションを行なう場合には、各コース用の処方的レッスンガイドとティーチング・アウトラインを使用する。これはPADIリージョナル・ヘッドクォーター（地域のオフィス）から入手できる。
- **セクション3、限定水域ダイブ** - 限定水域トレーニングに関する規準。コースによっては、限定水域トレーニングは必修ではないが、オープンウォーターに備えるためのシミュレーションとして、練習用を実施してもよい。

- **セクション4、オープンウォーター・ダイブ** – 各オープンウォーター・ダイブの達成条件と、オープンウォーター・トレーニングに関する関連規準。

プロフェッショナル・メンバーシップ

このガイドではPADIのメンバーシップ・ステータスと資格について扱っている：

- **メンバーシップ・ステータス** – メンバーシップ・ステータスの各カテゴリーについての説明
- **Professional資格** – PADI、TecRec®、およびEFR®のプロフェッショナルレベルの前条件

このマニュアルは、一般規準とコース／プログラムの規準のみカバーしている。PADI Specialty Diver、TecRec、Freediver、Mermaid、Public Safety Diver、EFRコースの具体的な規準は、それぞれのインストラクター・ガイドに含まれている。

推奨されるトレーニング方法、コースのセッティングとトレーニングについてのアドバイス、コース理念についての背景的情報など重要な推奨事項については、PADI's *Guide to Teaching*を参照する。

ナレッジレビュー・アンサーキーとエグザムのアンサーキー、ならびにPADIコースに関連した書類は、PADIのプロサイトで入手できる。

重要 – 必ず読むこと:

インストラクターの判断

PADI規準は、世界各地で実施されるコース／プログラムの学習および達成条件を規定しているものであるため、多種多様な指導状況に適合するものでなければならない。

- 最大限度** — 人数比および深度の規準は、最大限度としてリストされている。つまり、コース／プログラムを実施するたびに、トレーニングを実施するにあたって何が適切かについて正しい判断を働かせる必要があることを意味する。様々な要素を検討してリスク評価を実施することは、プロとしてのインストラクターの責任である。水温、透視度、流れ、エントリー／エキジット、担当する各生徒ダイバーの能力、使える認定アシスタントの数、自分自身の能力と限界といったような要素を考慮して、どの程度の人数比が状況に適しているか決定し、必要であれば人数比を減らす。このリスク評価はダイビングの前に実施し、ダイビング中も状況の変化を考慮に入れてリスク評価を続行する。
- 最小限必要条件** — 逆に、コース参加前条件 – ログに記録されたダイブ本数、年齢、インストラクター資格条件などについての規準は、最小限としてリストされている。たとえば、年齢の必要条件が10歳だとしたら、それがコース／プログラムに受け入れることのできる最低年齢である。また、申し込んできた10歳児がコース／プログラムに参加する準備が整っているかどうかについて、インストラクターとして判断を働かせる必要がある。

PADI Professionalとして受けたトレーニングと経験、そして各種PADIマニュアル、参考文献、*Training Bulletins*, *Training News*, *The Undersea Journal*[®]、PADIのプロサイト、PADIリージョナル・ヘッドクォーター（地域のオフィス）のトレーニング部などPADIの様々なリソースは、最新情報を把握するのに役立つだけでなく、疑問がある場合に適切な判断を下すのに役立つ。このマニュアルは、PADI規準を確認するためのクイックリファレンスである。他のリソースと一緒に活用することで、自分とPADIコース／プロ

グラムを受ける参加者の両方にとって、ダイビング経験をできる限りベストのものにすることができるのである。

PADIの使命、果たすべき任務、目的、ゴール、PADI Worldwideグループと提携団体、PADI教育プログラムのリストについては、PADIのプロサイトおよびPADI's *Guide to Teaching*を参照。

コンテンツ

このマニュアルの使い方	1
上を目指す努力 - 責任の実行	7
PADIメンバー 行動規範	9
一般規準と手続き	14
トレーニング規準	15
主要規準	31
書類と事務手続き	39
コース/プログラム インストラクター・ガイド	50
Open Water Diver Course	50
PADI Scuba Diver Course	73
Advanced Open Water Diver Course	76
Rescue Diver Course	100
Master Scuba Diver Program	109
Divemaster Course	111
Junior Divemaster Course	132
DSD Leader インターンシップ	137
Discover Scuba Diving Program	142
Bubblemaker Program	149
PADI Seal Team Program	152
ReActivate Program	161
Discover Local Diving Program	166
Advanced Snorkeler (Skin Diver) Course	169
プロフェッショナル・メンバーシップ	174
メンバーシップ・ステータス	175
PADI Professional 資格	178

上を目指す努力- 責任の実行

セクション



PADI

PADI Professionalの信条

私はPADI Professionalとして、様々な心の変化を目の当たりにすることができる：

- 恐怖が勇気になる
- 臆病な心が達成感に変化する
- 気の弱さが自信に変貌する
- 漠然とした期待が情熱へと高まる

私はPADI Professionalとして：

- 自然界の創造物の隠れた美しさと、それを守らなければならない人間としての責任に対し、人の心と精神を開くことができる
- 人の自負心を育むことができる
- 個性や整合性の価値を教えることができる
- 人に影響を与え、その人生を永遠により良い方向へ変えることができる

**「我々は得ることで生計を立て、
与えることで人生を豊かにする。」**

- Winston Churchill

PADIメンバー

行動規範

PADI Professionalは、人にスクーバ・ダイビングを教え、水中世界へ導くという爽り多い有意義な役割を担っている。人生を良い方向へ変えることができ、大半の人がおそらく一生の間に一度も楽しむ機会がないであろう様々なことを経験するチャンスがある。そして、そのような機会を享受するにあたっては、生徒ダイバーやお客様など、水中世界への道を求めてPADI Professionalのところへやってくるすべての人に対する極めて重要な責任がある。それは、他者の安全に対する責任である。

PADIメンバーは以下の各項目に同意するものとする：

1. **お客様と生徒ダイバーの安全を最優先し、自分の責任とする。** それにあたっては、PADI *Instructor Manual*, PADI's *Guide to Teaching, Training Bulletin, Training News* および各種アップデートの規定に従い、PADI規準と手続きの必要条件とその意図を遵守する一方で、実施するすべてのPADIコースおよびプログラムにおいて、可能な限りベストの判断を働かせる。
2. **安全ルールに従っていれば、スクーバ・ダイビングは適度に安全な活動であるが、スクーバ・ダイビングに伴う危険／結果は、極めて重大な事故に結びつく可能性がある。** 常に安全を心がけ、プロフェッショナルとしての指導と監督を実践する。
3. **指導するときやダイバーを先導するときには、自分自身の準備が整っているかどうか、事前に自己評価を行なう。** 自分の健康状態をチェックし、ダイビングができる体調かどうか判断することに加えて、その日その場所でダイバーをしっかり監督し、緊急事態に対応できるかどうかも確認する。
 - a. **個人の能力 - ダイビングのプロフェッショナルの身体能力と健康状態は人によって異なる。** 緊急事態に対応できるかどうかも含めて、ダイバーを先導し監督することに対する自分自身の能力と限界を認識しなければ

ならない。個人の能力は時間と共に変化する。自己評価を行なって、必要であれば、体力、スタミナ、聴力、視力などの低下に応じた対策を講じる必要がある。自分自身の限界を考慮に入れてダイブプランと緊急時のアクションプランを十分に検討し、ダイバーや自分自身に危険が生じることを回避するために必要と思われるなら、認定アシスタントを使う、良好なコンディションであることを確認した上でダイビングする、人数比を減らすなど慎重な対策を取る。

- b. **ダイブサイト** – ダイビングのコンディションと環境を評価し、そこで指導活動を行ったりダイバーを先導したりする心構えができていのかどうか、自分自身その場所に十分に精通しているかどうかを判断する。
 - c. **知識** – 指導活動を行ったりダイバーを先導したりすることに対する自分自身の知識についても評価し、PADIプログラムの規準、最新情報、指導ツールに精通していることを確認する。また、担当する生徒ダイバーの準備態勢と能力についても、きちんと把握していることを確認する。
 - d. **自信** – プロとしての役割を担う十分な資格はあるものの、PADI Divemaster, Assistant Instructor、あるいはInstructorになりたての場合には、経験のあるPADI Professionalから指導やアドバイスを受ける、チームを組んで教える、あるいは教え方を観察することで、リーダーシップスキルや自信をさらに培うことができる。**認定を受けたばかりのプロフェッショナルとして、適度に慎重な判断をしなければならない。**また、リーダーとしての活動からしばらく遠ざかっていた場合にも、経験のあるPADI Professionalに協力してもらうことは、リーダーシップスキルと自信を取り戻すのに役立つ。
- 4. 指導にあたっては、繰り返しはマスターと長期的なスキルの維持のために重要である。様々なコンディションで基本的なスキルと呼吸のコントロールの習得には、時間と練習が必要である。この学習プロセスを適切に導くことにより、指導し監督する生徒ダイバーを手助けしなければならない。**

5. 精神状態や落ち着きのレベルは人によって様々であり、同じグループのダイバー同士でも大きく異なる。グループまたは個別のダイバーの状況によっては、安全を期して、いかなるときでもダイビングを中止することをためらってはならない。
6. ダイバーのストレスと不安の徴候に注意し、気付いたら素早く適切に対応する
7. 水中では効果的なグループコントロール方法を用いる。特に、初心者や子供を監督しているときには、頻繁に人数を数える。
8. 自分自身の行動やPADI関連の活動においては、常にプロフェッショナルらしい態度で対処する。
9. ティーチング・ステータスのInstructorのみ、PADI Instructorと称することができる。あなたのPADIオフィスから通知を受け取った後、あなたはそのコースのみ開催できる。例えば、あなたはそのスペシャルティ・コースを開催するには、PADI Specialty Instructor認定を受けていなくてはならない。
10. 指導および監督活動を実施している際には、PADI安全潜水実施了解声明書の意図を遵守する。
11. 世代を問わず、民族、性別、宗教、身体障害、性的嗜好にかかわらず、生徒ダイバーとダイビング活動に関わるすべての人々を敬意を持って扱う。
12. PADI組織、PADIメンバー、その他のダイビング業界のプロフェッショナルの名誉を傷つけてはならない。
13. PADI関連の活動において、良識ある誠実さを示さなければならない。
14. PADIによる正式な調査に対しては、問い合わせ等に対応するなど、全面的に協力しなければならない。
15. PADI Scuba Diver や Junior Diver など、制限付きのPADI認定カードに表示されている深度および監督上の制限事項を遵守する。

16. 子供の指導や監督を行う際は、厳格な行動規範「PADIメンバー・ユース・リーダーの義務」に規定されている必要条件を遵守し、その意図に従い行動しなければならない。
17. すべてのPADI関連活動において、環境保護に向けてプロフェッショナルとしての行動規範に従い、AWAREの「海を守るためにできる10のこと」に規定されているルールとその意図を遵守する。(padiaware.org.参照)
18. PADIメンバー資格を受けてから、またはそれ以前に未成年者虐待に関わる刑事上の有罪判決を受けたことがある場合には、PADIメンバー資格の拒否または打ち切りの根拠となる。
19. PADIのメンバー資格を受けてから、またはそれ以前に成人の性的虐待に関わる刑事上の有罪判決を受けたことがある場合には、PADIメンバー資格の拒否または打ち切りの根拠となる。
20. PADI、TecRec[®]、およびEFRとして広告したものの代わりとして、他のコースやプログラムを実施してはならない。
21. スキューバを使用する認定を受けていないダイバーを限定オープンウォーターまたはオープンウォーターに連れて行ってはならない。ただし、ISO要件を満たす公認の体験スクューバプログラムまたはエントリーレベルのダイバー認定コースに参加する場合はこの限りではない。

行動規範に違反すると、PADIメンバー資格を喪失する場合がある。

ユース・リーダーの義務

1. 児童の健康、安全、安危に注意する。
2. すべての指導活動において、適切な監督を行なう。
3. 可能な限り、児童の親または保護者に会い、プログラムの目的や目標について話し合う。
4. 進み具合などについて、できる限り頻繁に口頭で報告することによって、親または保護者にも関わりを持たせ、情報を伝えておく。
5. 年齢、人種、性別、宗教に関わらず、児童、親、保護者には敬意を持って対応する。
6. 児童に約束したことは守る。
7. しつけ上の問題がある場合には、親または保護者と話し合う。
8. 児童との不適切な接触をしてはならない。
9. 児童のプライバシーを尊重し、健康や安全が脅かされる場合にのみ介入する。
10. 可能な限り、2人の大人が児童と一緒にいるようにする。

一般規準と手続き



トレーニング規準

記載されている以下の定義、説明、および必要条件是、本マニュアルに適用され、全体にわたって使用されている。

アルティチュード・ダイブ

アルティチュード・ダイビングとは、海拔300～3,000メートル／1,000～10,000フィートに位置するダイビング・ポイントで実施されるダイブのことを言う。

浮上速度

最大浮上速度は、1分間に18メートル／60フィート、またはダイバーの使用するコンピューターが許容する最大浮上速度のどちらか遅い方である。アルティチュード(300メートル／1000フィート以上)やドライスーツでのダイビングでの最大浮上速度は、1分間に9メートル／30フィートである。すべてのダイビングにおいて、深度5メートルで3分間の安全停止をすることが推奨される。

オープンウォーター・ダイブ参加準備態勢評価

継続教育コースおよびOpen Water Diver委託紹介対象

オープンウォーター・ダイブに備えて、オープンウォーター・ダイブのスキル練習を開始する前に、ダイバーのスキルと水中での落ち着きのレベルを評価し、さらにダイビングに関する知識を全般的に評価する。この評価には、ダイバーがすでに使用する資格を持っている、プログラム中に使用する特殊器材(ドライスーツ、フルフェイス・マスクなど)の使用も含まなければならない。オープンウォーター・ダイブに参加する準備態勢が整っていないと判断される場合には、トレーニングを続行する前に補習を行なう。

そのダイバーと一緒に最近潜ったことがあり、ダイバーの現在の知識レベル、水中スキル、落ち着きの程度を知っている場合には、それを判断材料として用いることができる。

Assistant Instructor (アシスタント・インストラクター)

Assistant Instructorとは、ティーチング・ステータスのPADI Assistant Instructorのことを言う。

認定アシスタント

認定アシスタントとは、ティーチング・ステータスのPADI Instructor、PADI Assistant Instructor、またはアクティブ・ステータスのPADI Divemasterのことを言う。

限定水域ダイブ

限定水域とは、水泳用プールまたは限定オープンウォーターを指す一般的な用語である。

限定オープンウォーターとは、透視度、穏やかさ、深さの点で、水泳用プールに似たコンディションのオープンウォーター・ポイントのことを言う。浅い場所と、生徒ダイバーがすべてのスキル達成条件を満たせる深さの場所の両方がある。

ダイビング・ポイントのコンディションによっては、「プールに似た」という条件を満たしている日もあれば、満たしていない場合もあるため、ダイブを開始する前に、限定オープンウォーターのコンディションを慎重に評価する必要がある。

深度が浅すぎて、深場で行なう限定水域ダイブスキルを実施できない場合には、まず、足がつかない深度が必要なスキルを、浅場で順序通りに紹介し、オープンウォーター・ダイブの前に達成条件を満たせる深度がある限定水域が使えるときに、深場のスキルを順序通りに繰り返すことで達成条件を満たすことができる。

必要条件

限定オープンウォーターダイブとオープンウォーター・ダイブを組み合わせて行なうことはできない。 限定オープンウォーターダイブ後、生徒ダイバーをいったん水から上げて器材を外させ、それから改めてオープンウォーター・ダイブを開始する。

例外: Discover Scuba® Diving参加者とPADI Scuba Diver/Open Water Diverの生徒は、水から上がらずに限定水域ダイブ1からオープンウォーター・ダイブ1へ直接進むことができる。

ディープ・ダイブ

ディープ・ダイブは、18～30メートル／60～100フィートの間の深度で実施される。

例外: Deep DiverやTecRecコースなど一部のコースには、これより深い深度が認められている。

障害

身体的な障害とは、通常の達成条件を妨げる物理的な障害、もしくは精神的な障害として定義されている。スキルの達成条件を満たすことが困難な場合は、インストラクターはアダプティブ・テクニックを提案し、ダイブスキルと理論を障害者が達成できるよう配慮を持った支援、行動が必要である。

障害を持った人に許可されることは:

1. 医師の承諾を得た後、スクーバ・トレーニングに参加することができる。
2. 認定条件をすべて満たされれば、そのコースの認定は受けられる。
3. 達成条件が満たされなければ資格を得られないが、ダイバー・トレーニングに参加し続けることはできる。

リーダーシップレベル

コース開始前に:

1. 監督または意思疎通能力に影響を及ぼす可能性のある障害を持っているダイバーに対し、個々の状況に応じて認定後付加条項が提示される場合があることを伝える
2. 追加条件については、PADIトレーニング部に連絡し、書面による確認を受ける。

Divemaster (ダイブマスター)

Divemasterとは、アクティブ・ステータスのPADI Divemasterを言う。

PADIプログラムにおけるドライスーツの使用

PADIコースやプログラム中にドライスーツを使用するためには、生徒ダイバー/参加者は以下のいずれかを満たさなければならない。

- PADI Dry Suit Diverスペシャルティ・コースに参加している
- PADI Dry Suit Diver認定（または他の指導機関による認定）を受けている
- トレーニング中に使用される地域のコンディションと同等のコンディションで、ドライスーツで少なくとも4回のダイビングを行った証明を提出する。
- PADI Dry Suit Specialty Instructorによるドライスーツ・オリエンテーションとDry Suit Adventure Dive*をコース/プログラム開始前に修了する。(Advanced Open Water Diver Course Instructor GuideのDry Suit Adventure Diveの必須条件を参照)。このオプションを選択する場合、すべてのコース/プログラムダイブにおいて：
 - ダイバーは、PADI Dry Suit Specialty Instructorまたは認定アシスタントの直接的監督を受けなければならない。認定アシスタントとダイバーの最大人数比は1:2。
 - 最大潜水深度は30メートル/100フィート。
 - 18メートル／60フィートより深いダイブでは、PADI Dry Suit Specialty Instructorが最大1:4の人数比で直接的監督する必要がある。

注意：ダイバーは、他の選択肢のいずれかを満たすまで、その後のコース/プログラムにおいてこのオプションを繰り返す必要がある場合がある。

*例外：Open Water Diver コースの生徒は Dry Suit Adventure Dive を修了する必要はない。Open Water Diver Course Instructor Guide の「器材」にあるドライスーツの使用オプションを参照。

例外：PADI Dry Suit Specialty Instructorによる直接的監督のもと、ドライスーツの使用方法を試したり学んだりする場合のプールまたは限定水域での体験。

ドライスーツ・オリエンテーション

限定水域オリエンテーションが終了するまでに、生徒ダイバーは以下のことができるようになる：

- ドライスーツの着方と脱ぎ方（必要な場合のみ助けを借りる）。

- ドライスーツ、インナー (必要な場合)、フル器材を装着して、水面で浮力チェックを行なう。
- 中性浮力をデモンストレーションする。息を吸ったり吐いたりしながら、1分間コントロールされた形で身体をゆっくりと上下させる。
- キックしたり手を使ったりしないで、浮力コントロールだけで1分間以上水底近くでホバリングする。
- 水中で、ドライスーツの給気バルブから中圧ホースを外し、再び接続する。
- 水底から1分間に9メートル／30フィートを超えない速度で中性浮力を維持しながら浮上する。
- 足に余分なガスがたまっている状態から体勢を戻すテクニックをデモンストレーションする。
- 水面で、スクーバユニットとウエイト・システムの両方を脱着する。

eLearning®

PADI eLearning®は、多くのPADIコースおよびプログラムで利用できるオンラインの学習ツールである。PADI eLearningプログラムを修了したダイバーは、知識開発の必要条件をすべて、またはその大半を満たしたと見なされ、インストラクターによるクイックレビューを受ける場合もある。eレコードは必要条件が満たされていることを証明するものであり、最後の知識開発セクション終了後有効期間は1年間。生徒ダイバーは引き続きeLearningへのアクセスができ、セクションの見直し/復習が可能である。

13歳以下の子供は、eLearningの登録と支払いには保護者の同意が必要。

器材

ダイバー用標準器材

ダイバーは少なくとも以下の器材を装備する：

注意：リブリーザーの使用とサイドマウントの使用を参照する。

1. フィン、マスク、スノーケル

2. 圧縮ガス・シリンダーとバルブ
3. シリンダーマウントまたはセパレート式バックパック付き浮力調節具 (BCD)、またはサイドマウント・ダイビング用にコンフィグレーションされたハーネス、およびパワー・インフレーター
4. メインのレギュレーターと予備の空気源
5. 残圧をモニターする計器 (例: 残圧計)
6. 深度を測定する計器
7. クイックリリース式ウエイト・システムおよびウエイト (中性浮力をとるのに必要、またはスキル練習に必要な場合)
8. 地域のダイブのコンディションに適した保護スーツ
 - a. ドライスーツは、レギュレーターから専用の中圧インフレーターホース、またはドライスーツ専用のインフレーター・システムを使用する必要がある。
9. 音のでる緊急用水面シグナル器材 (ホイッスル、エアホーンなど) 少なくともひとつ
10. ダイブ・コンピューターもしくはRDP (eRDP_{ML}[™]またはテーブル)

注意: 本ガイドのPADIプログラムにおけるドライスーツの使用を参照。

注意: ダイバーがRDPを使って計画をする場合、生徒ダイバーは時間をモニターするデバイスを持っていなければならない。

コース中に器材を使うことで、ダイバーに慣れさせる。

リブリーザーの使用

- PADI Rebreather, Advanced Rebreather、およびTec CCRコースでは、生徒ダイバーと資格のあるインストラクターが、登録認証されたリブリーザーを使用する必要がある。必要条件に関しては、関連するインストラクター・ガイドを参照する。
- PADI Rebreather Diverは、すべてのダイブの達成条件を満たすことができれば、コース中にリブリーザーを使用できる。

- 最大深度は、リブリーザー認定を受けている深度、またはコースの最大深度のいずれか浅い方の深さとなる。
- PADI Discover Scuba Divingプログラム, PADI Scuba Diver、Open Water Diver、Instructor Development Coursesでは、(スタッフも生徒ダイバーも)リブリーザーを使用してはならない。
- リブリーザー資格と経験を持つインストラクターと認定アシスタント (タイプRの場合は30時間と30ダイブ、タイプTの場合は50時間と50ダイブ) は、間接監督が許可されている場合は登録認証されたリブリーザー をダイビングに使うことができる。
- 直接監督が必要な場合は、リブリーザーを使用してはならない。ただし、使用している特定のユニットのPADI Rebreatherおよび/またはTec CCR Instructorである場合、リブリーザーの使用が適切かどうかを判断するリスク評価を行なったうえで使用してもよい。

サイドマウントの使用

- Sidemount Adventure Dive、PADI Sidemountコース、Tec Sidemountコースでは、生徒ダイバーと資格のあるインストラクターはサイドマウント・コンフィグレーションを使用しなくてはならない。必要条件に関しては、関連するインストラクター・ガイドを参照する。

注意: PADI Sidemount Diverコースは、PADI Open Water Diverコースと同時に教えることができる。コースリンクを参照。

- PADI Sidemount Diverは、すべてのダイブの達成条件を満たすことができれば、コース中にサイドマウント・コンフィグレーションを使用できる

インストラクターおよび認定アシスタント用標準器材

ダイバー用標準器材に加えて:

1. 時間測定計器 (時計など)
2. コンパス
3. ナイフ/ダイバー用ツール

例外: 条例等で禁止されている場合

4. 緊急用水面シグナル器材2個 – 音の出る器材1個（ホイッスル、エアホーンなど） と視認できる器材1個（シグナルフロート、照明弾、シグナルミラーなど）
5. **ダイブ・フラッグ** – 条例等で義務付けられている場合
6. **ダイブ・コンピューター**またはRDP/eRDP_{ML}の使用説明書

インストラクター

インストラクターとは、ティーチング・ステータスのPADI Open Water Scuba Instructor (またはそれ以上の資格) を言う。

ジュニア・ダイバー認定

15歳未満のダイバーは、各コースのインストラクター・ガイドに従って、ジュニア・ダイバー認定を取得することができる。**該当するインストラクター・ガイドに特別の定めのない限り、ダイブの深度を除いて、すべてのコース必要条件がジュニア・ダイバーに適用される** (本ガイドの「オープンウォーター・ダイブ」の項に規定されているジュニアを対象とする深度制限を参照)。ジュニアの認定は、成人の場合と同様に、マスタリー・ラーニングに基づく。ジュニア・ダイバー認定カードには、年齢に基づく制限が記載されている。

認定取得後、10～11歳のジュニア・ダイバーは、親、保護者、またはPADI Professionalと一緒にという制限付きで、最大深度12メートル／40フィートまで潜ることができる。12～14歳には、成人の認定ダイバーと一緒にダイビングしなければならないという制限が付く。

ログに記録されたダイブ

コースの必要条件を満たすログに記録されたダイブとしてカウントするには、オープンウォーターで行なわれたもので、ダイブに関するデータ(日付、時間、場所、深度、プロフィールなど)が記録されていないと見なされる。PADIコースのトレーニング・ダイブ(オープンウォーターで実施されたもの)は、ログに記録されたダイブと見なされる。

マスタリー・ラーニング

PADIコース／プログラムは達成ベースである。認定は、生徒がコースの知識とスキルの達成条件をすべてマスターしたことを表す。

知識開発でのマスタリーとは、「事務手続き」にリストされている知識評価の必要条件を満たしている事と定義される。(テクニカル・ダイビング・コースのマスタリーの特定の条件は、TecRec Instructor Guideを参照)

限定水域およびオープンウォーター・ダイブでのマスタリーとは、その認定レベルのダイバーに要求されるような適度に余裕があって、スムーズな動作で達成条件を満たしている形で、スキルを繰り返しやって見せることができる事。

教材

ダイバー

生徒ダイバー／候補生が理解する言語に翻訳されたものがない場合を除いて、少なくともコースマニュアルとスレート(印刷物、デジタルバージョン)を含めて、各生徒ダイバー／候補生が最新版のPADI教材を所有し、コース中の学習とコース後の参考用に使用する。生徒ダイバーはログブックを所有する。(紙版かデジタル)

PADI eLearning[®]は、プログラム／コースマニュアルとビデオ教材の必要条件を満たしている。

インストラクター

すべてのPADIコースおよびプログラムでは、PADI *Instructor Manual*, PADI's *Guide to Teaching*とPADIダイバーレベルの教材と関連インストラクター・ガイドを使用する。推奨：関連しているインストラクター・レベルの教材を使用する。

マルチレベル・ダイブ

マルチレベル・ダイブは、eRD[®]MLを使って最も深い深度でスタートし、徐々に浅い深度へ進む。

ナイト・ダイブ

ナイト・ダイブは、一般に日没から日の出までの間に実施される。

オープンウォーター・ダイブ

オープンウォーターとは、水泳用プールと比較してかなり大きく、ダイバーが一般に経験する自然の水域に特有のコンディションを有する水域のことをいう。

この定義を満たす範囲内で、ダイビングに適した深度、ダイブプランを立てて実施する能力、水底の形状と構成、水温などに関して、自然の水域と同等のコンディションを有する場所（例、水族館の巨大な水槽、レクリエーション・ダイビング用に設計された施設など）がある。そのような特性を有する場所については、以下のPADIオープンウォーター・ダイブを実施するのに適していると見なされる：

- Discover Scuba Divingのダイブ
- PADI Scuba Diverのダイブ
- Open Water Diver コース・ダイブ 1 と 2 **ダイビング目的のために作られた場所でダイビングを行う場合は、合計で90分以上のダイブタイムを積み重ねる必要がある。**
- 参加前条件がOpen Water Diverとされているスペシャルティ・コースのダイブ

必要条件

1. コースの達成条件を満たすのに役立つ適切なオープンウォーター・ダイブ環境を選ぶ。以下の要素を考慮する：
 - a. ウォーター・コンディション - 水の動き、水温、透視度、深度、水中生物
 - b. 天候状態
 - c. ダイブの要件
 - d. 認定アシスタントの人数
 - e. 自分自身がその場所をどの程度知っているか

- f. 参加者の年齢、能力、経験、落ち着いたレベル**
- 2. 最小深度5メートル／15フィート**
 - 3. コースのインストラクター・ガイドに規定されている最大深度を超えてはならない。**
 - a. 絶対最大深度は40メートル／130フィート**
例外：インストラクター・ガイドで定義されているTecRecコース
 - b. 12～14歳のジュニア・ダイバー - 最大深度は21メートル／70フィート**
 - c. 10～11歳のジュニア・ダイバー - 最大深度は12メートル／40フィート**
 - d. 18メートル／60フィートより深いトレーニング・ダイブを計画する場合には、ダイバーのディープ・ダイビングの経験レベルを考慮に入れる。**
 - 4. レクリエーション・ダイブプランナーの限界、または生徒のダイブ・コンピューターのノンストップ・リミット（メーカーの使用説明書に記載）を超えるダイブを計画または実施してはならない。**
例外：インストラクター・ガイドで定義されているTecRecコース
 - 5. オープンウォーター・ダイブおよびDiscover Scuba Divingのエクスペリエンス・ダイブを、ケープ、カバーン、氷の下、あるいは水面へ垂直に直接浮上するのが不可能な状況で実施してはならない。**
例外：Ice, Cavern, Wreck Diverコース、認定ダイバーを対象とした特別オリエンテーション・ダイブとインストラクター・ガイドに記載されているTecRecダイバー
 - 6. オープンウォーター・ダイブ中、ダイバーは5メートル／15フィートより深い深度で時間の大半を過ごし、1,400リットル以上の圧縮空気を呼吸する、または20分以上水中にいる。**
 - 7. コースのインストラクター・ガイドに概説されているスキルを実施し、以下を行なう：**

- a. ダイビングの目的、安全、環境を大切にすることについてのブリーフィング
 - b. 器材のセッティングとプレダイブ・セーフティ・チェック
 - c. エントリー
 - d. エキジット
 - e. ディブリーフィングと器材の片付け
 - f. ログ付け - 生徒ダイバーのログブックに署名/確認
8. オープンウォーター・ダイブは、個々のインストラクター・ガイドで指定されている場合を除き、日中の時間帯に行なう。ここでの日中とは、日の出1時間後から日没1時間前までと定義する
 9. 夜間を含めて、生徒ダイバーが1日に参加できるオープンウォーター・トレーニング・ダイブの回数は3回までとする。
 10. 2ダイブ以上のダイブを行なうアドベンチャー・ダイブやスペシャルティ・コースの達成条件を1ダイブにまとめて、1つ以上の認定クレジットを受けるようにしてはならない。
 11. ダイバーがPADI Enriched Air Diver認定を受けているか、PADI Enriched Air Diver コースに参加しているならば、トレーニングダイブでエンリッチド・エアを使用してもよい。

PADI Professional

PADI Professionalとは、更新済みのPADIメンバー (PADI Divemasterまたはそれ以上の資格) のことを言う。

参加前条件

継続教育コースには、PADI、TecRec、またはEFR認定の参加前条件が設定されている。

この一般ガイドラインに従って、知識とスキルの前評価を実施した後、他の指導団体が発行する認定を受けているダイバーをPADIコースに受け入れることができる。

参加受け入れ資格を満たす認定

1. PADI Scuba Diver — 最低2回のオープンウォーター・トレーニング・ダイブを必修とするエントリー・レベルのスクーバ認定
2. PADI Open Water Diver — 最低4回のオープンウォーター・トレーニング・ダイブを必修とするエントリー・レベルのスクーバ認定
3. PADI Adventure Diver — エントリー・レベルより上の認定 (少なくとも2種類の認定)
4. PADI Advanced Open Water Diver — エントリー・レベルより上の認定 (少なくとも2種類の認定); 20回以上のダイビング経験がログブックに記録; ディープ・ダイビングと水中ナビゲーションの経験
5. PADI Rescue Diver — ダイビング・レスキュー認定を受けていることの証明
6. EFR Primary Care - 1人での成人 CPR と一次評価、対面でのテクニックのデモンストレーションとスキルの練習が含まれている、過去 24 か月以内の CPR トレーニングの証明。
7. EFR Secondary Care - 二次評価とファーストエイド、対面でのテクニックのデモンストレーションとスキルの練習を含む、過去 24 か月以内のファーストエイド・トレーニングの証明。

人数比 - インストラクター対生徒ダイバー

人数比を決定する前に、正しい判断力を用いて、リスク評価を実施する。別途指定がなければ、下記にリストされる人数比を絶対最大人数比とする。

限定水域ダイブ

1:10 認定アシスタント1名につき、生徒ダイバー4名まで加えることができる。

10～11歳の子供がプールではなく限定オープンウォーターに参加する場合には、人数比は1:4とし、グループに入れてもよい10～11歳の子供の数は2人までとする。この人数比は、認定アシスタントを加えても増やすことはできない。

オープンウォーター・ダイブ

1. **1:8 認定アシスタント1名につき、生徒ダイバー4名まで加えることができる。**
2. **10～11歳の子供が参加する場合には、人数比は1:4とし、グループに入れてもよい10～11歳の子供の数は2人までとする。この人数比は、認定アシスタントを加えても増やすことはできない。**
3. **下記にリストするリスク評価要素に基づいて、安全とコントロールのために、必要に応じて人数比を減らす：**
 - a. **ウォーター・コンディション** - 水の動き、水温、透視度、深度、水中生物、エントリー／エキジット方法
 - b. **天候状態**
 - c. **ダイブの要件**
 - d. **認定アシスタントの人数**
 - e. **自分自身の能力、限界、そのダイビング・ポイントをどの程度よく知っているか**
 - f. **参加者の年齢、能力、経験、落ち着きのレベル**
4. **マルチレベル・トレーニングには、最も控え目なコース人数比を用いる。**
5. **認定ダイバーが未認定ダイバー（エントリー・レベルまたはDiscover Scuba Diving）、または直接監督が必要なコースに加わる場合には、認定ダイバーを人数比に数え入れ、グループ内で資格が最も低い人の生徒ダイバー／参加者人数比の範囲内に留まる。**

リスクの軽減、プロフェッショナルな判断、責任

PADIコースおよびプログラムでは、ダイバー、環境、器材、心身に関わる要素 (PADI's *Guide to Teaching*を参照) をチェックすることにより、生徒ダイバーに対してリスク評価を実施する。PADIプログラムにおいて決定を下し、判断を適用するに当たっては、常に控え目を心がけ、慎重すぎるくらい慎重になる必要がある。

ストレスや不安を最小限に抑え、水中でのパニックを防ぐようダイバーをトレーニングする。ダイバーが見せる不安やパニックの徴候に注意し、ストレスを感じて不安になっている人をいつでもサポートできるよう集中力を保つ。

常に周囲に目を配り、自分の任務に集中する。「上を目指す努力 – 責任の実行」の「PADIメンバーの行動規範」を参照。

浅い水域

足がつく浅い場所。

監督

PADIコースおよびプログラムのすべてのスクーバ・ダイビング活動の管理にあたる。

コースのインストラクター・ガイドで別途に指定されている場合を除いて、間接的監督でよい。

監督のレベル

1. **直接的監督 – 生徒ダイバーがスキルを達成できているかどうか、理論的知識を理解できているかどうか観察し、評価する。特定のコース規準またはプロフェッショナル・メンバーシップ規準で指定されている場合を除いて、この責任を認定アシスタントに代行させることはできない。**

2. 間接的監督 —

- a. **ダイビング・ポイント**:現場において管理にあたらなければならないが、必ずしもすべての活動を直接的に監督する必要はない。ダイビング活動を承認し、潜水計画、準備、器材チェック、エントリー、エキジット、ディブリーフィングを監督し、即座にエントリーできる態勢でいる。
 - b. **クラスルーム**:現場において、必要に応じて生徒のニーズに対応し、管理を引き受ける態勢を整えておく。
3. **指示の下 - コース中**、いつでもコンサルテーションを行える態勢でいなければならないが、トレーニングセッション中に必ずしも現場にいる必要はない。参加者のログブックとトレーニング・レコードに連署して、達成条件がすべて満たされていることを確認する。

水中能力評価およびスキル練習中

1. **スイミングプール** — 即座にエントリーできる態勢でいる Divemaster以上が直接監督する。
2. **限定オープンウォーターまたはオープンウォーター** — Divemaster以上が水中でフロートを使用し直接的監督をするか、すぐ傍のボートに乗っていて、即座にアシストできる態勢の Divemaster以上が直接的監督をする。

トレーニング順序

PADIコースの達成条件は、単純なものから複雑なものへと進むように設計されている。一般的に、知識とスキル開発の各部分は、前の部分に基づいている。したがって、コースのインストラクター・ガイドで別途に指定されている場合を除いて、順序通りにコースの各部分を教える必要がある。

主要規準

ダイバー年齢制限

規準の詳細については各インストラクター・ガイドを参照。また、「上を目指す努力 - 責任の実行」の「コース・リーダーの義務」を参照。

年齢 - 8歳と9歳

深度 - 最大4メートル / 12フィート (BubblemakerとPADI Seal Teamの各コース・ガイドを参照)

責任とリスク(限定水域) - プログラム / コースの前に、親 / 保護者と子供はBubblemakerまたはPADI Seal Teamの事務手続き上の書類に必要事項を記入する。

年齢 - 10歳と11歳

プール・ダイブの人数比 - 1:10 認定アシスタント1名につき、生徒ダイバー4名まで追加しても良い

限定オープンウォーターおよびオープンウォーター・ダイブの人数比 - 1:4 グループに10歳と11歳の子供は2人まで。この人数比は、認定アシスタントを加えても増やすことはできない。

深度 - 最大12メートル / 40フィート

認定後 - 親 / 保護者またはPADI Professionalと一緒に最大深度12メートル / 40フィートまで

責任とリスク(限定オープンウォーターとオープンウォーター) - コースの前に、親 / 保護者 および子供は:

- * 「子供のためのダイビング: 責任とリスク」ビデオを見る (または、「子供のためのダイビング: 責任とリスク」フリップチャートを見る)
- * 「子供のためのダイビング: 責任とリスクの承認書」を読み、署名する
- * 親 / 保護者と子供が管理フォームに署名

年齢 - 12歳から14歳

深度 - Junior Open Water Diverは最大18メートル / 60フィート 継続教育は最大21メートル / 70フィート

認定後 - 成人の認定ダイバーと一緒になければならない

責任とリスク - 親 / 保護者および子供が事務手続きの書類に署名する

年齢 - 18歳未満

責任とリスク - 親 / 保護者および子供が事務手続きの書類に署名する (法定年齢が18歳以上の国では、その年齢まで親 / 保護者が事務手続きの書類に署名する)

PADIコースおよびプログラムのまとめ

規準の詳細については各インストラクター・ガイドを参照。

コース/プログラム	最低年齢	参加前条件	最低オープンウォーター・トレーニング	人数比	最低インストラクター資格	推奨時間
Emergency First Response® Primary Care (CPR)	—	—	—	1:1:12*	EFR Instructor	4-8
Secondary Care (First Aid)	—	—	—	1:1:12*	EFR Instructor	2-4
Discover Snorkeling	—	—	Guided snorkeling	—	Divemasterあるいは Freediver Instructor	—
Advanced Snorkeler (Skin Diver)	8	—	限定水域 (<5m/15ft) (オープンウォーター・ダイブ推奨)	1:16 (1:10)	Divemasterあるいは Freediver Instructor	12
PADI Seal Team	8	—	プール (2m/6ftまで)	1:6	インストラクター	2
			プール (2m/6ftまで)	1:4	アシスタント・インストラクター (Assistant Instructor)	
			プール (2-4m/6-12ft)	1:2	InstructorあるいはAI	
バブルメーカー (Bubblemaker)	8	—	プール	1:6	インストラクター	1
			プール	1:4	アシスタント・インストラクター (Assistant Instructor)	
			限定オープンウォーター	1:4	InstructorあるいはAI	
Discover Scuba Diving	10	—	プール	1:8	InstructorあるいはAI	1-3
			プール	1:4	DSD® Leader	
			限定オープンウォーター	1:4 †	InstructorあるいはAI	
			限定オープンウォーター	1:2	DSD Leader	
			オープンウォーター - 潜降ライン	1:1	インストラクター	
			1 オープンウォーター・ダイブ	1:4 †	インストラクター	
ReActivate	10	PADI (Junior) Scuba Diver	限定水域	10:1	ダイブマスター	—
			オープンウォーター・ダイブ	1:8		
Discover Local Diving	10	PADI (Junior) Scuba Diver	1 オープンウォーター・ダイブ	—	ダイブマスター	—
PADI Scuba Diver/Junior	15/10	—	3 限定水域	10:1 †	インストラクター	19
			2 オープンウォーター・ダイブ	1:8 †		
Open Water Diver/Junior	15/10	—	5 限定水域	10:1 †	インストラクター	31
			4 オープンウォーター・ダイブ	1:8 †		
Adventure Diver/Junior	15/10	(Junior) Open Water Diver	3 オープン・ウォーター・ダイブ	1:8 †	インストラクター	9
Advanced Open Water Diver/Junior	15/12	(Junior) Open Water Diver	5 オープンウォーター・ダイブ	1:8	インストラクター	15
Rescue Diver/Junior	15/12	(Junior) Adventure Diver と Underwater Navigation Adventure Dive	オープンウォーター (10課題 / 2シナリオ)	1:8	インストラクター	25
Master Scuba Diver/Junior	15/12	(Junior) Advanced Open Water Diver, (Junior) Rescue Diver と 5種類のPADI Specialtyあるいは TecRecコース	—	—	インストラクター	—
Junior Divemaster	15	Rescue Diver	ウォータースキル、レスキュー評価、ダイブスキル、実践応用	1:8	Junior Divemaster Instructor	25

注意:人数比は良好なコンディションでのみ適用される。荒れていたり、濁りがあつたり、非常に低温の水域、その他、あらゆる状況下において生徒ダイバーの安全のため人数比を減らした方がよい。(各インストラクター・ガイドの「人数比 - インストラクター対生徒ダイバー」の項を参照)

• 候補生12名に対し、インストラクター1名とマネキン1体
† 年齢10~11歳の子供を伴うオープンウォーター・トレーニング・ダイブの場合、インストラクター対生徒ダイバーの最大人数比は1:4とする。生徒ダイバー4名のグループに入れることができる10~11歳の子供の数は2人以下とする。

PADI Specialty Diverコースのまとめ

規準の詳細については各インストラクター・ガイドを参照。

スペシャルティ・コース	最低年齢	参加前条件	最低オープンウォーター・トレーニング	人数比	最低インストラクター資格	推奨時間
Adaptive Support Diver	15	Open Water Diver または Freediver	1 限定水域 1 オープンウォーター・ワークショップ	1:9 1:6	Adaptive Techniques Specialty Instructor	10
Adaptive Techniques	18	Divemaster または Master Freediver	2 限定水域 2 オープンウォーター・ワークショップ	1:9 1:6	Adaptive Techniques Specialty Instructor	16
Altitude Diver	10	(Junior) Open Water Diver	2 オープン・ウォーター・ダイブ	1:8 †	Altitude Specialty Instructor	12
AWARE – Dive Against Debris*	10	(Junior) Open Water Diver	1 オープンウォーター・ダイブ	1:8	AWARE – Dive Against Debris* Specialty Instructor	8
AWARE – Shark Conservation Diver	12	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ	1:8	AWARE – Shark Conservation Specialty Instructor	12
Boat Diver	10	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ	1:8 †	Boat Specialty Instructor	12
Cavern Diver	18	Advanced Open Water Diver	4 オープン・ウォーター・ダイブ	1:8 1:3**	Cavern Specialty Instructor	24
Coral Reef Conservation	—	—	—	—	アシスタント・インストラ クター (Assistant Instructor)	4
Deep Diver	15	Adventure Diver	4 オープンウォーター・ダイブ	1:8	Deep Specialty Instructor	24
Delayed Surface Marker Buoy (DSMB) Diver	12	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ	1:8	DSMB Specialty Instructor	12
Digital Underwater Photographer	— 10	— (Junior) Open Water Diver	1あるいは2スノーケル・ダイブ 1あるいは2 オープンウォーター・ ダイブ	— 1:8 †	Digital Underwater Photo Specialty Instructor	12
Diver Propulsion Vehicle (DPV) Diver	12	(Junior) Open Water Diver	2 オープン・ウォーター・ダイブ	1:8	DPV Specialty Instructor	12
Drift Diver	12	(Junior) Open Water Diver	2 オープン・ウォーター・ダイブ	1:8	Drift Specialty Instructor	12
Dry Suit Diver	10	(Junior) Open Water Diver	1 限定水域 2 オープンウォーター・ダイブ	1:6 †	Dry Suit Specialty Instructor	12
Enriched Air Diver	12	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ (オプション)	1:8	Enriched Air Specialty Instructor	6 / 18 ダイブ あり
Emergency Oxygen Provider	—	—	—	1:12	Emergency Oxygen Provider Specialty Instructor	3
Equipment Specialist	10	PADI (Junior) Scuba Diver	—	—	Equipment Specialty Instructor	6
Fish Identification Diver	10	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ	1:8 †	Fish Identification Specialty Instructor	12
Full Face Mask Diver	12	(Junior) Open Water Diver	1 限定水域 2 オープンウォーター・ダイブ	1:8	Full Face Mask Specialty Instructor	15
Ice Diver	18	Advanced Open Water Diver	3 オープンウォーター・ダイブ	1:2	Ice Specialty Instructor	24

次のページに続く

PADI Specialty Diverコースのまとめ(続き)

スペシャルティ・コース	最低年齢	参加前条件	最低オープンウォーター・トレーニング	人数比	最低インストラクター資格	推奨時間
Night Diver	12	(Junior) Open Water Diver	3 オープン・ウォーター・ダイブ	1:8	Night Specialty Instructor	12
Peak Performance Buoyancy	10	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ	1:8†	アシスタント・インストラクター(Assistant Instructor)	12
PADI AWARE Specialist	—	—	—	—	Assistant InstructorもしくはPADI AWARE Specialty Instructor	4
Search & Recovery Diver	12	(Junior) Advanced Open Water Diver+	4 オープンウォーター・ダイブ	1:8	Search & Recovery Specialty Instructor	24
Self-Reliant Diver	18	Advanced Open Water Diver	3 オープンウォーター・ダイブ	1:8	Self-Reliant Specialty Instructor	24
Semiclosed Rebreather Diver (Dolphin/Atlantis)	15	Advanced Open Water Diver++ と Enriched Air Diver	3 オープン・ウォーター・ダイブ	1:6	Semiclosed Rebreather Specialty Instructor	24
Sidemount Diver	15	オープン・ウォーター・ダイバー (Open Water Diver)	3 オープン・ウォーター・ダイブ	1:8	Sidemount Specialty Instructor	12
Underwater Naturalist	10	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ	1:8†	Underwater Naturalist Specialty Instructor	12
Underwater Navigator	10	(Junior) Open Water Diver	3 オープン・ウォーター・ダイブ	1:8†	Underwater Navigation Specialty Instructor	12
Underwater Photographer	10	(Junior) Open Water Diver	2 オープンウォーター・ダイブ	1:8†	Underwater Photography Specialty Instructor	12
Underwater Videographer	10	(Junior) Open Water Diver	3 オープン・ウォーター・ダイブ	1:8†	Underwater Videography Specialty Instructor	12
Wreck Diver	15	Adventure Diver	4 オープンウォーター・ダイブ	1:8 1:2**	Wreck Specialty Instructor	24

注意:人数比は良好なコンディションでのみ適用される。荒れていたり、濁りがあつたり、非常に低温の水域、その他、あらゆる状況下において生徒ダイバーの安全のため人数比を減らした方がよい。(各インストラクター・ガイドの「人数比 - インストラクター対生徒ダイバー」の項を参照)

† 年齢10~11歳の子供を伴うオープンウォーター・トレーニング・ダイブの場合、インストラクター対生徒ダイバーの最大人数比は1:4とする。生徒ダイバー4名のグループに入れることができる10~11歳の子供の数は2人以下とする

** カバーン/レックでのベネトレーション時の人数比

+ Junior Open Water Diver, Open Water DiverとPADI Underwater Navigator認定も条件を満たす

++ Open Water Diverでログに記録されたダイブ10本以上も可

PADI Public Safety Diverコースのまとめ

規準の詳細については各インストラクター・ガイドを参照。

プログラム/コース	最低年齢	参加前条件	最低オープンウォーター・トレーニング	人数比	最低インストラクター資格	推奨時間
Public Safety Diver	18	Rescue Diver*	4 オープンウォーター・ダイブ	1:8	Public Safety Diver Instructor	30
Surface Support Specialist	18	EFRプロバイダーレベルのトレーニング**	4 水面サポート・セッション	1:8	Public Safety Diver Instructor	30
Advanced Public Safety Diver	18	Public Safety Diverと Rescue Diver	6 オープン・ウォーター・ダイブ	1:8	Advanced Public Safety Diver Instructor	36

*またはPADI Rescue Diver コースに参加済

**またはEFR Primary and Secondary Care コースに参加済

PADI Freediver™ コースのまとめ

規準の詳細については各インストラクター・ガイドを参照。

プログラム/コース	最低年齢	参加前条件	最低オープンウォーター・トレーニング	人数比	最低インストラクター資格	推奨時間
Discover Freediving	12	—	ドライおよび/あるいは 1 限定水域	1:8	Freediver Instructor	1-3
Basic Freediver	12	—	1 限定水域	1:8	Freediver Instructor	15
Freediver	12	—	1 限定水域 2 オープンウォーター	1:8* 1:4 ±**	Freediver Instructor	15
Advanced Freediver	15	Freediver	1 限定水域 2 オープンウォーター	1:8 1:4	Advanced Freediver Instructor	15
Master Freediver	18	Advanced Freediver	1 限定水域 2 オープンウォーター	1:8 1:4	Master Freediver Instructor	15

注意:人数比は良好なコンディションでのみ適用される。荒れていた、濁りがあったり、非常に低温の水域、その他、あらゆる状況下において生徒ダイバーの安全のため人数比を減らした方がよい。(各インストラクター・ガイドの「人数比 - インストラクター対生徒ダイバー」の項を参照)

* 12~14歳の最大人数比は1:6。この人数比は、認定アシスタントを加えても増やすことはできない。

± 15歳未満の生徒がいる場合、認定アシスタントを加えても人数比を増やすことはできない。

** 12~14歳の最大人数比は1:2。

PADI Mermaid コースの概要

規準の詳細については各インストラクター・ガイドを参照。

プログラム/コース	最低年齢	参加前条件	最低オープンウォーター・トレーニング	人数比	最低インストラクター資格	推奨時間
Discover Mermaid	6	—	1 限定水域	1:4***	Basic Mermaid Instructor	—
Basic Mermaid	6	—	1 限定水域	1:4***	Basic Mermaid Instructor	2
Mermaid	10	Basic Mermaid	2 限定水域	1:6 ±	Mermaid Instructor	6
Advanced Mermaid	12	Mermaid	2 限定水域 2 オープンウォーター	1:6 1:4	Mermaid Instructor	10

*** 6歳から7歳までのウォーターセッションの人数比は1:1; 8歳から9歳までのセッションの人数比は1:2

± 10歳から12歳のウォーターセッションの人数比は1:4

PADI TecRec® コースのまとめ

規準の詳細については各インストラクター・ガイドを参照。

プログラム/ コース	最低 年齢	参加前条件	最低オープンウォーター・トレ ーニング	人数 比	最低 インストラク ター資格	推奨時 間
Gas Blender	18	Enriched Air Diver	—	10:1	Gas Blender Instructor	10
Trimix Blender	18	Enriched Air Diver	—	10:1	Trimix Blender Instructor	10
Tec Basics Diver	15	Advanced Open Water Diver と Enriched Air Diver	1 限定水域 1 オープンウォーター	1:6 1:4	Tec 40 Instructor/Tec 40 Trimix Instructor**	10
Tec 40 Diver/ Tec 40 Trimix Diver	18	Advanced Open Water Diver, Enriched Air Diver, Deep Diver	1 限定水域 3 オープンウォーター	1:6 1:4	Tec 40 Instructor/Tec 40 Trimix Instructor**	18
Tec 45 Diver/ Tec 45 Trimix Diver	18	Tec 40 Diver Rescue Diver	1 限定水域 3 オープンウォーター	1:6 1:4	Tec 45 Instructor/Tec 45 Trimix Instructor**	18
Tec 50 Diver/ Tec 50 Trimix Diver	18	Tec 45 Diver Rescue Diver	1 限定水域 3 オープンウォーター	1:6 1:4	Tec 50 Instructor/Tec 50 Trimix Instructor**	18
Tec Trimix 65	18	Tec 50 Rescue Diver	5 (1限定水域/制限されたオープンウォーター、4オープンウォーター)	1:3	Tec Trimix Instructor	15
Tec Trimix	18	Tec 50 Rescue Diver	8 (1 限定水域/制限されたオープンウォーター、7 オープンウォーター)	1:3	Tec Trimix Instructor	18
Rebreather Diver	18	Open Water Diver, Enriched Air Diver	6 (1限定水域、1限定あるいはオープンウォーター、4オープンウォーター)	1:3	Rebreather Instructor+	21
Advanced Rebreather Diver	18	Open Water Diver, Rebreather Diver+	5 (1限定水域、4オープンウォーター)	1:3	Rebreather Instructor+	18
Tec Sidemount	18	Advanced Open Water Diver	5 (1限定水域/制限されたオープンウォーター、4オープンウォーター)	1:4	Tec Sidemount Instructor	18
Tec 40 CCR	18	Advanced Open Water Diver, Enriched Air Diver, Deep Diver	8 (2限定水域/制限されたオープンウォーター、6オープンウォーター)	1:3	Tec 40 CCR Instructor+	30
Tec 60 CCR	18	Tec 40 CCR+ Rescue Diver	7 (1 限定水域/制限されたオープンウォーター、6 オープンウォーター)	1:4	Tec 60 CCR Instructor+	27
Tec 100 CCR	18	Tec 60 CCR+ Rescue Diver	6 (1 限定水域/制限されたオープンウォーター、5 オープンウォーター)	1:2	Tec 100 CCR Instructor+	27

* 特定の種類のリブリーザー/CCRユニットでの認定

** 生徒がサイドマウントを使用する場合は、PADI Sidemount Instructor または Tec Sidemount Instructor が必須

PADIメンバーシップ・レベルのコースおよびプログラムのまとめ

規準の詳細については各インストラクター・ガイドを参照。

メンバーシップ・レベル	最低年齢	参加前条件	人数比	最低インストラクター資格	推奨時間
PADI Snorkel Guide	18	EFR Primary and Secondary Care トレーニング	1:8	Open Water Scuba Instructor または Freediver Instructor	16
Divemaster	18	Rescue Diver	1:8	オープン・ウォーター・スクーバ・インストラクター (Open Water Scuba Instructor)	50
EFR Instructor	18	EFRプロバイダーレベルのトレーニング	1:1:12*	EFR Instructor Trainer	16
DSD Leader	18	ダイブマスター	—	Open Water Scuba Instructor	—
Assistant Instructor	18	ダイブマスター	1:8	IDC Staff Instructor	40
Open Water Scuba Instructor	18	ダイブマスター	1:8	Course Director	90
Specialty Instructor	18	アシスタント・インストラクター (Assistant Instructor)	—	Course Director*	—
Master Scuba Diver Trainer (MSDT)	18	Instructorと5種類のPADI Specialty Instructor 資格**	—	*	—
Gas Blender Instructor	18	Instructor, Enriched Air Specialty Instructor 資格とGas Blender	—	Gas Blender Instructor Trainer	—
Trimix Blender Instructor	18	Instructor, Enriched Air Specialty Instructor 資格とTrimix Blender	—	Trimix Blender Instructor Trainer	—
Rebreather Instructor	18	Instructor, Enriched Air とDeep Specialty Instructor 資格 Advanced Rebreather Diver+	—	Rebreather Instructor Trainer	—
Tec Sidemount Instructor	18	Instructor, Enriched Air とDeep Specialty Instructor 資格,	—	Tec Sidemount Instructor Trainer	—
Tec 40 Instructor/Tec 40 Trimix Instructor	18	Instructor, Enriched Air とDeep Specialty Instructor 資格 Tec 45 Diver	—	Tec 50 Instructor Trainer/Tec 50 Trimix Instructor Trainer	—
Tec 45 Instructor/Tec 45 Trimix Instructor	18	Instructor, Enriched Air とDeep Specialty Instructor 資格 Tec 45 Diver	—	Tec 50 Instructor Trainer/Tec 50 Trimix Instructor Trainer	—
Tec 50 Instructor/Tec 50 Trimix Instructor	18	Instructor, Enriched Air とDeep Specialty Instructor 資格 Tec 50 Diver	—	Tec 50 Instructor Trainer/Tec 50 Trimix Instructor Trainer	—
Tec Trimix Instructor	18	MSDT と Tec 50/Tec 50 Trimix Instructor 資格	—	Tec Trimix Instructor Trainer	—
Tec 40 CCR Instructor	18	MSDT, Enriched Air とDeep Specialty Instructor 資格; Tec 40 CCR Diver+	—	Tec 40 CCR Instructor Trainer+	—
Tec 60 CCR Instructor	18	Tec 40 CCR Instructor+ と Tec 60 CCR Diver+	—	Tec 60 CCR Instructor Trainer+	—
Tec 100 CCR Instructor	18	Tec 60 CCR Instructor+ と Tec 100 CCR Diver+	—	Tec 100 CCR Instructor Trainer+	—
Freediver Instructor	18	Master Freediver (経験のあるAdvanced Freediver)	—	Freediver Instructor Trainer	—
Advanced Freediver Instructor	18	講習経験のあるFreediver Instructor	—	*	—
Master Freediver Instructor	18	講習経験のあるAdvanced Freediver Instructor	—	*	—
Basic Mermaid Instructor	18	Advanced Mermaid	—	Mermaid Instructor	—
Mermaid Instructor	18	Advanced Mermaid	1:4	Mermaid Instructor Trainer	—
IDC Staff Instructor	18	Master Scuba Diver Trainer	—	Course Director	18
Master Instructor	20	IDC Staff Instructor と EFR Instructor	—	*	—
PADI Alumni	18	Divemaster, Assistant Instructorあるいは Instructor	—	*	—

* 候補生12名に対し、インストラクター1名とマネキン1体

* 直接申請での承認、あるいはPADIオフィスによるトレーニング終了

+ 特定の種類のリブリーザー/CCRユニットでの認定

** Peak Performance Buoyancy, PADI AWARE, Coral Conservation Specialty Instructorの資格は含まれない。PADI Freediver Instructor資格が一つだけクレジット可能。

PADI Instructor Trainerコースおよびプログラムのまとめ 規準の詳細については各インストラクター・ガイドを参照。

メンバーシップ・レベル	最低年齢	参加前条件	人数比	最低インストラクター資格	推奨時間
Course Director	21	Master InstructorとEFR Instructor Trainer	—	*	—
Specialty Instructor Trainer	20	Course DirectorとSpecialty Instructor	—	*	—
EFR Instructor Trainer	18	講習経験のあるEFR Instructor	1:1:12*	*	8
Freediver Instructor Trainer	20	Course Directorと／あるいはMaster Freediver Instructor	—	*	—
Mermaid Instructor Trainer	18	十分な経験のあるMermaid InstructorまたはFreediver Instructor TrainerまたはCourse Director	—	*	—
Public Safety Diver Instructor Trainer	18	Course Director, Public Safety Diver Instructor, Full Face Mask Instructor Trainer, Dry Suit Instructor Trainer, EFR Instructor Trainer	—	*	—
Advanced Public Safety Diver Instructor Trainer	18	Public Safety Diver Instructor Trainer, Advanced Public Safety Diver Instructor, EFR Instructor Trainer	—	*	—
Gas Blender Instructor Trainer	20	Course Director/TecRec Instructor TrainerとGas Blender Instructor	—	*	—
Trimix Blender Instructor Trainer	20	Course Director/TecRec Instructor TrainerとTrimix Blender Instructor	—	*	—
Rebreather Instructor Trainer	20	Course Director/TecRec Instructor TrainerとRebreather Instructor+	—	*	—
Tec Sidemount Instructor Trainer	20	Course Director/TecRec Instructor TrainerとTec Sidemount Instructor	—	*	—
Tec 50 Instructor Trainer/ Tec 50 Trimix Instructor Trainer	20	Course Director/TecRec Instructor Trainerと／またはTec 50 Instructor/ Tec 50 Trimix Instructor	—	*	—
Tec Trimix Instructor Trainer	21	Tec 50 Instructor Trainer/ Tec 50 Trimix Instructor TrainerととTec Trimix Instructor	—	*	—
Tec 40 CCR Instructor Trainer	20	Course Director/TecRec Instructor TrainerとTec 40 CCR Instructor+	—	*	—
Tec 60 CCR Instructor Trainer	20	Course Director/TecRec Instructor Trainer, Tec 40 CCR Instructor TrainerとTec 60 CCR Instructor+	—	*	—
Tec 100 CCR Instructor Trainer	20	Course DirectorまたはTecRec Instructor Trainer, Tec 60 CCR Instructor TrainerとTec 100 CCR Instructor+	—	*	—

* 直接申請での承認、あるいはPADIオフィスによるトレーニング修了

• 候補生12名に対し、インストラクター1名とマネキン1体

+ 特定の種類のリブリーザー／CCRユニットでの認定

書類と事務手続き

認定

コースの知識とスキルの達成条件をすべてマスターしたことをデモンストレーションし、他のコース必要条件をすべて満たしたダイバーは、認定証(顔写真付き証明書 - PIC/eCard)取得することができる。**ダイバーは自分で責任を持って、受けたトレーニングと経験の範囲内でダイビングしなければならないことを強調して伝える。**

最後のオープンウォーター・ダイブで達成条件を確認、またはダイブを伴わないコースは最後の達成条件を確認したインストラクターが認定を行なう。生徒ダイバーがすべてのコース必要条件を満たしてから7日以内に:

1. 認定を登録 (オンライン* 登録または PIC 封筒の提出)または適切な申請書を PADI オフィスに提出する。クオリティ・マネージメントを目的とした、生徒ダイバー／候補生や参加者の正確な連絡先情報が含まれる。

例外: 生徒ダイバー側の事情で遅れが生じた場合。

* PADI Rebreather DiverコースとTec CCRコースはPICオンラインのみで提出できる。

2. テンポラリー・カードまたは認定カードのいずれかを生徒ダイバーに発行する。

認定証は、生徒ダイバーがコースの達成条件と承諾済みの支払い条件を満たした場合にのみ発行する。個人的な争い事の解決手段として認定を保留してはならない。

書類作成

1. コース開始時に(水中活動を始める前に)、生徒ダイバーは以下の各書類を読み、必要事項を記入し、署名する - すべての書類でフルネーム(本名)を使用すること:

- 免責同意書 (10072) (日本の場合はPADIコースの危険の告知書) 欧州連合の場合は、EUリスクと責任に関する同意書 (10175) (「非代理人の公開および確認の同意書」を含む)
- PADI安全潜水実施了解声明書
- ダイバーメディカル

例外:水中活動を伴わないコース、一部の継続教育コース(項目2に記載のコース)、および専用の書類があるプログラム(ディスカバー/エクスペリエンス/TecRecプログラムなど)。Open Water Diverコースのダイブ4と同じ日に修了したアドベンチャー・ダイブは、Open Water Diverコースの書類でカバーされる。

健康上の適性

1. ダイバーメディカル/参加者チェックシート、1ページ目の質問項目3, 5, 10のいずれかに「はい」と答えた場合には、水中活動の前条件として、医師から文書による許可を得なければならない。
2. ダイバーメディカル/参加者チェックシート、1ページ目の質問項目1, 2, 4, 6, 7, 8, 9のいずれかに「Yes」と答えた場合には、参加者/生徒は2ページ目の質問項目に回答する必要がある。ダイバーメディカル/参加者チェックシート、2ページ目の質問項目のいずれかに「はい」と答えた場合には、水中活動の前条件として、医師から文書による許可を得なければならない。
3. 医師が指摘した制限や条件はあってはならない(深度、水温など)
4. 医師からの文書による許可の有効期限は1年間。

例外:ダイビングに関する健康関連の条件は国によって異なるため、所属のPADIオフィスに問い合わせること。

5. 文書による許可に署名する医師が生徒本人であってはならない。
6. 生徒ダイバーがPADIコース参加中に病気になったりケガをしたりした場合には、その後の水中活動を始める前に、あらためてダイバーメディカル/参加者チェックシートに記入してもらう。医学的状態が変わったことで、新しい項目に「はい」が記入されることになったかどうか確認する。新しい項目に「はい」が記入された場合には、水中トレーニングを再開する前に、医師からダイビングしてもよいという許可を得なければならない。

2. Adventure Diver、Advanced Open Water Diver、Rescue Diver、Master Scuba Diver、Specialty Diver およびプロレベル・コースは、継続教育専用書式とダイバーメディカル／参加者チェックシートを使用する。これらの書式は、同じインストラクター、ダイブセンター、またはリゾートで12か月以内に受講する複数の継続教育コースに適用される。
3. 生徒ダイバーがエンリッチド・エア (EANx) を使用する場合、その生徒は Enriched Air (Nitrox) Diver Training 書式 (10078J または 71876EU) に記入し、署名する。
4. 18歳未満の場合は、親／保護者と子供の両者が必要書類に署名しなければならない。

例外：法定年齢が18歳以上の国では、その年齢まで親／保護者が必要書類に署名する。

5. 10～11歳の子供については、親／保護者と子供に「子供のためのダイビング：責任とリスク」ビデオを見せ（または「子供のためのダイビング：責任とリスク」フリップチャート）、「子供のためのダイビング：責任とリスクの承認書」を読んで、限定水域やオープンウォーターに行く前に署名してもらう。
6. 生徒ダイバーはオープンウォーター・ダイブをログに記録する。ダイバーの紙のログブックに署名するか、ダイバーのデジタル・ログブックでダイブを確認する。
7. 各生徒ダイバー／参加者のトレーニング修了記録を、法律の定める年数または7年間のどちらか長いほうに従って保管する。
8. 12ヶ月以上のトレーニングの中断の後、生徒ダイバーに新しい管理書類を作成させる。

書式(フォーム)

最新の書式をPADIプロサイトからダウンロードすること。各地域固有の免責同意書、申請書、書式については、所属PADIオフィスに確認する。下記の書式はPADIコースおよびプログラムに一般的に適用されるものである。各インストラクター・ガイドに、それぞれの必

要書式と推奨書式がリストされている。PADI OLPC (オンライン・プロセッシング・センター) を通じて、生徒ダイバーにデジタル書式を送り、生徒ダイバーがそれを完了し、署名したものを送ることができることに注意する。

- Cカード再発行申請書 (10225J)
- Release of Liability/Assumption of Risk/Non-agency Acknowledgment Form – ダイバーアクティビティ (10086J または 10651EU)
- 継続教育専用書式 (10038J または 10541EU)
- ダイビング事故報告書 (10120J)
- Release of Liability/Assumption of Risk/Non-agency Acknowledgment Form – 免責同意書 (10072J または 10175EU)
- ダイバーメディカル／参加者チェックシート (10346J)
- Never Received Card Form (10226)
- クオリティ・アシュアランス情報書式 (10117J)
- PADI安全潜水実施了解声明書 (10060J)
- トレーニング修了記録 (10234J)
- ウォータースキル・チェック・リスト (10081J)
- 子供のためのダイビング: 責任とリスクの承認書 (10615J)
- 子供のためのダイビング: 責任とリスクフリップチャート (79130J)

追加書式

- Release of Liability/Assumption of Risk/Non-agency Acknowledgment Form – Equipment Rental Agreement (10087)
- Release of Liability/Assumption of Risk/Non-agency Acknowledgment Form – Special Event (10085)
- Release of Liability/Assumption of Risk/Non-agency Acknowledgment Form – Travel and Excursions (10079)

ダイビング事故報告書

ダイビング事故を目撃した場合、あるいは本人が事故に関わった場合には、水中で起きたものか、陸上で起きたものか、トレーニング関連か、レクリエーションか、テクニカルかにかかわらず、また、見たところ大したことではないように思われるものであっても、ダイビング関連の事件／事故を目撃した場合、あるいは関わった場合には、ただちにPADI事故報告書をPADIオフィスへ提出する。

知識開発評価

1. 生徒ダイバーはコースのナレッジレビューを修了する。
2. インストラクター（または認定アシスタント）の監督の下で、生徒ダイバーは本を閉じてクイズとエグザムを受ける。

例外：PADI eLearning教材のクイズとエグザムはオンラインで受ける。認定には、いくつかの時点で本を閉じてエグザムを行なうデジタル学習者用にクイックレビューを適用し、管理をする。

3. 口頭によるエグザムは、以下の場合にのみ許可される：
 - エグザムが生徒ダイバーに理解できる言語に翻訳されていない。
 - 生徒ダイバーに学習障害があり、医師や精神分析医などからその診断書を受けている。
4. 答えを間違えたナレッジレビュー、クイズ、エグザム、およびeLearningクイックレビューの問題について、生徒ダイバーが内容を理解するまで復習する。クイズ、エグザム、またはクイックレビューで点数が75%に満たなかった生徒ダイバーには、再テストを行なう。PADI eLearnerの再テストには、そのコースのファイナル・エグザムを使用する。理解したことの確認として、生徒ダイバーに日付と署名を記入させる。

コースリンク

2ダイブ以上のダイブを行なうアドベンチャー・ダイブやスペシャルティ・コースの達成条件を1ダイブにまとめて、1つ以上の認定クレジットを受けるようにしてはならない。次のように、クレジットに

なるようダイバーにクレジットを与えてコースリンクさせる：

Advanced Snorkeler (Skin Diver) から PADI Seal Team

認定Advanced Snorkelersは、PADI Seal Teamアクアミッション：スキン・ダイバー・スペシャリストのクレジットを受けることができる。

PADI Seal TeamからOpen Water Diverコース

PADI Seal Teamメンバーは、インストラクターがアクアミッション1～5を実施するか、アクアミッション5のスキル・サーキットでスキルマスタリーを評価すれば、Open Water Diverコース限定水域ダイブ1のクレジットを受けることができる。このリンクは、最後のアクアミッションを修了してから12か月間有効。

Discover Scuba DivingからOpen Water Diverコース

Discover Scuba Divingプログラムで、インストラクターがOpen Water Diverコース限定水域ダイブ1のスキルを実施し、参加者がそれをマスターすれば、参加者は限定水域ダイブ1のクレジットを受けることができる。

インストラクターが限定水域ダイブ1のスキルをマスターしている参加者とオープンウォーター・ダイブ1を実施すれば、参加者はOpen Water Diverコース・ダイブ1のクレジットを受けることができる。

PADI Scuba DiverからOpen Water Diverコース

以下を含めて、Open Water Diverコースの残りの部分を実施する：

1. 知識開発4と5、クイズとファイナル・エグザム
2. 限定水域ダイブ4と5
3. オープンウォーター・ダイブ3と4、残りのダイブ・フレキシブル・スキル

4. 200メートル／ヤードのノンストップ水泳、またはマスク、スノーケル、フィンを使って300メートル／ヤードの水泳を修了したかどうかを確認

Open Water DiverコースからSpecialty Diverコース

PADI Open Water Diverコースと同時に実施できるコース（同時に実施するのは1コースのみとし、そのスペシャルティのPADI Specialty Instructor資格を持っていないなければならない）。Specialtyダイブ2は、Open Water Diverの認定後に行われ、Advanced Open Water Diverコースのクレジットになるダイブになる：

1. Peak Performance Buoyancy – 知識開発はコース中いつでも実施できる。Peak Performance Buoyancyダイブ1のスキルは、ダイブ2、3、4で実施する。コースダイブ以外に別途ダイブを実施し、Peak Performance Buoyancyダイブ2のスキルを修了する。
2. PADI AWAREあるいはPADI Coral Reef Conservationコース – コース中いつでも実施できる。
3. Enriched Air Diver – 知識開発、プレダイブ・シミュレーション、実践応用練習は、コース中いつでも実施できる。エンリッチド・エア・ダイブは必須ではないが、Enriched Air Diver認定を取得するには、Open Water Diver認定を取得する必要がある。参加前生徒ダイバーの最低年齢は12歳。
4. Digital Underwater Photographerレベル1 – 知識開発はコース中いつでも実施できる。レベル1フォトダイブは限定水域ダイブ3後に限定水域で実施するか、オープンウォーター・ダイブ4のツアーの一部としてオープンウォーターで実施する。コースダイブ以外に、レベル2用にオープンウォーターで別途ダイブを実施する。
5. Altitude Diver – 知識開発はコース中いつでも実施でき、4回のコースダイブをすべて高所で実施する。ダイブ2、3、4でアルティチュード・ダイブ1のスキルを修了する。コースダイブ以外に別途ダイブを実施して、アルティチュード・ダイブ2のスキルを修了する。

6. Boat Diver – 知識開発はコース中いつでも実施でき、4回のコースダイブをすべてボートから実施する。ダイブ2、3、4でボート・ダイブ1のスキルを修了する。コースダイブ以外に別途ダイブを実施して、ボード・ダイブ2のスキルを修了する。
7. Dry Suit Diver – 知識開発と限定水域達成条件はコース中いつでも実施でき、4回のコースダイブをすべてドライスーツで実施する。ダイブ2、3、4でドライスーツ・ダイブ1のスキルを修了する。コースダイブ以外に別途ダイブを実施して、ドライスーツ・ダイブ2のスキルを修了する。
8. Sidemount Diver – 知識開発、限定水域達成条件と実際応用はコース中いつでも実施できる。ダイブ2、3、4のなかでサイドマウント・ダイブ1のスキルを修了する。Open Water Diver認定後にサイドマウント・ダイブ2と3を終了する。参加前生徒ダイバーの最低年齢は15歳。
9. Delayed Surface Marker Buoy (DSMB) – コース中いつでも知識開発を行なうことができる。ダイブ2、3、4の間いつでもDSMBのダイブ1のスキルを実施することができる。コースダイブ以外に別途ダイブを実施して、DSMBのダイブ2のスキルを修了する。
10. Full Face Mask – コース中いつでも知識開発を終了させることができる。フルフェイス・マスク限定水域ダイブは、限定水域ダイブ3以降であればいつでも実施できる。フルフェイス・マスク・ダイブ1は、オープンウォーター・ダイブ3以降であれば、実施できる。フルフェイス・マスク・ダイブ2をダイブ4で、もしくは両方のフルフェイス・マスク・ダイブはダイブ4以降であれば、実施できる。

Open Water DiverからRescue Diver

PADI Open Water DiverはRescue Diverコースの知識開発部分と限定水域でのレスキュー練習に参加することができる。Rescue Diverコースの認定条件の知識開発部分のクレジットになる。限定水域で学んだスキルは、オープンウォーターでレスキュー練習を繰り返し行なうことで、ダイバーの準備となる。

Specialty DiverコースからAdvanced Open Water Diverコース

標準化されたPADI / AWARE Specialty Diverコースのダイブ1は、生徒ダイバーがナレッジレビューを修了していれば、Advanced Open Water Diverコースの関連アドベンチャー・ダイブに向けてのクレジットになる（逆も同様）。

例外: Digital Underwater Photography Specialtyの場合は、ダイブ1はオープンウォーターでスクーバ器材を使って実施される場合のみ、アドベンチャー・ダイブとしてクレジットされる。それ以外は、Digital Underwater Photographyダイブ2としてクレジットされる。

Specialty DiverコースからDivemaster

PADI Search and Recovery DiverはDivemasterコースの実践応用4- サーチ&リカバリー・シナリオがクレジットされる。PADI Deep DiverはDivemasterコースの実践応用5 - ディープ・ダイブ・シナリオがクレジットされる。

Emergency Oxygen ProviderからRescue Diver

Emergency Oxygen Provider Specialtyコースは、Rescue Diverの「レスキュー練習9 - 圧力関連事故のファーストエイドと酸素供給」の代わりになる。

Rescue DiverからDivemaster

Rescue Diverコースで作成した緊急アシストプランは、Divemasterコースで作成する同じ課題のクレジットになる。

Dive Theory eLearningからDive Theoryエグザム

12ヶ月以内にDive Theory eLearningを修了すると、以下がクレジットされる:

- Divemasterファイナル・エグザム - パート2
- IDC Staff InstructorコースのDive Theoryエグザム
- Course Directorトレーニング・コースの前条件のDive Theoryエグザム

クオリティ・マネージメント

PADI規準違反を自分で目撃した場合には、PADIオフィスへ報告書を提出する。虚偽の報告をしてはならない。

状況の重大性から、ただちに措置を取る必要があると判断される場合には、調査中でも、メンバーシップのステータスがノンティーチングに変わることがある。

委託紹介

委託紹介とは、コース途中の生徒ダイバーが別の場所でコースを続行することを希望する場合に、トレーニング書類を別のPADI Instructorへ引き渡すプロセスである。

委託紹介の有効期間は、最後のトレーニングセグメント修了日から12ヶ月間。

例外: Advanced Open Water DiverコースとSpecialty Diverコースに期限はない。

個人的な争い事の解決手段として委託紹介を保留してはならない。

委託紹介書は、生徒ダイバーがコースセグメントを1つ以上修了し、承諾済みの支払い条件を満たした場合にのみ発行する。

一般的な委託紹介手順

生徒ダイバーを委託紹介する場合:

1. 各コースのインストラクター・ガイドに従って書類に必要事項を記入し、生徒ダイバーのダイバーメディカル(医師の許可)のコピーを添付する。
2. 委託紹介に期限がある場合は、そのことを生徒ダイバーに伝え、残りのトレーニングや前評価に必要な費用など、受け入れ側のインストラクターとどのように対応すべきかを明確に説明する。

委託紹介された生徒ダイバーを受け入れる場合：

1. 委託紹介書類を確認する。
2. 水中活動を始める前に、生徒ダイバーは以下の書類に改めて署名する必要がある：
 - Release of Liability/Assumption of Risk/Non-agency Acknowledgment Form - General Training (または適切なEUバージョン)
 - PADI安全潜水実施了解声明書
 - ダイバーメディカル
 - ダイバーメディカル／参加者チェックシートで、生徒ダイバーが最初のとときと違う項目に「Yes」を記入した場合には、水中活動の前条件として、新たに医師から文書による許可を得なければならない。
3. オープンウォーター・ダイブに備えて、オープンウォーター・ダイブのスキル練習を開始する前に、ダイバーのスキルと水中での落ち着きのレベルを評価し、さらにダイビングに関する知識を全般的に評価する。オープンウォーター・ダイブに参加する準備態勢が整っていないと判断される場合には、トレーニングを続行する前に補習を行なう。
4. 生徒ダイバーが最後のオープンウォーター・トレーニングセッションを修了したら、コースの必要条件(水中能力を含む)がすべて満たされていることを確認し、認定を処理(オンライン処理またはPIC封筒の送付)または申請書をPADIオフィスへ提出する。

特別許可

PADI規準から逸脱する特別許可を得るには、状況に関する具体的な説明と逸脱の理由を含めて、状況の詳しい説明を含めて、特別許可申請書をPADIオフィスへ提出する。承認されると、特別許可がPADIオフィスから発行される。特別許可は個人メンバーに対してのみ与えられるものであり、有効期間は1年間である。特別許可の期限を延長するには、毎年再申請する必要がある。

OPEN WATER DIVER COURSE

INSTRUCTOR GUIDE



本ガイドで別途指定されている場合を除き、
「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準は
PADI Open Water Diverコースに適用される。

この認定を取得しているダイバーは、レクリエーションル・スクーバ・ダイ
バー・トレーニング
のISO 24801-2の要件を満たしている-パート2:レベル2-自律ダイバー

セクション 1

コース規準

認定条件

- クイズとファイナル・エグザムを含めて、5つの知識開発セグメントを修了する。
- 限定水域ダイブ1～5を修了する。
- 水中能力の必要条件を満たす。
- オープンウォーター・ダイブ1～4を修了する。

深度

オープンウォーター・ダイブ1と2 — 12メートル／40フィート

オープンウォーター・ダイブ3と4 — 18メートル／60フィート

1日に3ダイブを実施する場合、最後のダイブの最大深度は12メートル／40フィート

ダイブ3の前に行なうエクスカージョン・ダイブ — 12メートル／40フィート

ダイバーの参加前条件

- 10歳以上

注意：10～14歳のダイバーはJunior Open Water Diver認定を取得する。

器材

「一般規準と手続きガイド」を参照。

ナビゲーションのスキルにコンパス、ダイブ・フレキシブル・スキルにシグナルチューブ(またはDSMB)が必要。

ドライスーツ

生徒ダイバーがドライスーツを使用するには、インストラクターはPADI Dry Suit Specialty Instructorでなければならず：

- 生徒ダイバーは同時に PADI Dry Suit Diver コースを受講しなければならない。
- または
- 生徒ダイバーは、オープンウォーター・ダイブの前に、限定水域でドライスーツオリエンテーション修了しなければならない。オープンウォーター・ダイブでは最大人数比1:6でインストラクターの直接監督下でなければならない。

エクスカッション・ダイブ

エクスカッション・ダイブとは、エントリー・レベルのトレーニングの際に、正式な達成条件なしで実施される追加ダイブのことを言う。エクスカッション・ダイブにより、生徒ダイバーは監督者の下で、一般的なダイビングスキル（浮力コントロールなど）をオープンウォーターで応用するという経験を得ることができる。**エクスカッション・ダイブは1日に実施できる3本のトレーニング・ダイブにカウントすること。Open Water Diverコースの監督と人数比の条件に従う。**

書式(フォーム)

最新の書式をPADIプロサイトからダウンロードすること。各地域固有の免責同意書または書式については、所属PADIオフィスに確認する。

必須

**免責同意書 (10072) (日本の場合はPADIコースの危険の告知書)
欧州連合の場合は、EUリスクと責任に関する同意書 (10175)
(「非代理人の公開および確認の同意書」を含む)**

ダイバーメディカル／参加者チェックシート (10346J)

PADI安全潜水実施了解声明書 (10060J)

推奨

Open Water Diverコース委託紹介レコード (10056J)

スチューデント・レコード・フォルダー (10058J)

インストラクター資格

インストラクター

教材

- PADI *Open Water Diver eLearning* またはマニュアル
- ログブック

生徒ダイバーは「PADI *Open Water Diver*ビデオ」を見て、限定水域とオープンウォーター・ダイブのときに、各ダイバーが「PADIスキル練習とダイブ・プランニング・スレート」を使用する。

生徒ダイバーにRDPテーブルまたはeRDP_{ML}の使い方を教える場合には、それぞれの使用説明書が必要（生徒ダイバーが使用するダイブプランナーの使用説明書）。

人数比

限定水域

1:10 — 認定アシスタント1名につき生徒ダイバー4名を加えることができる。

オープンウォーター

1:8 — 最大12名まで、認定アシスタント1名につき生徒ダイバー2名を加えることができる。

例外：ダイブ1では、生徒ダイバーが知識開発1-3（クイズを含む）と限定水域ダイブ1-3を修了していない場合、Discover Scuba Divingの監督条件と人数比（1:4または認定アシスタントがいる場合は1:6）に従う。

他団体からの委託紹介

他の指導団体からコース修了を委託紹介されたダイバーの受け入れについては、「一般規準と手続きガイド」に規定される委託紹介手順に従い、さらに：

- 生徒ダイバーが理解する言語に翻訳されたものがない場合を除いて、PADI *Open Water Diver eLearning* またはマニュアルを所有し、コース中の学習とコース後の参考用に使用する。

- 生徒ダイバーはログブックを所有する。
- 委託紹介されたダイバーの知識とスキルを前評価する場合、Open Water Diver クイックリビュー、ReActivate クイックリビューもしくは、Open Water Diver コースのファイナル・エグザムを行なう。
- オープンウォーター・トレーニング・ダイブの準備として Open Water Diver コースのスキルの復習のために限定水域で前評価する。

注意：詳細については、PADI's *Guide to Teaching*を参照。

監督

直接的監督

1. 水面でも水中でも、誰も生徒ダイバーに付き添っていない状態にしてはならない。
2. インストラクターが実施：
 - 初回のスキル・トレーニング
 - 例外：
 - インストラクターの直接的監督の下であれば、Assistant Instructorが初回のスキルを実施できる。
 - 認定アシスタントは、限定水域ダイブ2、3、4、または5でアドバンスド・スノーケリング・スキルを実施できる。
 - オープンウォーター・ダイブの前に、スキルをマスターしているかどうかを確認するための最終評価。
3. オープンウォーター・ダイブはすべてインストラクターが実施し、直接的に監督する。

例外 – インストラクターの間接的監督：

- 認定アシスタントが、エントリー／エキジット・ポイントへ往復する水面移動中とナビゲーション練習中に生徒ダイバーを監督する場合と、インストラクターが生徒ダイバーと浮上や潜降などのスキルを実施している間に、他の生徒ダイバーと一緒に水面または水中に残る場合。
- ダイブ2～4のツアーで、認定アシスタントが生徒ダイバーをガイドする場合（1:2の人数比）。
- Assistant Instructorがオープンウォーターの水面でダイブ・フレキシブル・スキルを評価する場合と、水中で残圧チェックを実施する場合。

水中能力評価

生徒ダイバーはオープンウォーター・ダイブ2の前に、水泳具を使用せずに10分間の立ち泳ぎ／フロートを行なうことによって、足がつかない深さの水面に落ち着いて浮いていられることをデモンストレーションする。

また、生徒ダイバーは認定を受ける前までに、水泳具を使用せずに200メートル／ヤードの距離をノンストップで泳ぐか、マスク、フィン、スノーケルを使用して300メートル／ヤードを泳ぐという課題を修了する。

コンディションによっては保護スーツを着用してもよいが、その場合にはウエイトをつけて中性浮力をとる。

水中能力評価およびスキル練習中に関する監督については「一般規準と手続き」を参照。

サブセット・コース

PADI Scuba DiverはOpen Water Diverコースのサブセットである。PADI Scuba Diver規準については、「PADI Scuba Diver Instructor Guide」を参照。

セクション 2

知識開発

生徒ダイバーは、ナレッジレビュー、クイズ、ファイナル・エグザムを含めて、5つの知識開発セグメントをすべて修了する。

デジタル学習者のために、生徒ダイバーがオンラインで修了しなかったすべての評価を完了させる。オンラインですべての評価を修了した生徒ダイバーは、Open Water Diverクイックレビューを修了する。

ナレッジレビュー、クイズ、エグザムのアンサーキーはPADIのプロサイトに掲載されている。

セクション 3

限定水域

一般的な注意事項

各スキルに関して、問題なくできるか、もっと練習が必要か「PADI スキル練習とダイブ・プランニング・スレート」に書くよう生徒ダイバーに指示する。これにより、能力だけでなく自信も評価できる。

順序

- 限定水域ダイブ1の前に、生徒ダイバーは知識開発セッション1を修了するか、Discover Scuba Divingの知識開発ブリーフィングを聞く。
- 限定水域ダイブは順序通りに実施し、ある限定水域ダイブで行なうことになっているスキルを、別の限定水域ダイブへ移動してはならない。

例外：このセクションで概説されているダイブ・フレキシブル・スキル。

限定水域ダイブの達成条件

ダイブ・フレキシブル・スキル

- **Advanced Snorkeling** — 限定水域ダイブ2、3、4、または5で、生徒ダイバーは以下をデモンストレーションする：
 1. 足がつかない深さの水面でリラックスした呼吸の後、息を止め、口からスノーケルを外して垂直にヘッドファーストで潜る。
 2. アドバンスド・スノーケリングの正しいバディチーム手順。
- **器材の準備と手入れ** — 生徒ダイバーは：
 1. 限定水域トレーニング中、スクーバキットを5回セッティングし、取り外す。

- a. 限定水域ダイブ3終了までに少なくとも3回行ない、最後のセッティングと取り外しは、ほとんど手助けなしで行なう。
 - b. 限定水域ダイブ5終了までに少なくとも5回行ない、最後の2回のセッティングと取り外しは、ほとんど手助けなしで行なう。
2. 限定水域ダイブ3終了までに、器材を流線型にまとめ、きちんと固定する
 3. 限定水域ダイブ3終了までに、ダイビング後のスクーバ器材の正しい手入れ方法をデモンストレーションする。
- パワー・インフレーターから中圧ホースを外す — 生徒ダイバーは浅い場所でパワー・インフレーターから中圧ホースを外す（水中または水面）。
 1. PADI Scuba Diverの場合は限定水域ダイブ3終了までに。
 2. 生徒ダイバー全員が限定水域ダイブ5終了までに。
 - 緩んだシリンダー・バンド — いずれかの限定水域ダイブで、生徒ダイバーは緩んだシリンダー・バンドを締め直すスキルを水面または水中でデモンストレーションする
 - ウェイト・システム脱着（水面） — 限定水域ダイブ1後、生徒ダイバーは足がつかない深さの水面で、ほとんど手助けなしでウェイト・システムを外し、元通りに装着し、調整し、確認する。
 1. PADI Scuba Diverの場合は限定水域ダイブ3終了までに。
 2. 生徒ダイバー全員が限定水域ダイブ5終了までに。
 - エマージェンシー・ウェイト・ドロップ — 限定水域またはオープンウォーターでのいずれかのダイブで、生徒ダイバーは足がつかない深さの水面でBCDから空気を抜き、ウェイト・システムのクイックリリースを使ってウェイトを外し、身体から離して下に落とし、浮力を確保する。

ダイブ1 達成条件

水面

1. 器材の正しい装着テクニックを使って、手助けしてもらって、マスク、フィン、スノーケル、BCD、スクーバキット、ウエイトを装着し、調節する。
2. プレダイブ・セーフティ・チェックを行なう。
3. 浅い水域で、パワー・インフレーターを使ってBCDに空気を出し入れする。

浅い水中

4. 息を止めずに、自然に息を吸ったり吐いたりして圧縮空気を呼吸する。
5. 息を吐いてクリアする方法とパージボタンを使う方法の両方を使ってレギュレーターをクリアし、呼吸を再開する。
6. 肩の後ろからレギュレーターをリカバリーする
7. 下半分に水を入れたマスクをクリアする
8. 他のダイバーの予備の空気源から30秒間以上呼吸する。

水中

9. 耳とマスクを圧平衡しながら、コントロールされた速度で足がつかない水中に潜降する。
10. スクーバ器材を装着し、方向と深度の両方をコントロールしながら泳ぐ。
11. 残圧計を手にとって目盛りを読み、ゲージのレッドゾーンを見て、および／またはあらかじめ打ち合わせておいた残圧限界に基づいて、残圧が十分か少ないかを合図する。
12. ハンドシグナルを理解してデモンストレーションする。

13. 適切なテクニックを使って浮上する。
14. バディの手の届く範囲内にいる。

足がつかない深さの水面

15. 水面に浮いて、顔を下にして泳ぎながらスノーケルまたはレギュレーターで呼吸する。
16. 浮上後、マスクは装着したままレギュレーターから呼吸しながら、パワー・インフレーターを使って浮力を確保する。
17. BCDから空気を抜き、それからプラス浮力になるまでオーバーで膨らませる。

ダイブ2 達成条件

水面

1. ダイブプランを立てる。
2. 器材の正しい装着テクニックを使って、バディと一緒に、マスク、フィン、スノーケル、BCD、スクーバキット、ウエイトを装着し、調節する。
3. バディとプレダイブ・セーフティ・チェックを行なう。
4. 適切なディープウォーター・エントリーをデモンストレーションする。
5. ウエイト量を調節する - 水面でBCDに空気を入れなくて通常の肺の大きさで呼吸を止めて、目の高さで浮くようにする。
6. ブラスト法を使ってスノーケルをクリアし、水から顔を上げずに呼吸を再開する。
7. 水から顔を上げずにスノーケル／レギュレーターの交換を何度か(少なくとも2回交換)繰り返す。
8. スクーバを装着してスノーケルで呼吸し、バディと近い距離を保ちながら50メートル／ヤード以上泳ぐ。

水中

9. バディと一緒に、足がつかない深さの場所で主にBCDを使って浮力をコントロールしながら、ファイブ・ポイント方法を使って潜降する。
10. パワー・インフレーターを使ってBCDを膨らませ、中性浮力をとる。－ 息を吸ったり吐いたりしながら、コントロールされた形で身体をゆっくりと上下させる。
11. 全部に水を入れたマスクをクリアする。
12. マスクを取り外し、元に戻し、クリアする。
13. マスクなしで少なくとも1分間呼吸する。
14. 「エア切れ」の合図を出してエア切れに対応する。
15. 残圧計を見ずに、誤差20bar / 300psiの範囲内で残圧を予測して知らせる。
16. 主にBCDを使って浮力をコントロールしながら、ファイブ・ポイント方法を使って浮上する。
17. 最も適切なテクニックを使ってエキジットする。(バディが手助けしてもよい)

ダイブ3 達成条件

足がつかない深さの水面

1. 適切なディープウォーター・エントリーをデモンストレーションする。
2. バディと一緒に、ウエイト・チェックを行なって適切なウエイト量になるよう調節する。
3. 足がつったときの治し方をデモンストレーションする(水面または水中)。

水中

4. バディと一緒に、足がつかない深さの場所で視標だけを使いながら、ファイブ・ポイント方法を使って潜降する。

5. キックしたり手を使ったりしないで、浮力コントロールだけで30秒間以上ホバリングする。
6. 中性浮力を保ちながら、水平の姿勢でゆっくりと泳いでトリムをチェックする。通常の泳ぐ姿勢に合わせて適切にトリムを調整する。
7. 「エア切れ」の合図を出し、バディの予備の空気源を確保して呼吸することで、エア切れに対応する。少なくとも1分以上泳ぎ続け、浮上し、オーラルでBCDを膨らませる。
8. 予備の空気源を使って、バディに空気を与える。
9. アーという声を出して息を吐き続けながら水中を水平または斜めに少なくとも9メートル／30フィート以上泳ぐというやり方で、コントロールされた緊急スイミング・アセントをシミュレーションする。
10. 残圧計を見ずに、誤差20bar／300psiの範囲内で残圧を予測して知らせる。

ダイブ4 達成条件

足がつかない深さの水面

1. バディと一緒に、ウエイト・チェックを行なって適切なウエイト量になるよう調節する。
2. 25メートル／ヤードの疲労ダイバー曳行を行なう。
3. ほとんど手助けなしで、スクーバキットを外し、元通りに装着し、調整し、確認する。

水中

4. バディと一緒に、足がつかない深さの場所でファイブ・ポイント方法を使って潜降し、浮力コントロールを使って水底に接触せずに潜降を止める。
5. バディと一緒に、浮力コントロールを維持しながら、傷つきやすい生物がいるという設定の水底の上を泳ぐ。

6. オーラルでBCDを膨らませて、キックしたり手を使ったりしないで1分間以上ホバリングする。
7. フリーフローしているという設定のレギュレーターから、30秒間以上効率的に呼吸する。
8. マスクなしで少なくとも15メートル／50フィート以上泳ぎ、マスクを元に戻し、クリアする。
9. 残圧計を見ずに、誤差20bar／300psiの範囲内で残圧を予測して知らせる。
10. 傷つきやすい生物がいるという設定の水底に接触せずに、そこからファイブ・ポイント浮上をする。

ダイブ5 達成条件

水中

1. 足がつかない深さの場所で、浮力、姿勢、深度のコントロールを失うことなく、ほとんど手助けなしでスクーバキットを外し、元通りに装着し、調整し、確認する。
2. 浮力、姿勢、深度のコントロールを失うことなく、ウエイト・システムの全部または一部を外し、元通りに装着し、調整し、確認する
 - ウエイト・ベルトおよびウエイト一体型BCDの場合 - 足がつかない深さの水底で。
 - いったんウエイトを取り外すと、セッティングし直す必要があるウエイト・システムの場合 - 浅い場所で。
3. 残圧計を見ずに、誤差20bar／300psiの範囲内で残圧を予測して知らせる。
4. 以下を含む、シミュレーションによるミニダイブを実施する：
 - バディと一緒にダイブプランを立てる。
 - エントリーとエキジットをする。

- 適正ウエイト量とトリム・チェックをする。
- ファイブ・ポイント潜降をする。
- バディと一緒に、中性浮力、ホバリング、スイミングに重点を置いて、これまでに習ったスキルを練習する。
- 環境に対する意識をデモンストレーションし、傷つきやすい生物がいるという設定の水底と接触しないようにする。
- シミュレーションによる以下の状況から、少なくともひとつ、ただし多くて3つまでの状況に正しく対処する：足がつった、エア切れで空気を分け合う、レギュレーターがフリーフロー、マスクに水が入った、マスクが外れた、レギュレーターが口から外れた、BCDのインフレーターが故障、バディとはぐれた。
- 予定のタイムリミット、またはあらかじめ打ち合わせておいた浮上開始時の残圧になったら、安全停止をしてファイブ・ポイント浮上をする。

セクション 4

オープンウォーター

オープンウォーターでの一般的な注意事項

順序

- オープンウォーター・ダイブは順序通りに実施し、あるオープンウォーター・ダイブで行なうことになっているスキルを、別のオープンウォーター・ダイブへ移動してはならない。

例外: このセクションで概説されているダイブ・フレキシブル・スキル。

- **ダイブ・フレキシブル・スキルは、限定水域でマスターするまで、オープンウォーターで実施してはならない。**

例外: コンパス・ナビゲーション練習、シグナルチューブ/DSMBの使い方、エマージェンシー・ウエイト・ドロップ。

- **限定水域ダイブの後、同じ日にオープンウォーター・ダイブを行なう場合には、オープンウォーター・ダイブは2回までとする。**

ダイブの前条件

ダイブ 1

生徒ダイバーは、以下のうち少なくともひとつを修了していなければならない:

- Discover Scuba Divingの知識開発ブリーフィングと限定水域ダイブ1*
- Open Water Diverコース知識開発1(クイズを含む)と限定水域ダイブ1*
- Open Water Diverコース知識開発1~3(クイズを含む)と限定水域ダイブ1~3

* Discover Scuba Divingの監督条件と人数に従う: 1:4または認定アシスタント付きで1:6

ダイブ2

生徒ダイバーは以下を修了していなければならない:

- Open Water Diverコース知識開発1~3(クイズを含む)
- Open Water Diverコース限定水域ダイブ1~3
- 水泳具を使用せずに10分間の立ち泳ぎ／フロート

ダイブ3~4

生徒ダイバーは、Open Water Diverコースのすべての知識開発セグメント、クイズ1~4、およびすべての限定水域ダイブを修了していなければならない。

ファイナル・エグザムは認定前に修了し、必ずしも最後のオープンウォーター・ダイブの前でなくてもよい。

オープンウォーター・ダイブの達成条件

ダイブ・フレキシブル・スキル

どのオープンウォーター・ダイブで実施してもよい。生徒ダイバーは以下をデモンストレーションする:

水面

- 足がつったときの治し方 — 足がつったときの治し方を、自分とバディの両方にシミュレーションする。
- 疲労ダイバー曳行 — 疲労ダイバー役のバディを、スクーバ器材を装着した状態で25メートル／ヤード曳行する。
- シグナルチューブの使い方 — 水面でシグナルチューブを膨らませるか、浮上する直前に水中からディレイド・サーフェスマーカーブイ(DSMB)を膨らませて水面に打ち上げる。
- 直線水面コンパス移動 — 顔を水に入れたまま、方向を見るのにコンパスだけを使って、50メートル／ヤードの直線をスノーケルを使って泳ぐ。

- スノーケル／レギュレーター交換 — スノーケルを口から外さずにクリアし、呼吸を再開する。水から顔を上げずに、少なくとも2回、スノーケルとレギュレーターから交互に呼吸する。
- ウェイト・システムとスクーバキット脱着 — 足がつかない深さの場所で、ウェイト・システムを外して再び装着する。足がつかない深さの場所で、スクーバキットを外して再び装着する。
- エマージェンシー・ウェイト・ドロップ — 限定水域またはオープンウォーターでのいずれかのダイブで、生徒ダイバーは足がつかない深さの水面でBCDから空気を抜き、ウェイト・システムのクイックリリースを使ってウェイトを外し、身体から離して下に落とし、浮力を確保する。

水中

ダイブ2、3、または4でのみ実施

- コンパス・ナビゲーション — コンパスを使って、直線の行きと帰りのコースを泳ぐ。各ダイバーがそれぞれの往復をナビゲーションする。
- コントロールされた緊急スイミング・アセント (CESA) — 6～9メートル／20～30フィートの深度から、コントロールされた緊急スイミング・アセントを行ない、水面に出たらオーラルでBCDを膨らませるかウェイトを捨てて浮力を確保する。

以下に概説されている手順に従って、コントロールされた緊急スイミング・アセントを実施する。

コントロールされた緊急スイミング・アセント

スキルのブリーフィング

生徒ダイバーへの指導内容：

- レギュレーターはくわえたままにする。
- ウェイトは捨てない。実際の緊急事態では、水面までたどり着けるかどうか疑わしい場合にのみウェイトを捨てるという注意点を説明する
- コントロール・ラインは使わない - ラインはコントロールと緊急停止用にインストラクターだけが使用する。
- 通常の浮上速度を維持する。

- 浮上中は声を出し続ける。
- 浮上を中止した場合、あるいは何か問題が生じたら、通常の呼吸に戻す。
- 水面に出たらオーラルでBCDに空気を入れるか、ウエイトを落とす。

セットアップ

水面フロートに結び付けたコントロール・ライン(少なくとも太さ12ミリメートル/0.5インチ)を使用する。このラインは、生徒ダイバーをしっかりとホールドしながら片手で握るか足を絡めていつでも浮上を中止できるように、ウエイトなどを使って水底にしっかりと固定する。ラインは水面で確保されていなければならない。フロートに固定されている場合は、フロートが十分に大きく、ライン上に2人のダイバーがいる場合でも引っ張られたときに水没しない状態にする。このスキルは、1回に生徒ダイバー1人ずつで行ない、練習中は、生徒ダイバーとコントロール・ラインから手を離してはならない。

深度

このスキルは、深度が6メートル／20フィートから、しかし9メートル／30フィートを超えない範囲で実施する。

練習方法

1. 一方の手で生徒をホールドし、もう一方の手でラインを握る。
2. 浮上のサインを出して浮上を開始する。生徒ダイバーは声を出しながら息を吐き始める。
3. 生徒はまず、フィンキックして水底を離れ、その後は力を弱めてキックを続ける。浮上中、生徒はコントロール・ラインを使用しない。レギュレーターはくわえたままにし、ウエイトは捨てない。練習中はずっと、シリンドラーのバルブは開けたままにしておく。生徒の浮上を手伝ってはならない。
4. 浮上中、生徒はBCDかドライスーツの排気ボタンに手を添えたままにし、いつでも過剰な空気を排出できるようにしておく。
5. 浮上中は生徒の様子を観察し、1分間18メートル／60フィート以下の速度で浮上するように、コントロールを維持する。生徒が自分より少し下の位置になるようにホールドする。そうすることにより、生徒が出している声を聞くことができ、生徒も上を見るようになる。生徒が息を吐き続けているかどうか、注意して確認する。疑わしい場合には浮上を中止する。浮上を中断しなければならなかった場合には、最初から練習をやり直す。
6. 水面に出たら、BCDにオーラルで空気を入れるか、ウエイトを落とすよう生徒ダイバーに指示する。ウエイトを落とす前に、下にダイバーがいないことを確認するよう言う。生徒が落ち着いてリラックスした様子になるのを待ってから、次のトレーニング練習に入る。

ダイブ1 達成条件

水面

1. ブリーフィングで、「OK」、「何か変だ」、「耳が抜けません」、「エアがない」、「浮上/ダイブ終了」、「バディと一緒に」を意味するハンドシグナルと、「私を見てください」を意味する音による(または接触する)シグナルおよびハンドシグナルを理解する。
2. 器材を装着して調整する - 器材の正しい装着テクニックを使うこと。
3. プレダイブ・セーフティ・チェックを実施する。
4. BCDを膨らませて浮力を確保した状態でエントリーする。
5. ウェイト量をチェックして調整する。

水中

6. 潜降ラインが傾斜している水底の地形を使って、コントロールしながら12メートル／40フィート以内の深度まで潜降する。
7. トリム・チェックを行なう。
8. 下半分に水を入れたマスクをクリアする
9. 深度下でレギュレーターをリカバリーしてクリアする。
10. ダイビング・ポイントを探検する。
11. 残圧があらかじめ打ち合わせておいたレッドゾーンの近くになっているかどうか合図し、および／または残圧を数字で伝える。
12. バディに2秒以内で手が届く範囲内にいる。
13. バディ・コンタクトを維持しながら、1分間18メートル／60フィート以下の速度で浮上する。ファイブ・ポイント方法を使う(限定水域ダイブ3を修了している場合)。

ダイブ2 達成条件

水面

1. エア・マネージメント／ターン・プレッシャー、タイムリミット、エントリーとエキジット、バディとはぐれた場合の手順、基本的な緊急手順を含めて、ダイブプランを立てる。
2. 器材を装着し、調整し、流線形にまとめる。器材の正しい装着テクニックを使う。
3. プレダイブ・セーフティ・チェックを実施する。
4. 必要に応じて、ウエイト量とトリムを調整する。
5. 水面にいるときには、浮力を確保し、マスクをつけたまま、スノーケルまたはレギュレーターから呼吸する。
6. 足がつかない深さの場所で、BCDから空気を抜き、それからプラス浮力になるまでオーラルで膨らませる。

水中

7. 潜降ラインが傾斜している水底の地形を使って、コントロールしながら12メートル／40フィート以内の深度まで潜降する。ファイブ・ポイント方法を使う。
8. パワー・インフレーターを使ってBCD（またはドライスーツ）の中の空気の量を調節し、中性浮力をとる
9. 全部に水を入れたマスクをクリアする。
10. それぞれの役割を演じる：静止状態で、バディの一方が「エア切れ」の合図を出し、もう一方のバディが差し出す予備の空気源をとって呼吸する。
11. 予備の空気源を使って正しく浮上し、水面でプラス浮力を確保する。与える役かもらう役のどちらかを実施する。
12. ダイビング・ポイントを探検する。
13. 傷つきやすい生物や水底と接触しないように注意し、緩んでぶら下がってきた器材を留め直す。

14. バディに2秒以内で手が届く範囲内にいる。
15. 残圧計を見ずに、誤差20bar / 300psiの範囲内で残圧を予測して知らせる。
16. ダイブプランを立てるときに打ち合わせておいた間隔で残圧を合図する。
17. バディ・コンタクトを維持しながら、1分間18メートル / 60フィート以下の速度で浮上する。ファイブ・ポイント方法を使う（ただし、予備の空気源使って浮上する場合を除く。）できれば、安全停止をする。

ダイブ3 達成条件

水面

1. ダイブプランを立てる。
2. 器材を装着し、調整し、流線形にまとめる。器材の正しい装着テクニックを使う。
3. プレダイブ・セーフティ・チェックを実施する。
4. 必要に応じて、ウエイト量とトリムを調整する。
5. 水面にいるときには、浮力を確保し、マスクをつけたまま、スノーケルまたはレギュレーターから呼吸する。

水中

6. 視標を使ってコントロールしながら、深度18メートル / 60フィートを超えない深度まで潜降する。ファイブ・ポイント方法を使う。
7. オーラルでBCDを膨らませて中性浮力をとり、ホバリングする。
8. マスクを取り外し、元通り装着し、クリアする。
9. ダイビング・ポイントを探検する。
10. 傷つきやすい生物や水底と接触しないように注意し、緩ん

でぶら下がってきた器材を留め直す。

11. バディに2秒以内で手が届く範囲内にいる。
12. 残圧計を見ずに、誤差20bar／300psiの範囲内で残圧を予測して知らせる。
13. ダイブプランを立てるときに打ち合わせておいた間隔で残圧を合図する。
14. バディ・コンタクトを維持しながら、1分間18メートル／60フィート以下の速度で浮上する。ファイブ・ポイント方法を使う。できれば、安全停止をする。

ダイブ4 達成条件

水面

1. バディチームとして、PADIスキル練習とダイブ・プランニング・スレートを使ってダイブプランを立てる。
2. 器材を装着し、調整し、流線形にまとめる。器材の正しい装着テクニックを使う。
3. プレダイブ・セーフティ・チェックを実施する。
4. 必要に応じて、ウエイト量とトリムを調整する。
5. 水面にいるときには、浮力を確保し、マスクをつけたまま、スノーケルまたはレギュレーターから呼吸する。

水中

6. 視標を使わずに18メートル／60フィート以内の深度まで潜降する。ファイブ・ポイント方法を使う。
7. バディと一緒に、ダイビング・ポイントを探検する。
8. 傷つきやすい生物や水底と接触しないように注意し、緩んでぶら下がってきた器材を留め直す。
9. バディに2秒以内で手が届く範囲内にいる。

10. 残圧計を見ずに、誤差20bar／300psiの範囲内で残圧を予測して知らせる。
11. バディと一緒に、残圧またはダイブプランで決めておいた時間に基づいて、戻り始めるときと浮上を開始するときを合図し、適切な行動をとる。
12. バディ・コンタクトを維持しながら、1分間18メートル／60フィート以下の速度で浮上する。ファイブ・ポイント方法を使う。安全停止をする

PADI SCUBA DIVER COURSE

INSTRUCTOR GUIDE



本ガイドで別途指定されている場合を除き、「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準はPADI Scuba Diverコースに適用される。

この認定を取得しているダイバーは、レクリエーションル・スクーバ・ダイバー・トレーニングのISO 24801-1の要件を満たしている
パート1:レベル1-監督付きダイバー

コース規準

PADI Scuba DiverコースはOpen Water Diverコースのサブセットである。PADI Scuba Diverは、PADI Divemaster、Assistant Instructor、またはInstructorの直接的な監督の下で、最大深度12メートル／40フィートまで潜るトレーニングを受けている。PADI Scuba Diverは、Discover Scuba® Divingの参加者より多くの理論的知識と水中スキルを身につけるが、独立してダイビングする資格はない。

以下の変更点以外、Open Water Diverコースの規準がすべて適用される。

認定条件

- クイズを含む知識開発1～3を修了する。
- ダイブ・フレキシブル・スキルを含めて、限定水域ダイブ1～3を修了する：
 - 器材の準備と手入れ
 - パワー・インフレーターから中圧ホースを外す
 - ウェイト・システム脱着
- オープンウォーター・ダイブ2の前に、10分間の立ち泳ぎ／フロートを行なって、足がつかない深さの水面に落ち着いていられることをデモンストレーションする。
- ダイブ・フレキシブル・スキルを含めて、オープンウォーター・ダイブ1～2を修了する：
 - スノーケル／レギュレーター交換
 - 足がつったときの治し方
 - シグナルチューブ／DSMBの使い方
 - エマージェンシー・ウェイト・ドロップ（限定水域、もしくはオープンウォーター）
- PADI Scuba Diver声明書（10062J）を読んで署名する。

インストラクター資格

インストラクター

認定PADI Scuba Diverの監督

環境、コンディション、PADI Scuba Diverの経験に基づいて適切な人数比を決定する。ガイド付きダイブは最大深度12メートル／40フィートまでとする。PADI Scuba Diverは、ダイブテーブルやダイブ・コンピューターの使い方に関して正式なトレーニングを受けていないため、PADI Scuba Diverに代わって、ダイブテーブルと反復ダイビングのノンストップ・リミットをチェックする必要がある。

Open Water Diverにアップグレード

以下の手順により、いつでもPADI Scuba DiverをOpen Water Diverにアップグレードできる：

1. ダイバーの認定カードのコピーを保有する。
2. ダイバー・メディカル／参加者チェックシート、PADI安全潜水実施了解声明書、免責同意書に必要事項を記入してもらう。
3. ダイバーの知識とスキルを前評価し、必要に応じて補習する。
4. ダイバーは、水泳具を使用せずに200メートル／ヤードの距離をノンストップで泳ぐか、マスク、スノーケル、フィンを使用して300メートル／ヤードを泳ぐ。
5. Open Water Diverコースの残りの部分を行なう：
 - a. 知識開発4～5、クイズ4とファイナル・エグザム
 - b. 限定水域ダイブ4～5、残りのダイブ・フレキシブル・スキル。
 - c. オープンウォーター・ダイブ3～4、残りのダイブ・フレキシブル・スキル

ADVANCED OPEN WATER DIVER COURSE

INSTRUCTOR GUIDE



本ガイドで別途指定されている場合を除き、「一般規準と手続き」に概説されている規準は PADI Advanced Open Water Diverコースに適用される。

セクション 1

コース規準

アドベンチャー・ダイブ

標準化されたスペシャルティ・インストラクター・ガイドがある PADI Specialty Diver コース (および PADI Rebreather Diver コース) での最初のダイブは、アドベンチャー・ダイブとして資格認定される。

注意: PADI Rebreather Diver コースは PADI Specialty Diver コースではないが、限定水域での最初のダイブは、アドベンチャー・ダイブとしてカウントすることができる。

アドベンチャー・ダイブ知識開発オプションおよび必須スキル用にセクション2と3を参照のこと。

認定条件

Adventure Diver の場合、生徒ダイバーは以下の達成条件を満たさなければならない:

- 3種類のアドベンチャー・ダイブを修了する。
- 修了した3種類のアドベンチャー・ダイブのナレッジレビューを修了する。
- Thinking Like a Diver (経験豊富なダイバーの視点で物事を考える) の知識開発セクションを修了する。

Advanced Open Water Diver の場合、生徒ダイバーは以下の達成条件を満たさなければならない:

- Deep と Underwater Navigation を含む5種類のアドベンチャー・ダイブを修了する。
- 修了した5種類のアドベンチャー・ダイブのナレッジレビューを修了する。
- Thinking Like a Diver (経験豊富なダイバーの視点で物事を考える) の知識開発セクションを修了する。

認定アシスタント

Cavern, Dry Suit, Enriched Air, Full Face Mask, Ice および Rebreather (標準的なオープンサーキット器材で潜る場合は除く) Adventure Diveの認定アシスタントは、そのダイブに対応するダイバーレベルのスペシャルティ認定を保有していなければならない。

深度

15歳以上のダイバー - 30メートル／100フィート

深度の必要条件はダイブによって異なる。各アドベンチャー・ダイブの条件についてはセクション3を参照し、ジュニア・ダイバーの深度制限については「一般規準と手続きガイド」を参照。リブリーザーを使用する場合、最大深度は、所持するリブリーザーに適した深度、もしくは18メートル／60フィートのいずれか浅いほうとする。

ダイバーの参加前条件

- PADI (Junior) Open Water Diver認定

各アドベンチャー・ダイブへの特定の参加前条件の最低年齢に関してはセクション2を参照のこと。

注意: 10～11歳のダイバーはJunior Adventure Diver認定を取得できる。

器材

生徒ダイバーは「一般規準と手続きガイド」の必要器材に加えて、**ナイフ／ダイバー用ツール、コンパスとダイブ・コンピューター(または時計とeRDP_{ML}／RDPテーブル)が必要。**

各アドベンチャー・ダイブへの特定の器材に関してはセクション3および／または関連Specialty Instructor Guideを参照のこと。

書式(フォーム)

最新の書式をPADIプロサイトからダウンロードすること。各国固有の免責同意書、申請書、書式については、所属PADIオフィスに確認する。

必須

継続教育専用書式 (10038J or EU 10541) とダイバーメディカル／参加者チェックシート (10346J)

推奨

Advanced Open Water Diverコース記録ワークシート (10090J)

インストラクター資格

インストラクター

注意: アドベンチャー・ダイブ知識開発オプションと必要条件のチャートを参照

教材

必要教材

- **PADI Advanced Open Water Diver eLearning または マニュアル**

例外: 各アドベンチャー・ダイブで使用されたPADIスペシャルティ・マニュアルまたはAWARE教材をダイバーが持っている場合は除く。

- **ログブック**

各生徒ダイバーは、PADI Advanced Open Water Diverマルチパーパス(多目的)データ・キャリア(69230J)をオープンウォーター・ダイブ中に使用すること。

推奨

- PADI Advanced Open Water Diver ビデオ
- PADI Specialty Diverマニュアルとビデオ
- AWAREコース教材

人数比

一般規準 — **1:8 認定アシスタント1名につき、生徒ダイバー4名まで追加できる。**

ディープ・ダイブでは、認定アシスタントを使ってもこの人数比を増やすことはできない。

セクション3に記載されている通り、人数比はダイブによって異なる。

監督

一般規準 — 総則として、深度18メートル／60フィート以内で実施されるダイブには間接的監督が認められる。ダイバー全員が Deep Adventure Dive を修了している場合を除いて、18メートル／60フィートを超える深度で実施されるダイブには直接的監督が必要。

監督はダイブによって異なる。各アドベンチャー・ダイブの条件についてはセクション3を参照。

セクション 2

知識開発

各アドベンチャー・ダイブ前に、安全にダイブを修了するのに必要な知識を復習する。 知識の復習は、プレダイブ・ブリーフィングや体系的なディスカッションを通じて行なうか、適切なアドベンチャー・ダイブ・ナレッジレビューをダイバーに修了させることで実施する。可能な場合は、アドベンチャー・ダイブ用に PADI Specialty Diver／AWARE 教材を使用してもよい。

理想としては、「Thinking Like A Diver (経験豊富なダイバーの視点で物事を考える)」知識開発セクションを最初のアドベンチャー・ダイブよりも前に実施したほうがよいが、認定の前までに修了していればよい。

ナレッジレビューを修了し、復習した場合のみ、生徒ダイバーに対してアドベンチャー・ダイブのクレジットを認める。アドベンチャー・ダイブ・トレーニング・レコードに必要事項を記入して署名するか、別の方法で生徒ダイバーがナレッジレビューとダイブの両方を修了したことを記録する。

ナレッジレビュー・アンサーキーはPADIのプロサイトに掲載されている。

PADI Specialty Diverコース教材を使用して実施されるアドベンチャー・ダイブ

PADI Advanced Open Water Diver教材でカバーされていないアドベンチャー・ダイブ用のSpecialty Diver教材を使用する場合は、これらの条件を満たすこと:

1. スペシャルティのインストラクターとしての資格を有していること。
2. 生徒ダイバーは、スペシャルティの全参加前条件および必要事項を満たしていること。

例外: 生徒ダイバーは、Cavern, IceまたはSelf-Reliant Adventure DiveのためにAdvanced Open Water Diverである必要はない。

3. 知識開発の熟達度(マスタリー)を判断するために、スペシャルティ教材にあるナレッジレビューを使用する。

アドベンチャー・ダイブ知識開発オプションと必要条件

教材オプション

アドベンチャー・ダイブ	Advanced Open Water Diver教材	Specialty Diver教材/AWARE教材	Specialty Instructor資格要件の有無	生徒ダイバー最低年齢
Adaptive Support			✓	15
Altitude	✓			10
Boat	✓	✓		10
Cavern			✓	18
Deep	✓	✓		12
Delayed Surface Marker Buoy				12
Digital Underwater Imaging	✓	✓		10
Dive Against Debris (AWARE)		✓	✓	10
Diver Propulsion Vehicle		✓	✓	12
Drift	✓	✓		12
Dry Suit	✓	✓	✓	10
Enriched Air		✓	✓	12
Fish Identification	✓			10
Full Face Mask			✓	12
Ice			✓	18
Night	✓	✓		12
Peak Performance Buoyancy	✓	✓		10
Rebreather		✓	✓	18
Rescue	✓			12
Search & Recovery	✓	✓		12
Self-Reliant			✓	18
Shark Conservation (AWARE)		✓	✓	12
Sidemount		✓	✓	15
Underwater Naturalist	✓	✓		10
Underwater Navigation	✓	✓		10
Wreck	✓	✓		12

セクション 3

オープンウォーター

オープンウォーターでの一般的な注意事項

- 複数のアドベンチャー・ダイブの達成条件を1回のアドベンチャー・ダイブの中に組み合わせて行なうことはできない。
- 直接水面へ浮上できない場合は、いかなる場合でもアドベンチャー・ダイブを実施しない。

例外：IceおよびCavern Adventure Diveを除く

- 毎回のアドベンチャー・ダイブ時、ダイバーにはダイブ前、ダイブ最中、ダイブ後にThinking Like a Diver (経験豊富なダイバーの視点で物事を考える)をあてはめる。ダイブ計画に関連するリマインダー (思い出させるヒント)を含むブリーフィング時に、状況認識の利用、タスクの管理、よいダイバーとしての行動のデモンストレーションを行う。ディブリーフィング中は、Thinking Like a Diver (経験豊富なダイバーの視点で物事を考える)の理念をあてはめさせるために、ダイバーに質問を投げかける。
- PADI Specialty Diverコースのダイブ1の実施時には、適切なスペシャルティ・インストラクター・ガイド内に記載されているすべての深度制限、人数比、その他トレーニング必要条件に従う。

コアダイブ

Deep Adventure Dive

注意事項

1. その生徒ダイバーと一緒に最近潜ったことがない場合には、ダイブに備えて生徒ダイバーの知識を確認し、オープンウォーターで深い場所へ行く前に、Deep Diveを修了するのに前もって必要なスキルがあるかどうか、水中で評価する。

2. 生徒ダイバー全員を直接的に監督する。必要であれば、自分か認定アシスタントがすぐに手を伸ばして生徒ダイバーをアシストできる位置に自分自身を配置する。ダイブを先導し、個々の生徒ダイバーをアシストするために短い時間だけ目を離す以外、生徒ダイバー全員に目を配り続ける。
3. 最大人数比は1:8。認定アシスタントを使っても、この人数比を増やすことはできない。生徒ダイバーに直接的に目を配って対応する能力に影響が及ぶようなコンディションの場合には、人数比を減らす。
4. 深度18～30メートル／60～100フィートの間でダイブを実施する。
5. ジュニア・ダイバーの深度制限と人数比については、「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準に従う。

達成条件

1. バディと一緒に、ターン・プレッシャー、浮上開始時残圧、予備の残圧を含むガスの使用を計画、管理する。ノンストップとダイブタイム・リミットを設定する。
2. ライン、ウォール（壁）、または傾斜した水底を用いて潜降する。
3. 陸上と深度下で、色の変化を比較する。
4. ダイブ・コンピューター（または深度計）を他のダイバーの深度と比較する。
5. ダイブ・コンピューター（または深度計とタイマー）を使って、1分間に18メートル／60フィート以下の速度で浮上する。
6. 深度5メートル／15フィートで少なくとも3分間の安全停止を行なう。

Underwater Navigation Adventure Dive

達成条件

1. 中性浮力を維持する。

2. 水中を普通のリラックスしたペースで約30メートル／100フィート泳ぐのに必要なキックサイクルの平均回数と平均時間を測定する。
3. 自然の目標物と距離測定 (キックサイクルの回数または時間) を使って、あらかじめ決めておいた場所へナビゲーションし、スタート地点の15メートル／50フィート以内に戻る。必要なときのみ浮上して方向を確かめる。
4. コンパスを正しい位置に持ち、泳ぎながら正確な方向を維持する。
5. コンパスと距離測定 (キックサイクルの回数または時間) を使って、あらかじめ決めておいた場所へ浮上せずにナビゲーションし、スタート地点の6メートル／20フィート以内に戻る。
6. 一定の場所からスタートして、コンパスを使って水中を四角形もしくは長方形のパターンで泳ぎ、スタート地点の8メートル／25フィート以内に戻る。一辺の長さが30メートル／100フィートの四角形か、すべての辺の長さをたすと120メートル／400フィートになる四角形が望ましい。

エレクティブ・ダイブ

Adaptive Support Diver Adventure Dive

注意事項

1. PADI Adaptive Techniques Specialty Instructor Guideを使用し、生徒ダイバーにナレッジレビューのパート1を終了させる。
2. 必要な限定水域ワークショップ1を実施する: Adaptive Techniques
3. すべてのオープンウォーター・ワークショップ1の達成条件を修了する。推奨深度は6～12メートル／20～40フィート。

Altitude Adventure Dive

注意事項

海拔2,400～3,000メートル／8,000～10,000フィートの高所では、到着してからダイビング開始まで少なくとも6時間待機しなければならない。

達成条件

1. 高所機能付きのダイブ・コンピューターか、レクリエーション・ダイブプラナーと高所での理論深度表を使用して、ダイブを行なう標高での理論深度に対するノンストップ・リミットを調べる。
2. ラインまたは傾斜した水底を用いて潜降する。
3. 他のダイバーのコンピューター（または深度計）と自身のコンピューターを比較し、異なる場合はできるだけスレートや水中ノートに記録する。
4. ダイブ・コンピューター（または深度計とタイマー）を使って、1分間に9メートル／30フィート以下の速度で浮上する。
5. ラインまたは傾斜した水底を用いて浮上する。
6. 深度5メートル／15フィートの理論深度、もしくはダイブ・コンピューターに従って、少なくとも3分間の安全停止を行なう。

Boat Adventure Dive

注意事項

生徒ダイバーはシグナルチューブまたはDSMBを携帯しなければならない。

達成条件

1. 次の各用語がボートのどの部分を指しているか識別する：
バウ、スターン、スターボード、ポート、エントリー・エリア、エキジット・エリア、ダイビング器材の収納場所。

2. ボートに搭載されている緊急用／安全用設備の設置場所を確認する(ファーストエイド・キット、酸素、AED、救命具、ダイブフラッグ、無線、消火器など)。
3. 使用しているボートの種類に適した方法でエントリーする。
4. 環境に適した方法で、ボートからスタートし、ボートに戻るまでナビゲーションをし、計画したとおりに、環境とボートに適切な方法で、ボートの係留／アンカーライン、指標ラインなどを使うか、エキジット・エリアの近くで浮上する。
5. 深度5メートル／15フィートで少なくとも3分間の安全停止を行なう。
6. 水面でシグナルチューブを膨らませるか、浮上する直前に水中からディレイドサーフェスマーカーブイ(DSMB)膨らませて水面に打ち上げる。
7. 使用しているボートの種類に適した方法でエキジットする。

Cavern Adventure Dive

注意事項

1. Cavern Diver Specialty Instructor Guideを使用し、生徒ダイバーにナレッジレビューとダイブ1のすべての達成条件を修了させる。
2. オープンウォーター(水面に直接浮上できる環境)でダイブを実施し、ラインとリールの使い方と緊急手順を練習する。カバーク探索はオプションである。
3. カバークに入る場合は、最大人数比1:3でダイバーを直接監督する。
4. カバークに入る場合は、ライトゾーン内で、水面から垂直と水平の距離の合計が40メートル／130フィート内でのダイブに制限する。

Delayed Surface Marker Buoy Adventure Dive

注意事項

1. **Delayed Surface Marker Buoy Diver Specialty Instructor Guide** を使用し、生徒ダイバーにナレッジレビューを修了させる。
2. **最大深度18メートル／60フィート。** 推奨深度は9～12メートル／30～40フィート。

達成条件

1. このダイブで使用されるDSMBとリールの準備、収納、調整をする。
2. 止まったままDSMBを上げる。
3. 少なくとも10分間、必要ならラインをリールから繰り出し、巻きながら、水面に上げたDSMBを曳いて水面下を泳ぐ。
4. DSMBのラインを視認もしくは接触する浮上の目標にして、バディチームで浮上する。
5. 水面でDSMBの空気を抜いて収納する。

Digital Underwater Imaging Adventure Dive

注意事項

生徒ダイバーは各自が水中カメラシステムを持っていないなければならない。

達成条件

1. カメラと外部ライト(使用の場合)のセッティング、ハウジングの準備を含む、水中カメラ・システムの適切なセットアップの仕方をデモンストレーションする。
2. 基本的な露出、フォーカス、構図をデモンストレーションするためのスチール写真および／もしくはビデオの撮影を行なう。

3. ビデオ撮影の場合は、ストーリーを表現する基本の撮影と編集も行なう。
4. カメラや撮影よりも、ダイバーの安全と環境保護を最優先するマナーをデモンストレーションし、カメラを携帯してダイブする。

Dive Against Debris (AWARE) Adventure Dive

注意事項

1. AWARE – Dive Against Debris Specialty Instructor Guideを使用する。
2. 生徒ダイバーには、ナレッジレビューを修了させるために、Dive Against Debris調査ガイドを使用させる。
3. すべてのダイブ1の達成条件を修了する。

Diver Propulsion Vehicle (DPV) Adventure Dive

注意事項

1. Diver Propulsion Vehicle Diver Specialty Instructor Guideを使用する。
2. 生徒ダイバーに、PADI *Diver Propulsion Vehicle (DPV) eLearning* / マニュアル内のナレッジレビューを修了させる。
3. すべてのダイブ1の達成条件を修了する。推奨深度は6～18メートル / 20～60フィート。

Drift Adventure Dive

達成条件

1. バディと一緒に、環境、その場の状況、深度、その他の要因に適したテクニックからなるドリフト・ダイブを計画する。
2. 環境状態および計画したドリフトのテクニックに適したエントリーをする。
3. その場のコンディションに適した方法で、計画した通りにバディ・コンタクトを維持する。
4. 中性浮力を維持し、生物や水底と不注意による接触を避ける。

5. 深度5メートル／15フィートで少なくとも3分間の安全停止を行なう。
6. その場のコンディションに適した方法で、計画した通りにエキジットする。

Dry Suit Adventure Dive

注意事項

1. 最大1:6の人数比でダイバーを直接的に監督する。認定アシスタント1人につき、2人追加でき、最大生徒人数は8名まで。
2. 生徒ダイバーが初めてオープンウォーターでドライスーツを使う前に、限定水域でドライスーツに慣れさせる。一般規準と手続き、ドライスーツ・オリエンテーションに記載された必要条件を参照。
3. 生徒ダイバーは各自がドライスーツを使用しなければならない。
4. インストラクターは、18メートル/60フィートより深いダイブでは、最大1:4の人数比で生徒ダイバーを直接的監督しなければならない。
5. ダイバーが水面でのスクーバユニットの脱着を含むすべての達成条件を満たした後、認定アシスタントは残りのダイブを最大2名(1:2)で直接的監督することができる。安全停止は、認定アシスタントが直接監督する前にインストラクターによって評価される必要はない。

達成条件

1. 他のダイバーの手を借りて、ドライスーツを着脱する。
2. 水面でのウエイト調整 - BCDとドライスーツから空気を抜き、通常の肺の大きさで呼吸を止めて、目の高さで浮くようにウエイトを調節する（リブリーザーを使用する場合は頭頂部の位置）。
3. スーツのスクイズを起こさずに、コントロールされた潜降をする。

4. 1分間息を吸ったり吐いたりしながらコントロールされた形でゆっくりと上下し、中性浮力をとる（リブリーザーを使用する場合は上下する必要はない）。
5. キックしたり手で水をかいたりせずに、浮力コントロールを使って1分間ホバリングをする（リブリーザーを使用する場合は、多少は手で水をかいてもよい）。
6. ダイブ中は中性浮力を維持し、誤って沈殿物を巻き上げたり水底に接触したりしない。
7. 水底から1分間に9メートル／30フィートを超えない速度で中性浮力を維持しながら浮上する。
8. 深度5メートル／15フィートで少なくとも3分間の安全停止を行なう。
9. 水面でスクーバキットとウエイト・システムを脱着する。

Enriched Air Adventure Dive

注意事項

1. Enriched Air Diver Specialty Instructor Guideを使用する。
2. 生徒ダイバーに、PADI *Enriched Air Diver* マニュアルもしくは *Enriched Air Diver eLearning* 内のナレッジレビューを修了させる。
3. 生徒ダイバーが *Enriched Air Diver* ナレッジレビューを修了していない場合には、ダイブの前に、*Enriched Air Dive Today* のブリーフィングを行なう。
4. ダイブ前に、*Enriched Air Diver* コースの実践応用1を修了させる。これは、ダイビングの前のブリーフィングと準備の一環として行なってもよい。
5. ダイブの最大深度は、30メートル／100フィートまたは PO_2 （酸素分圧）1.4ata – いずれか浅いほう。
6. エンリッチド・エアの最大許容酸素割合は40パーセントまで。

7. 生徒ダイバーがエンリッチド・エア用ダイブ・コンピューターを使用せずにダイビングをする場合は、最大許容酸素割合は32パーセント、最大深度は30メートル／100フィート（これより浅い制限が適用される場合には、30メートル／100フィートより浅い深度）、その日の総潜水時間は160分とする。
8. 生徒ダイバーがエンリッチド・エア用ダイブ・コンピューターを使用する場合は、コンピューターを設定する様子を見守り、正しく設定されたかどうか確認する。その後は、間接的監督でよい。また、Enriched Air Diverコースの知識開発セクションとファイナル・エグザムの両方を修了した生徒ダイバーについても、間接的監督でよい。

Fish Identification Adventure Dive

注意事項

生徒ダイバーは各自がスレートまたは水中ノートを携帯していなければならない。

達成条件

1. 魚を正しい科にグループ分けして識別し、種類を特定する。
2. できれば数や生息環境を含めて、見たものをスレートに記録する。
3. 名前を知らない魚の形をスケッチ／写真をとり、特徴を書き留め、ダイビング後にフィールドガイド、魚の分類スレートおよび／またはオンラインの参考文献を使用しながら名前を調べる。
4. 環境への悪影響を最小限に抑えるために、適切かつ責任あるダイビングと行動をデモンストレーションする。

Full Face Mask Adventure Dive

注意事項

1. Full Face Mask Diver Specialty Instructor Guideを使用し、生徒ダイバーにナレッジレビューを修了させる。
2. 必要な限定水域ダイブを実施し、ダイバーには、アドベンチャー・ダイブ中に使用するフルフェイス・マスクを使用しながら練習させる。
3. すべてのダイブ1の達成条件を修了する。
4. 最大深度18メートル／60フィート。
5. ダイバーには、バックアップとして、通常のスクーバ用マスクを携帯させる。

Ice Adventure Dive

注意事項

1. Ice Diver Specialty Instructor Guideを使用し、生徒ダイバーにナレッジレビューとダイブ1のすべての達成条件を修了させる。
2. アイス・ダイバー・トレーニング・ダイブでの最小のチームサイズは、2名までのチームと1名のインストラクターに加えて2名の安全ダイバーと2名の水面テンドー（プライマリーとレスキュー）とする。
3. 最大深度は、エントリーホールから水平、垂直を含む全距離が18メートル／60フィート。

Night Adventure Dive

注意事項

1. このダイブは、日没から日の出までの間の時間に実施する。
2. 1:8の人数比で生徒ダイバーを直接的に監督するか、1:4の人数比で認定アシスタントに監督させる。

3. 生徒ダイバーは各自が水中ライトを携帯していなければならない。予備の水中ライトとマーカー／ケミカルライトの携帯が推奨される。

達成条件

1. ラインまたは傾斜した水底を用いて潜降する。
2. ダイビング中、ハンドシグナルと水中ライトの両方を使ってコミュニケーションする。
3. 夜間に水中ライト、残圧計、コンパス、タイマー、深度計の使い方をデモンストレーションする。
4. あらかじめ決めておいた場所へコンパス／自然の目標物を使ってナビゲーションし、スタート地点の8メートル／25フィート以内に戻る。必要であれば、浮上して方向を確認する。
5. 最初から最後までバディ・コンタクトを維持する。
6. ラインまたは傾斜した水底を用いて浮上する。

Peak Performance Buoyancy Adventure Dive

達成条件

1. 以下のポイントに注意しながらウエイト・システムを組む：
 - a. PADIベーシック・ウエイト・ガイドラインを使用するか、同様の環境で、同じ器材を使用して行なった今までの経験に基づいて見積もったウエイト量。
 - b. 水中で自分の望む快適な姿勢がとれるようにウエイトを配分して位置を決める(トリム)。
2. すべてのホース、ゲージ、アクセサリを適切に固定、装着することで、器材を流線型にする
3. 適正ウエイトの調整 - 通常の肺の大きさで呼吸を止めて、BCDに空気が入っていない状態で目の高さで浮くようにウエイトを調整する(リブリーザーを使用する場合は頭頂部の高さ)。

4. 水底へ向かってゆっくりとコントロールされた潜降を行ない、中性浮力をとる。
5. あらかじめ決めておいた深度で中性浮力をとる。
6. 呼吸コントロールだけで(オープン・サーキット・スクーバ)、または手やフィンをごくわずかに動かすだけで(リブリーザー)深度の微調整を行ない、1メートル／3フィート以上浮いたり沈んだりしないように60秒間ホバリングする。
7. ダイブ中は、浮力をコントロールし、水底にぶつかったり、水面から身体や器材を出したりせずに、必要な場合は浮力を頻繁に少しずつ調整しながら、リラックスし、水平ポジションで中性浮力を維持する。
8. ウェイトを調節し、垂直、水平、足が上、頭が上など様々な姿勢でホバリングを練習する。
9. ポスト・ダイブ浮力チェックを行ない、付けている適正ウェイト量を確認する。

Rebreather Adventure Dive

注意事項

1. **Rebreather Diver Course Instructor Guide**を使用すること。
2. 生徒ダイバーに、**PADI Rebreather & Advanced Rebreather Diver**マニュアルを使用しながら、**PADI Rebreather Diver**のセクション1とナレッジレビュー1を修了させる。
3. ダイバーには、ダイブの前に**PADI Rebreather Diver**コース・プラクティカル・アプリケーション1を修了させる。これをダイブ前準備に実施してもよい。
4. **すべてのダイブ1の達成条件を修了する。**
5. Underwater NavigationとDeep Adventure Diveを修了している**PADI Adventure Diver**は、**PADI Rebreather Diver**と**Advanced Rebreather Diver**の統合コースの参加前資格を満たしていれば、統合プログラムの最初のダイブ(リブリー

ザー・ダイブ1とアドバンスド・リブリーザー・ダイブ1の組み合わせ)をRebreather Adventure Diveとして行うことができる。これは、統合プログラムにクレジットすることができる。

Rescue Adventure Dive

注意事項

1. 生徒は、「セクション1 – ダイバーの緊急事態への対応」および「セクション3 – 行方不明ダイバーに対する手順」を以下の方法で修了する：
 - a. *Advanced Open Water eLearning*のレスキュー・セクションとナレッジレビューを修了する。
 - b. *PADI Rescue Diver eLearning*または*Rescue Diver*マニュアルを使用しての学習
 - c. *Rescue Diver*コース・レッスンガイド・プレゼンテーション・ノートを使用したインストラクター主導の知識開発。
2. 生徒は *Rescue Adventure Dive* ナレッジレビューを修了する。
3. 以下の *Rescue Diver* コース・スキルを修了する：
 - a. セルフレスキュー・スキル：足のつりを治す、および予備の空気源の使用
 - b. 課題1 – 疲労ダイバー
 - c. 課題2 – パニック・ダイバー
 - d. 課題5 – 行方不明ダイバー

Search and Recovery Adventure Dive

注意事項

ダイブを実施するには、小さい物体、大きい物体(重さ最大11キロ/25ポンド)、ライン、索具とリフトバッグを用意する。

達成条件

1. およそ15メートル×15メートル／50フィート×50フィートのエリアをサーチして、水中に沈んでいる小さな物体を見つけるか、計画したダイブリミットに達するまで探す。
2. およそ30メートル×30メートル／100フィート×100フィートのエリアをサーチし、水中に沈んでいる重さ11キロ／25ポンド以下の物体を見つけるか、計画したダイブリミットに達するまで探す。
3. 水中で、バウライン、ツーハーフヒッチ、シートバンドをそれぞれ正しく結ぶ。
4. リフトバッグを使って、重さが11キロ／25ポンド以下の物体を安全に結索し、水面へ引き上げる。

Self-Reliant Adventure Dive

注意事項

1. Self-Reliant Diver Specialty Instructor Guideを使用し、生徒ダイバーにナレッジレビューとダイブ1のすべての達成条件を修了させる。
2. そのダイバーと一緒に最近潜ったことがない場合には、準備のためにダイバーの知識を確認し、ダイブを修了するのに必要なスキルがあるかどうか、水中で評価する。
3. 最大1:8の人数比でダイバーを直接的に監督する。認定アシスタントを使っても、この人数比を増やすことはできない。

Shark Conservation (AWARE) Adventure Dive

注意事項

1. AWARE - Shark Conservation Diver Specialty Instructor Guideを使用し、生徒ダイバーにナレッジレビューとダイブ1のすべての達成条件を修了させる。

Sidemount Adventure Dive

注意事項

1. Sidemount Diver Specialty Instructor Guideを使用する。
2. 生徒ダイバーにPADI Sidemountセクションおよびナレッジレビュー1をPADI Sidemount and Tec Sidemount Diver eLearning／マニュアルを使用しながら修了させる。
3. ダイバーは限定水域ダイブの前に、Sidemount Diver実践応用を完了しなければならない。
4. 限定水域ダイブの間にダイバーはアドベンチャー・ダイブで使用する器材の組み立て（1本もしくは2本のシリンダーを使用）を練習する。
5. もしダイバーがアドベンチャー・ダイブを1本のシリンダーを使用して行う場合は、2本のシリンダーを使ったスキルは適用されない。
6. 生徒ダイバーに、ダイブ1のすべての達成条件を修了させる。深度6～18メートル／20～60フィート内でダイブする。

Underwater Naturalist Adventure Dive

達成条件

1. 水中生物を静かに受動的に観察する。
2. 水中生物にマイナスの影響を与えないように、中性浮力を維持して正しい姿勢をとる。
3. バディと一緒に、少なくとも2種類の水中植物を探し、名前を確認する（淡水の場合は1種類）。
4. バディと一緒に、少なくとも4種類の水中無脊椎動物を探し、観察し、名前を確認する（淡水の場合は1種類）。

5. バディと一緒に、少なくとも5種類の水中脊椎動物を探し、観察し、名前を確認する(淡水の場合は2種類)。

Wreck Adventure Dive

注意事項

1. 1:8の人数比で生徒ダイバーを直接的に監督するか、1:4の人数比で認定アシスタントに監督させる。
2. レック・ペネトレーションを行ってはならない。

達成条件

1. 中性浮力を維持しながらレックの外側を泳ぐ。潜在する危険性を特定し、避ける。
2. レックをナビゲーションし、水面に出ずに浮上ポイントを探す。必要に応じて、インストラクター／認定アシスタントの助けを借りる。
3. 水底やレックにぶつからないように、中性浮力と適切な姿勢を維持する。

RESCUE DIVER COURSE

INSTRUCTOR GUIDE



本ガイドで別途指定されている場合を除き、「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準はPADI Rescue Diverコースに適用される。

セクション 1

コース規準

認定条件

生徒ダイバーはコース達成条件を満たし、さらに：

- 5つの知識開発セグメントとエグザムを修了する。
- 限定水域またはオープンウォーターで、セルフレスキュー・リビュのスキルをデモンストレーションする。
- オープンウォーターで、レスキュー課題1～10のスキルをデモンストレーションする。
- オープンウォーターでのレスキュー・シナリオ1と2に参加する。
- ダイビング・ポイントの緊急アシストプランを作成する。

深度

レスキュー課題4 — 12メートル／40フィート

レスキュー課題6とシナリオ1 — 9メートル／30フィート

ダイバーの参加前条件

- 12歳以上

注意：12～14歳のダイバーはJunior Rescue Diver認定を取得できる。

- **PADI (Junior) Adventure Diver 認定は、Underwater Navigation Adventure Diveを修了していなければならない**
- PADI Open Water Diverは、知識開発と限定水域でのレスキュー課題に参加できる。
- **過去24ヶ月以内にEFR® Primary and Secondary Careのトレーニングを受けている。**このトレーニングは、Rescue Diverコースと一緒に修了することができる。

器材

「一般規準と手続きガイド」を参照。さらに：

- ファーストエイド・キット、酸素ユニット、レスキュー・ブリージング・マスク
- 必要に応じて、フロート、マーカースイッチ、CPRマネキンなど

書式(フォーム)

最新の書式をPADIプロサイトからダウンロードすること。各国固有の免責同意書、申請書、書式については、所属PADIオフィスに確認する。

必要教材

継続教育専用書式 (10038J or EU 10541) とダイバーメディカル／参加者チェックシート (10346J)

推奨

Rescue Diverコース・トレーニング記録と委託紹介書 (10295J)

インストラクター資格

インストラクター

教材

- PADI *Rescue Diver eLearning* またはマニュアル
- ダイビング事故管理ワークスレート
- ログブック

生徒ダイバーはPADI Rescue Diverビデオを見なければならない。

人数比

「一般規準と手続きガイド」を参照。

監督

「一般規準と手続きガイド」を参照。

セクション 2

知識開発

生徒ダイバーは、ナレッジレビューとRescue Diverエグザムを含めて、5つの知識開発セグメントをすべて修了しなければならない。

デジタル学習者のために、生徒ダイバーがオンラインで修了しなかったすべての評価を完了させる。オンラインですべての評価を修了した生徒ダイバーは、Rescue Diverクイックレビューを修了する。

生徒ダイバーは、シナリオを実施する場所の緊急アシストプランを作成する。

ナレッジレビューとエグザムのアンサーキーはPADIのプロサイトに掲載されている。

セクション 3

レスキュー課題

一般的な注意事項

すべてのレスキュー課題（課題9以外）は、オープンウォーターで実施する。必要であれば、最初に限定水域でレスキュー課題について説明し、練習する。各課題は以前に学習したスキルに基づいているので、レスキュー課題を順番に実施する。ただし、柔軟なスケジュールに対応するためにどのような順番で実施してもよい。レスキュー課題9はレスキュー・シナリオ1の前に完了してもよい。

レスキュー課題とシナリオ練習は、少なくとも2日間に分散して行なう。レスキュー・シナリオ1の前にレスキュー課題1～6を完了し、レスキュー・シナリオ2の前に課題7～10を完了する。

レスキュー練習中に浮上するときには、1分間に18メートル／60フィート以下の速度で浮上し、レギュレーターはくわえたままにし、絶対に息を止めてはいけないことを忘れないよう生徒ダイバーに念を押す。

達成条件

セルフレスキュー・レビュー

以下のセルフレスキューが必要な状況での正しい実施手順をデモンストレーションする：

- 足のつりを治す。
- 水面で浮力を確保する。
- 気道のコントロールをする。
- 予備の空気源を使用する。
- ヴァーティゴを克服して方向感覚を取り戻す。

課題1 – 疲労ダイバー

疲労していて(パニックは起こしていない)反応のあるダイバーを水面でアシストし、以下をデモンストレーションする：

- アプローチ
- 状況判断
- コンタクトを取る
- 事故者を安心させる
- アシストと移動
- 器材を外す

課題2 – パニック・ダイバー

パニックを起こしている(理性を失っている)ダイバーをレスキューし、以下をデモンストレーションする：

- アプローチと状況判断
- コンタクトを取る
- リリース
- パニック・ダイバーにつかまれぬようにアプローチし、素早く離れる。(クイック・リバース)

課題3 – 浜、ボート、栈橋からの対応(反応があるダイバー)

トラブルを起こしていて反応があるダイバーをアシストし、以下をデモンストレーションする:

- リーチ、エクステンション、スローイングなどのノンスイミング・アシスト
- 事故者から目を離さないようにエントリーして、体力を消耗しないペースで近づく
- 浮力補助具がある場合とない場合のスイミング・アシストとレスキュー
- 器材有り無しでのアンダーアーム・プッシュ、シリンダー・バルブ・トゥ、修正された疲労スイマー・キャリアなどの曳行
- エキジット

課題4 – 水中でトラブルに遭遇しているダイバー

1. 水中で、動きすぎによる疲労状態をシミュレーションしているダイバーを正しく識別し、対応する。
2. やみくもに浮上しようとしているパニックダイバーを正しく識別し、対応する。
3. 予備の空気源を使用して、エア切れをシミュレーションしているダイバーを正しく識別してエアを与え、エアを分けあいながら一緒にコントロールされた浮上をする。

課題5 – 行方不明ダイバー

水中サーチパターンを使用して、迅速に効率よく行方不明ダイバーを捜索して発見する。

課題6 – 反応がないダイバーを浮上させる

1. 浮上の補助として、コントロールされたプラス浮力を利用する。
2. 反応がないダイバーまたは救助者自身の浮力コントロールを使って、事故者を水面に浮上させる。

課題 7 – 水面で反応がないダイバー

1. 水面で反応がないダイバーにアプローチして呼吸をチェックし、以下をデモンストレーションする：
 - 浮力を確保しながら助けを呼び、ダイバーを仰向けにする。
 - ダイバーのマスクとレギュレーターを外し、気道を確保して呼吸を確認する。
2. 以下の方法を使って、水の中でのレスキュー呼吸をデモンストレーションする：
 - マウス・トゥ・レスキュー・ブリージング・マスク
 - マウス・トゥ・マウス
 - マウス・トゥ・ノーズ (オプション)
 - マウス・トゥ・スノーケル (オプション)
3. 効果的なレスキュー呼吸を続け、エキジットへ向かってダイバーを曳行しながら、器材 (事故者と救助者) を取り外す方法をデモンストレーションする。

課題 8 – 反応のないダイバーのエキジット

1. 呼吸しているが反応がないダイバーを、アシストありとアシストなしでエキジットさせる。
2. 呼吸していないダイバーを、アシストありとアシストなしでエキジットさせる。

課題 9 – 圧力関連事故のファーストエイドと酸素供給

1. 呼吸をしているが反応がなく、減圧障害が疑われるダイバーに酸素供給するステップと手順をデモンストレーションする。
2. レスキュー呼吸用のレスキュー・ブリージング・マスクを使用して、呼吸していないダイバーに酸素供給をする。

課題 10 – 水面で反応のない(呼吸していない)ダイバーに浜／ボートから対応

反応がなく呼吸をしていないダイバーをレスキューしなければならぬという緊急事態に対応し、水面でのレスキュー呼吸、エキジット、CPRをデモンストレーションする。

セクション 4

レスキュー・シナリオ

シナリオについての一般的な注意事項

レスキュー・シナリオはすべてオープンウォーターで実施する。

1. シナリオは、無理のない計画と安全確保の範囲内で、できる限り現実的なものにする。
2. 環境とクラスの数に合わせてシナリオを調整する。生徒ダイバーは、チームまたは個人としてシナリオを実行する。
3. 認定アシスタントを使って、傍観者役、救急隊 (EMS) のオペレーター役、他のダイバー役、事故者役など、シナリオに欠けている部分を補う。
4. 標準的な器材 (ファーストエイド・キットと酸素キット) を準備し、器材のセッティングと設置は生徒ダイバーが行なう。
5. 自信をつけるために必要に応じてシナリオを繰り返し練習し、救助者としての能力を高めるとともに、全員が各役割を演じられるようにする。

達成条件

シナリオ 1 – 水中で反応のないダイバー

事故のシミュレーションで、行方不明ダイバーを捜索して発見する。デモンストレーション:

1. 事故者のバディに話を聞き、情報から論理的な結論を引き出す。
2. 迅速で効率的な捜索方法を計画する(水面と水中のサーチパターンを使う)。
3. 行方不明ダイバーを捜索して発見する。
4. コントロールされたプラス浮力を使って、意識不明をシミュレーションしているダイバーを水面に引き上げる。

シナリオ 2 – 水面で反応がないダイバー

デモンストレーション:

1. 事故のシミュレーションで、反応がなく呼吸をしていないダイバーに効果的に対応する。
2. 評価、曳行、水面でのレスキュー呼吸、器材の取り外し、エキジット、CPR。

注意: CPRマネキンを使うか、CPR圧迫をシミュレーションする。

MASTER SCUBA DIVER™ PROGRAM

INSTRUCTOR GUIDE



本ガイドで別途指定されている場合を除き、「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準はPADI Master Scuba Diverプログラムに適用される。

コース規準

Master Scuba Diver資格は、PADIシステムの中で最高のレクリエーション・ダイバー資格であり、優れた経験と実績のあるダイバーを表す。

認定条件

- 12歳以上

注意：12～14歳のダイバーはJunior Master Scuba Diver資格を取得できる。

- PADI (Junior) Advanced Open Water Diver、PADI (Junior) Rescue Diver、および以下の中から5種類のPADI認定を受けている。
 - PADI Specialty Diver コース
 - PADI TecRec コース
 - PADI Public Safety Diver コース
 - PADI Freediver コース (ベーシックは除く)
 - PADI Mermaid コース (ベーシックは除く)
- ログに記録されたスクーバのダイブ本数50本

インストラクター資格

インストラクター

手順

認定条件を確認し、Master Scuba Diver申請書(10142J)をPADIオフィスへ提出する。

Dedicated Master Scuba Diverの認定

ダイバーは次の方法でDedicated Master Scuba Diverの資格を得る：

- Master Scuba Diverとしての年齢条件、PADI Advanced Open Water DiverとRescue Diverの認定、50本以上のログに記録されているスクーバ・ダイブ経験本数など、Master Scuba Diver認定のための必要条件を満たす。
- Dedicated Master Scuba Diverのプログラムのひとつとして、5つのPADIディステインクティブ・スペシャルティ・ダイバー・プログラムの認定を取得する。
- インストラクターと一緒に、PADI Dedicated Master Scuba Diverの申請書をPADIリージョナル・ヘッドクォーター(各地域本部)に提出する。

DIVEMASTER COURSE

INSTRUCTOR GUIDE



本ガイドで別途指定されている場合を除き、「一般
規準と手続きガイド」に概説されている規準はPADI
Divemasterコースに適用される。

この認定を取得しているダイバーは、レクリエーション
ル・スクーバ・ダイバー・トレーニングのISO 24801-3要
件を満たしている - パート3:レベル3 - ダイブ・リーダー

セクション 1

コース規準

認定条件

ダイブマスター候補生はコース達成条件を満たし、さらに以下を満たさなければならない:

- 「PADI *Divemaster* マニュアル」または *Divemaster eLearning* を使ってナレッジレビューを含めた知識開発セクションを修了し、*Divemaster* ファイナル・エグザムに合格する。
- 指定されたダイビング・ポイントの緊急アシストプランを作成する。
- 水中スキル実習を修了する。
- ダイバー・レスキュー評価を修了する。
- ダイブスキル・ワークショップと評価を修了する。
- 実践応用スキルを修了する。
- *Divemaster* が実施できるプログラムのワークショップを修了する。
- 実践評価を修了する。
- プロフェッショナルリズムの基準を満たす。

認定時、候補生が以下を満たしていることを確認する:

- ナイト・ダイビング、ディープ・ダイビング、アンダーウォーター・ナビゲーション経験を含めて、ログに記録されたダイブ本数 60 本以上。
- 過去 24 ヶ月以内に EFR Primary and Secondary Care トレーニングを修了 (インストラクター・マニュアル「一般規準と手続き」参加前条件に準ずる)。
- PADI メンバーシップ同意書およびライセンス同意書を読んで同意する。

ダイバーの参加前条件

- PADI Advanced Open Water DiverおよびPADI Rescue Diver認定
- 18歳以上
- ログに記録されたダイブ本数40本
- 過去24ヶ月以内にEFR Primary and Secondary Careトレーニングを修了(インストラクターマニュアル「一般規準と手続き」参加前条件に準ずる)。
- 過去12ヶ月以内に医師による健康診断を受け、ダイビング許可を得ている

器材

「一般規準と手続きガイド」に記載されているインストラクターおよび認定アシスタント用器材を参照。

書式(フォーム)

最新の書式をPADIプロサイトからダウンロードすること。各国固有の免責同意書、申請書、書式については、所属PADIオフィスに確認する。

必須

Divemaster資格申請書 (10144J)

Release of Liability/Assumption of Risk/Non-agency Acknowledgment Form – 免責同意書 (10072J または 10175EU) およびPADI安全潜水実施了解声明書 (10060J); または継続教育専用書式 (10038J または 10541EU)

ダイバーメディカル/参加者チェックシート (10346J)

推奨

ダイブマスター候補生個人情報と評価表 (10147J)

インストラクター資格

インストラクター

教材

必須

- PADI *Divemaster* マニュアルまたは *Divemaster eLearning*
- PADI *Instructor Manual*
- RDP - テーブルおよび eRDPML と使用説明書
- *The Encyclopedia of Recreational Diving*
- Divemaster スレート
- ログブック

ダイブマスター候補生はPADI Divemasterビデオを見なければならぬ。

推奨

- PADI's *Guide to Teaching*
- *Diving Knowledge Workbook* または *Dive Theory eLearning*
- PADI スキル練習とダイブ・プランニング・スレート

人数比

1:8

順序

1. 実習、ワークショップ、評価、実践応用を含めて、すべての水中セッションの前に、知識開発トピック1「PADI Divemasterの役割と資質」を実施する。

注意: 候補生は *Divemaster eLearning* を修了した場合でもインストラクターからプレゼンテーションが必要。

2. 知識開発トピック2と3「認定ダイバーの監督」と「生徒ダイバーのアシスト」は、実践評価の前に実施する。
3. 知識開発トピック5「Divemasterが実施できるプログラム」は、「Divemasterが実施できるプログラムのワークショップ」の前に実施する。

監督

「一般規準と手続きガイド」を参照。

水中能力評価およびスキル練習中に関する監督については「一般規準と手続き」を参照。

セクション 2

知識開発

知識開発トピック1 – 「PADI Divemasterの役割と資質」を実施する。

候補生は、すべてのナレッジレビューとエグザムを含めて、5つの知識開発セグメントをすべて修了しなければならない。候補生は、PADI *Divemaster* マニュアルとビデオを使用するか、*Divemaster eLearning*を通じて自主学習をする。知識開発には、自主学習、プレゼンテーション、ディスカッションを組み合わせることができる。

デジタル学習者のために、候補生がオンラインで修了しなかったすべての評価を完了させる。オンラインですべての評価を修了した候補生は、Divemasterクイックレビューを修了する。

PADI Divemasterファイナル・エグザムを対面で行う場合、候補生は、RDPテーブルとeRDPML、電卓、PADI *Instructor Manual*を参考用に使用することができる。過去12ヶ月以内に*Dive Theory eLearning*を修了した候補生は（eRecordで証明）、エグザムのパート2に対するクレジットを受けることができる。

候補生は、指定されたダイビング・ポイントで発生したダイビング事故を管理するのに必要な情報を記載した緊急アシストプランを作成しなければならない

ナレッジレビューとエグザムのアンサーキーはPADIのプロサイトに掲載されている。。

セクション 3

水中スキル開発

水中能力評価およびスキル練習中に関する監督については「一般規準と手続き」を参照。

水中スキル実習

候補生は5つの水中スキル実習を修了し、合計得点15点以上を得点しなければならない。候補生は器材交換スキルで少なくとも3点以上を取らなければならない。そのほかの各実習に合格点はない。

スタミナ実習 1: 400メートル／ヤード水泳

水泳用の補助具を使わずに400メートル／ヤードをノンストップで泳ぐ。泳ぎ方はどのようなものでもよく、組み合わせてもよい。

400メートル 時間	得点	400ヤード 時間
6分30秒未満	5	6分未満
6分30秒以上8分40秒未満	4	6分以上8分未満
8分40秒以上11分未満	3	8分以上10分未満
11分以上13分未満	2	10分以上12分未満
13分以上	1	12分以上
途中で止まった	不合格	途中で止まった

スタミナ実習2: 15分間立ち泳ぎ

水泳用の補助具は使わずに水着だけで、溺れないように15分間立ち泳ぎをする。最後の2分間は手首を水から出す(腕ではない)。

例外: 身体的障害のある候補生で、手首を水から出しておくのが困難あるいは不可能な場合は、手首を出しておく評価部分は得点に関係なしに省略できる。

得点	基準
5	満足に終了した
3	浮いていたが、2分間水から手首を出していなかった
1	2回以内だけプールサイド／水底に瞬間的にさわって身体を支えた
不合格	3回以上プールサイド／水底にさわって身体を支えた

スタミナ実習3:800メートル／ヤード・スノーケル・スイム

マスク、スノーケル、フィンを使い、浮き具なしで手を使わずに、顔を水につけたままノンストップで800メートル／ヤードを泳ぐ。

例外: 身体障害により脚の動きが制限されているため、普段のダイビングで腕を使って泳いでいる候補生は、腕を使ってもよい。

800メートル 時間	得点	800ヤード 時間
14分未満	5	13分未満
14分以上16分30秒未満	4	13分以上15分未満
16分30秒以上18分30秒未満	3	15分以上17分未満
18分30秒以上21分未満	2	17分以上19分未満
21分以上	1	19分以上
途中で止まった	不合格	途中で止まった

スタミナ実習4:100メートル／ヤード疲労ダイバー曳行

アシストなしで、ダイバーをノンストップで100メートル／ヤード曳行する(または押す)。ダイバーは両方ともスクーバ器材をフル装備。

100メートル 時間	得点	100ヤード 時間
2分10秒未満	5	2分未満
2分10秒以上3分15秒未満	4	2分以上3分未満
3分15秒以上4分20秒未満	3	3分以上4分未満
4分20秒以上5分30秒未満	2	4分以上5分未満
5分30秒以上	1	5分以上
途中で止まった	不合格	途中で止まった

スタミナ実習5 — 器材交換

限定水域にて中性浮力を保った状態ですべてのスクーバ器材（保護スーツとウエイトベルトを除く）をバディと交換することで、水中で起きる緊急事態に対していかに冷静に対処できるかを実演する。この実習では最低スコア3を獲得。スクーバ器材の交換を行っている際にダイバーは、メインのセカンドステージからではなく、お互いの予備の空気源を使って呼吸する。またマスクについては、交換するのではなく、一旦外した後に自分のマスクを再度装着することになる。

実施内容

- この実習についてバディ同士で話し合いを持つ時間を5分以内で設ける。
- 足の立たない深場にて水底に触れることなく、または水面に出てしまうことなくこの実習を完了する必要がある。
- 敢えてトラブルを与えないようにすること。候補生には、自然に起きるトラブルを解決させるようにさせる。

得点	基準
5	よく考えて、手際よく、トラブルを感じさせないような、しっかりと目的にあったやり方で、器材交換を完了した。不安のレベルはきわめて低かった。いつも通りの動きのようで、簡単そうに見え、どちらの候補生も水底や水面に接触しなかった。
4	不安のレベルは比較的 low、上手にやりとげた。トラブルはあったが、簡単かつ効率的に水底や水面にふれることなく対処した。
3	中性浮力を保ちながら器材交換を完了した。ただし、多数のトラブルがあったため、スピードが遅く、効率が悪かった。このスコアは、パディに頼りすぎるダイバーにも、適用される。
2	大きなトラブルがあった。パディの一方または両方が1回浮上した後、器材交換を完了した。
1	器材交換を完了できなかった。あるいは、交換できたが、パディの一方または両方が複数回浮上した。

ダイバー・レスキュー

以下のステップを含めて、意識不明で呼吸していないダイバーに対応する候補生の能力を評価する：

- 水に入り、25メートル／ヤードほど離れたところに沈んでいるダイバーを探して水面に引き上げる。
- ダイバーを仰向けにし、浮力を確保する。
- ダイバーのマスクとレギュレーターを外し、気道を確保して呼吸をチェックする。
- 助けを呼ぶ
- ゆっくりと2回のレスキュー呼吸を施した後、できるだけ中断することなく、5秒ごとに1回の効果的なレスキュー呼吸を続ける。
- 気道を確保し、レスキュー呼吸を続けながら、安全な場所までダイバーを曳行する

- **双方の器材を外す**（器材回収係を使うのは可）。
- **ダイバーを水から引き上げる。**（アシストを使うのは、特定の身体障害や環境上のコンディションによりアシストが必要な場合のみとする。）

実施方法: 限定水域またはオープンウォーターのいずれかでダイブマスター候補生のレスキュースキルを育成し、評価する。

ダイブスキル・ワークショップ

スクーバとアドバンスド・スノーケリングの全スキルをデモンストレーションし、各スキルで少なくとも3点、合計で82点以上を得点し、少なくともひとつのスキルで5点を取る。

実施内容

- デモンストレーションレベルのスキルの特質について述べ、重要なポイントを大げさに強調して見せることが大切であることを説明する。
- 各スキルをデモンストレーションし、候補生に練習させる。
- 練習後、候補生にスキルをデモンストレーションさせ、採点する。達成条件を満たすまで、必要に応じて補習する。

得点	基準
5	正しくゆっくりと、誇張した動作で実施した。簡単そうに見えた
4	正しくゆっくりと、スキルの詳細を十分に見られる様に実施した
3	正しく実施したが、早すぎてスキルの詳細を十分に見せられなかった
2	スキルがやっとできた、または間違っていた
1	候補生は、スキルができなかった

注意: この評価基準は、PADIのリーダーシップ・トレーニングのすべてのランクにおいて、スキル評価の採点に使用されている。

ダイブスキル:

1. 器材セッティング(組立と取外)、準備、装着と調整
2. プレダイブ・セーフティ・チェック(BWRAF)
3. ディープ・ウォーター・エントリー
4. 水面での浮力チェック

5. スノーケルからレギュレーター／レギュレーターからスノーケル交換
6. ファイブ・ポイント潜降、浮力コントロールを行ない、水底に接触しないで潜降する
7. レギュレーター・リカバリーとクリア*
8. マスクの脱着とクリア*
9. エア切れの練習と予備の空気源の使用(停止位置)
10. 予備の空気源での浮上
11. フリーフロー・レギュレーターからの呼吸
12. 中性浮力で上下動 - パワー・インフレーターを使って
13. ファイブ・ポイント浮上
14. コントロールされた緊急スイミング・アセント
15. オーラルを使ってBCDに空気を入れ、少なくとも60秒間ホバリング
16. 水中でのマスクなし移動
17. 水中でウエイト・システムの脱着
18. 水中でスクーバキットの脱着
19. 水面でスクーバキットの脱着
20. 水面でウエイト・システムの脱着
21. ヘッドファースト・サーフェスダイブ、口からスノーケルを外す
22. インフレーター・ホースの取り外し
23. 緩んだシリンダー・バンドの締め直し
24. エマージェンシー・ウエイト・ドロップの実施

*5点を得点するには、ダイバーは中性浮力の状態でスキルをデモンストレーションしなければならない

セクション 4

実践応用

候補生は以下の実践スキル、ワークショップ、実践評価を修了しなければならない。必要に応じて、スキルとワークショップおよび実践評価を組み合わせる。

実践スキル

スキル1ー ダイビング・ポイントでのセットアップと管理

ダイブマスター候補生は、バディチーム、もしくは個々に以下のようにダイビング・ポイントをセットアップし、プレダイブ準備を管理する：

- ダイバーが器材をセッティングするのに適した場所を選ぶ。
- ファーストエイドキットや酸素ユニットなど緊急用器材の準備をする。
- ダイビング・ポイント／ボートに到着したダイバーを出迎え、案内する。例 - どこに器材を置けばよいか、トイレなどの施設はどこにあるかなど。
- 名簿を準備し、チェックインとチェックアウトの手順をダイバーに説明する。
- ビーチダイビングの場合には、フロート／ダイブフラッグを準備して設置する。ボート・ダイビングの場合には、潜降ラインとダイブフラッグが準備されているかどうか確認する。
- ダイバーを監督するのに適した位置を選ぶ。
- ダイビングの前後に、ダイバーからの質問に答え、いつでもアシストできる準備を整えておく。

スキル2:水中地図の作成

ダイブマスター候補生は、バディチームでオープンウォーターのダイビング・ポイントを調査し、水底の起伏、重要なポイント、環境上の注意点、エントリー／エキジットに推奨されるエリア、付近の施設、危険物などを示す詳しい地図を作成する。

スキル3:ブリーフィング

各ダイブマスター候補生は、よく知っているダイビング・ポイントで、下記およびDivemasterスレートにリストされている10のポイントを取り入れたブリーフィングを実施する。可能なら、ダイビング・ポイントの水中地図作成の課題で作った地図を使うよう指示する。

1. ダイビング・ポイントの名称
2. ポイントの説明
3. ダイブマスターの役割、水中での見分け方
4. エントリー／エキジット方法
5. ダイビング手順
6. 緊急手順
7. そのダイブに合わせたシグナルの復習
8. ダイバー確認作業(名簿)／バディチェック
9. 環境のオリエンテーション
10. プレダイブ・セーフティ・チェック

スキル4:サーチ&リカバリーのシナリオ

様々なサーチ&リカバリーのシナリオを設定して、ダイブマスター候補生に以下の課題を与える:

- 水中に沈んだ小さな物体を探すのに適したサーチ方法をデモンストレーションする。
- 重さ11キロ／25ポンド以下のマイナス浮力の物体を探すのに適したサーチ方法をデモンストレーションする。

- 水中で、バウライン、ツーハーフヒッチ、シートバンドを正しく結ぶ。
- 適切なリフトバッグを使って、重さ11キログラム／25ポンド以下のマイナス浮力の物体をリフトバッグに結び付け、安全に水面まで持ち上げる方法をデモンストレーションする。

スキル5: ディープ・ダイビングのシナリオ

ディープ・ダイビングで、各ダイブマスター候補生に以下の課題を与える:

- バディとダイビング前に、緊急用呼吸器材を準備し、安全停止の位置に設置する。
- バディと離れないように注意し、潜降速度をコントロールしながら、ライン、壁、傾斜した水底を視標として使い潜降する。
- 指標ラインまたは指定した場所から少なくとも20キックサイクル分の距離を、コンパスを使ってナビゲーションしながら往復する。
- 深度計と時計またはダイブ・コンピューターを使って浮上速度を確認しながら、指標ライン、ウォール(壁)、傾斜した水底を指標として使い、1分間に18メートル以下の速度で浮上する。
- 水面に出る前に、指標ラインにつかまらずにポジションを維持しながら、深度5メートル／15フィートの位置で3分間の安全停止を行なう。

ダイブマスターが実施できるプログラムのワークショップ

ワークショップ1: ReActivateプログラム

- PADI *Instructor Manual*でReActivateプログラムの規準を参照する。
- ReActivateの知識評価の方法について説明する。
- ReActivateの処方的な方法による、練習するスキルの決定の仕方をデモンストレーションする。
- スキル練習中に気付いた問題点を正す。

実施内容

- PADI *Instructor Manual*に記載されている ReActivateの規準を候補生と見直し、知識評価の方法について話し合う。
- お手本となるReActivateのウォータースキル・セッションを限定水域もしくはオープンウォーターで実施し、参加者のまとめ方、器材の準備方法、実施場所の説明の仕方などをデモンストレーションする。
- 候補生は交代で参加者にどのスキル練習をするかを決めるための聞き取りをする。他の候補生／スタッフが参加者役を演じる。候補生に、練習したいスキルを確認したり、ダイビングしてなかった期間や、過去のダイビングの経験から、見直しが必要なスキルを勧めたりする。
- スキル練習中、参加者役にトラブルをランダムに割り当て、候補生には、トラブルに気付いたらただちに対処するよう指示する。必要に応じて、デモンストレーションと問題解決の補習を行なう。
- PADI OLPC (オンライン・プロセッシング・センター) を通じて、ReActivateの日付での認定カードの手続き方法を見直す。

ワークショップ 2: Advanced Snorkeler (Skin Diver) コースとスノーケリングの監督 (限定水域またはオープンウォーターで実施)

- **Advanced Snorkeler コースのブリーフィングまたはスノーケリング・ツアーのブリーフィングを行なう。**
- **Advanced Snorkelerコースの限定水域ダイブまたはオープンウォーター・ダイブ、またはスノーケリング・ツアーを実施して、コントロールと監督方法をデモンストレーションする。**
- **ダイブまたはスノーケリングツアー中に気付いた問題点を正す。**

実施内容

- スクーバ・ダイビングのブリーフィングとスノーケリングツアーのブリーフィングとの違いについて話し合う。
- 各候補生は、指定されたシナリオに基づいてブリーフィングを

実施する。例えば、20人のスノーケラーが大型のボートから熱帯のサンゴ礁を探検する、4人のアドバンスド・スノーケラーがビーチから波をくぐってエントリーする、子供連れの2家族が穏やかなラグーンでスノーケリングする、4人のAdvanced Snorkelerコースの生徒ダイバーがプールでスキルを練習するなど。

- 候補生は交代で参加者役を演じる他の候補生／スタッフを相手にショートツアーを実施するか、advanced snorkelingのスキル練習を実施する。参加者役にトラブルをランダムに割り当て、候補生には、トラブルに気付いたらただちに対処するよう指示する。必要に応じ、監督テクニックと問題解決の補習を行なう。

ワークショップ3: 限定水域でのDiscover Scuba Divingプログラム

- **PADI *Instructor Manual*でDiscover Scuba Divingプログラムの規準が記載されているページを開き、限定水域における認定アシスタントとしてのダイブマスターの役割について説明する。**
- **PADI *Instructor Manual*でDiscover Scuba Diving Leader Internshipの必要条件が記載されているページを開き、DSD Leaderの資格を得る方法について説明する。**
- **インストラクターの指示に従って、参加者に対する正しいポジショニングをデモンストレーションする。**
- **ワークショップ中に気付いた問題点を正す。**

実施内容

- Discover Scuba Divingの規準を説明し、認定アシスタントとしてダイブマスターが限定水域でできることについて話し合う。
- Discover Scuba Diving Leader Internshipの必要条件について説明し、ダイブマスターの認定を受けた後に、どうすればDSD Leaderの資格を得ることができるかについて話し合う。

注意: 認定済PADI Divemasterのみ、DSD Leader インターンシップ・トレーニングに参加する資格がある。ダイブマスター候補生は参加不可。

- お手本となる限定水域セッションを実施する。候補生は交代で、参加者役を演じる他の候補生／スタッフを相手に、認定アシスタント役を練習する。参加者役にトラブルをランダムに割り当て、候補生には、トラブルに気付いたらただちに対処するよう指示する。必要に応じて、アシスタントのポジショニング、監督テクニック、問題解決の修正を行なう。

ワークショップ4: Discover Scuba Divingプログラムの追加のオープンウォーター・ダイブ

- Discover Scuba Diving参加者にPADI Divemasterが実施する追加ダイブ(インストラクターが実施した最初のダイブの後のダイブ)の人数比と監督条件について説明する。
- Discover Scuba Diving参加者の追加のオープンウォーター・ダイブに適したブリーフィングをする。
- 適切なコントロール方法と必要な監督をデモンストレーションしながら、ダイブを先導する。
- ダイビング中に気付いた問題点を直す。

実施内容

- Discover Scuba Divingでダイブマスターが実施する追加のオープンウォーター・ダイブでの人数比と監督条件に関する規準を説明する。
- 候補生にブリーフィングを実施するよう指示する。
- 候補生は交代で、他の候補生／スタッフが演じる参加者役を先導する。参加者役にトラブルをランダムに割り当て、候補生には、トラブルに気付いたらただちに対処するよう指示する。必要に応じ、監督テクニックと問題解決の補習を行なう。

ワークショップ5: オープンウォーターでのDiscover Local Diving

- PADI *Instructor Manual*でDiscover Local Divingプログラムの規準が記載されているページを開く。
- ダイビング・ポイントのコンディションを評価し、ダイブプランを立てる。
- Discover Local Divingのブリーフィングをする。

- **コントロール方法と監督をデモンストレーションしながら、ダイブを先導する。**
- **ダイビング中に気付いた問題点を直す。**
- **サーフェス・マーカースイッチの使い方をデモンストレーションする。**

実施内容

- Discover Local Divingの規準を説明する。
- コンディションを評価し、観察結果を説明するよう候補生に指示する。
- 指定されたシナリオに基づいてダイブプランを立て、ブリーフィングを実施するよう候補生に指示する。例えば、数年間ダイビングから遠ざかっていて、先日ReActivateを修了したばかりのダイバー、初めて冷たい海のケルプ群生地域で潜るダイバー、初めてボート・ダイビングに参加するダイバー、初めてサーフェス・マーカースイッチ (SMB) を使うダイバーなど。
- 候補生は交代で、他の候補生／スタッフが演じる参加者役を先導する。参加者役にトラブルをランダムに割り当て、候補生には、トラブルに気付いたらただちに対処するよう指示する。必要に応じ、監督テクニックと問題解決の補習をを行なう。
- 地域で使用するDSMB (ディレイド・サーフェス・マーカースイッチ) やシグナルフロートなど、数種類のサーフェス・マーカースイッチの使い方をデモンストレーションするよう候補生に指示する。

実践評価

実践評価1～3は、実際の生徒ダイバーで実施する。それができない場合には、ロールプレイでもよい。実際の生徒ダイバーではなくシミュレーションで行なう場合には、各評価で少なくとも4人がロールプレイに必要。ロールプレイには、他のダイブマスター候補生、スタッフ、認定ダイバーに参加してもらうことができる。

実践評価4は少なくとも実際の認定ダイバー4人で実施する。

下記の基準に基づいてダイブマスター候補生が各達成条件で3点以上を得点するまで、必要に応じて評価を繰り返して実施する。

得点	基準
5	ミスをせず、自分の力で目標を達成した。インストラクターとダイバーが必要とすることを予測して行動した。
4	ミスをせず、インストラクターやスタッフの大幅な手助けを借りずに目標を達成した。
3	いくつかの小さなミスはあったが、目標は正しく達成した。インストラクターによる訂正と途中のアドバイスも、短い注意やヒントの範囲内にとどまった。
2	目標達成の条件となる課題についての理解が不十分だった。大きな失敗や内容不足があった。要求にかなう結果にするには、インストラクターによる訂正と途中のアドバイスが必要だった。
1	大きなミスや手拔かりが多数あった。目標は達成されなかった。

未認定のダイブマスター候補生を使って、インストラクター対生徒ダイバーの人数比を増やすことはできない。しかし、ダイブマスター候補生は、インストラクター対生徒ダイバーの最大人数比に加算されない。**インストラクターはまた、生徒ダイバーをアシストしている候補生を直接的に監督し、生徒ダイバーが正しいトレーニングを受けられるよう、必要に応じて補足し、候補生のやり方に間違いがあった場合には、それを訂正しなければならない。**

実践評価1 — 限定水域でのOpen Water Diverコースの生徒ダイバー

1. 生徒ダイバーによるダイビング前の器材セッティングをアシストする。
2. トレーニング中の生徒ダイバーの流れを取りまとめる。
3. トレーニング中、インストラクターが直接的に見ていない生徒ダイバーを監督する。

4. うまくマスターできない生徒ダイバーを手助けする。
5. 生徒ダイバーのトラブルに対処する、または防止する。
6. 生徒ダイバーにスキルをデモンストレーションする。

実践評価2 — オープンウォーターでのOpen Water Diverコースの生徒ダイバー

1. オープンウォーター・トレーニングの場所をチェックし、その場所がエントリー・レベルのダイバーのトレーニングに適しているかどうかについて、インストラクターに報告する。
2. 生徒ダイバーによるダイビング前の器材セッティングをアシストする。
3. ダイビング・ポイントの準備をアシストする
4. トレーニング中の生徒ダイバーの流れを取りまとめる。
5. トレーニング中、インストラクターが直接的に見ていない生徒ダイバーを監督する。
6. 生徒ダイバーのトラブルに対処する、または防止する。
7. 水中ツアーで生徒ダイバーを先導する(人数比2:1)。

実践評価3 — オープンウォーターでの継続教育生徒ダイバー

1. トレーニング中の生徒ダイバーの流れを取りまとめる。
2. インストラクターの間接的監督可能なトレーニング・ダイブ中、継続教育生徒ダイバーに付き添い、パフォーマンスや学習に問題があった場合には、それをインストラクターに報告する。
3. うまくマスターできない継続教育の生徒ダイバーを手助けする。
4. 生徒ダイバーのトラブルに対処する、または防止する。

実践評価4 — オープンウォーターでの認定ダイバー

1. コンディションとダイバーの評価を実施し、評価に基づいて適切な監督と対策を講じる。

2. ダイビング・ポイントに適したブリーフィングを行なう。
3. エントリー／エキジットするバディチームを確認する。
4. ダイバーのトラブルに適切に対処する、または防止する。

プロフェッショナリズム。

実践応用が終了するまでに、ダイブマスター候補生は以下の各カテゴリーで3点以上を得点しなければならない。

1. 積極的でトレーニングセッションに前向きに参加している。
2. 生徒ダイバーに対し、良き助言者(メンター)としての役割を果たす能力がある。
3. 進んで指示に従う。
4. 生徒ダイバー、認定ダイバー、スタッフに対し、積極的で前向きな姿勢／態度を示す。
5. 環境を大切にすることに対し、積極的で前向きな姿勢を実践する。
6. ダイブマスターの役割を全般的に理解している。
7. 外見。

得点	基準
5	優秀
4	平均以上
3	許容範囲
2	平均以下
1	不可

JUNIOR DIVEMASTER COURSE

INSTRUCTOR GUIDE



PADI

本ガイドで別途指定されている場合を除き、「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準はPADI Junior Divemasterコースに適用される。

コース規準

PADI Junior Divemaster コースは PADI Divemaster コースのサブセットである。このコースは、完全なPADI Divemaster になるのに十分な年齢になるまで、関心のある若者を引き付け、やる気を起こさせることを目的としている。PADI Junior Divemaster 候補者は、達成条件に若干の変更を加えたDivemasterコースの一部を修了する。認定を受けたJunior DivemasterはPADIメンバーではなく、認定アシスタントとして活動することも、ダイバーを監督する資格権限もない。代わりに、Junior Divemaster アクティビティに記載されているように、PADIプロフェッショナルのアシストができる。

以下の修正および例外を除き、PADI Divemaster コース規準が適用される。

認定条件

- PADI *Divemaster eLearning* 中のナレッジレビューを含むすべての知識開発セグメントの修了
- PADI Junior Divemaster エグザムの修了 (75パーセント以上の得点および復習による100パーセントのマスタリー)
- 指定されたダイビング・ポイントの緊急アシストプランを作成する。
- セクション 3、水中スキル開発の実習 1-4の修了：
 - 注意：水中能力評価およびスキル練習中に関する監督については「一般規準と手続き」を参照。
 - 400メートル／ヤード水泳 – ノンストップ
 - 15分間立ち泳ぎ – ノンストップ
 - 800メートル／ヤード・スノーケル・スイム – ノンストップ
 - 100メートル／ヤード疲労ダイバー曳行 – ノンストップ
- ダイブマスター・ダイバー・レスキュー評価の修了
- ダイブスキル・ワークショップと評価を修了する。

- 以下の実践応用スキルの修了：
 - スキル1 — ダイビング・ポイントでのセットアップと管理 – Junior Divemaster候補生は、以下のようにダイビング・ポイントをセットアップし、プレダイブ準備を管理するPADIプロフェッショナルのアシストをする：
 - スキル2：水中地図の作成 – PADIプロフェッショナルによる間接的監督および助けを借りながら、Junior Divemaster候補生は、記載されているすべての特徴を示すサイトの詳しい地図を作成する。
 - スキル3：ダイブ・ブリーフィング – Junior Divemaster候補生は、よく知っているダイビング・ポイントで、下記およびDivemasterスレートにリストされている10のポイントを取り入れたブリーフィングをインストラクターにのみ実施する。
 - スキル4：サーチ&リカバリーのシナリオ – Junior Divemaster候補生は、様々なサーチ&リカバリーのシナリオとロープワークを修了し、直接監督下で、適切なリフトバッグを使って、重さ11キログラム／25ポンド以下のマイナス浮力の物体をリフトバッグに結びつけ、安全に水面まで引き揚げる方法をデモンストレーションする。
- プロフェッショナリズムの基準を満たす。

認定時、候補生が以下を満たしていることを確認する：

- ナイト・ダイビング、ディープ・ダイビング、アンダーウォーター・ナビゲーション経験を含めて、ログに記録されたダイブ本数40本以上。
- 過去24カ月以内に、Emergency First Response Primary and Secondary Careコース（またはそれに相当するトレーニング）を修了。トレーニングはJunior Divemasterコースと一緒に修了してもよい。PADI Emergency Oxygen Provider スペシャルティ 推奨

ダイバーの参加前条件

- PADI Advanced Open Water DiverおよびPADI Rescue Diver認定
- 15歳以上
- ログに記録されたダイブ本数20本

書式

必須

継続教育専用書式 (10038J or EU 10541) とダイバーメディカル／参加者チェックシート (10346J)

推奨

Junior Divemaster コース・レコードと委託紹介書式

ジュニア・ダイブマスターの生徒がすべての認定条件を修了したら、認定インストラクターはPIC(封筒またはオンライン)をPADI地域本部に提出する。

インストラクター資格

Junior Divemaster Instructor申請書をPADI地域本部に提出し、承認を受けたInstructor

Junior Divemasterの活動

Junior Divemasterは、すべてのダイビング活動において、お手本となるような行動とダイビングの実践を示すことが求められる。

Junior Divemasterは以下の事ができるようになる：

1. PADI Professional のヘルプ/付き添い：
 - ダイビング・ポイントのセットアップと管理
 - ビーチマスターとしての任務
 - ダイブクラスのセットアップと編成

- バディが必要なスキル・デモンストレーションをPADI Professional と実施する(予備の空気源の使い方など)
 - PADI Professionalの直接監督下で、ダイビング・ポイントのブリーフィング
2. ダイブセンターやリゾートなど、コミュニティ内のさまざまなグループに「ダイビングを学ぶことのメリット」、環境およびプロモーションのプレゼンテーションを実施する

注意: Junior DivemasterはPADI Divemaster 教材を使用して学習し、準備をするが、認定アシスタントとしての資格はない。**PADI Junior Divemaster が監督**をしている状況に置いたりしてはならない。

Divemaster へのアップグレード手順

18歳に達した時点で、Junior Divemaster はPADI Divemaster コースへの参加の準備が整っていることになる。**Junior Divemasterが以下のトレーニングを修了し、36ヶ月以内にDivemaster コースへ参加した場合、以下のセグメントをクレジットすることができる:**

- 緊急アシストプラン
- スキル2:水中地図の作成
- スキル4:サーチ&リカバリーのシナリオ

これらの特定のコース・セグメント以外は、認定されたJunior DivemasterはDivemasterコース全体を修了し、PADI Divemasterになるためのすべてのコース要件を満たす必要がある。Junior Divemasterは、Divemasterコースの要件の多くを熟知し、達成しているため、トレーニングにかかる時間を短縮することができる。

DSD LEADER INTERNSHIP

INSTRUCTOR GUIDE



本ガイドで別途指定されている場合を除き、「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準はPADI DSD Leader インターンシップに適用される。

インターンシップ規準

Discover Scuba® Diving (DSD®) Leader インターンシップでは、認定 PADI Divemasterが、限定水域で PADI Discover Scuba Diving体験を実施する権限を与える追加の資格を取得できる。

参加前条件

アクティブ・ステータスのPADI Divemaster

認定条件

- インターンシップでは、PADI Instructorの直接的な監督のもとで、限定水域において4回の実際の（シミュレーションではない）PADI Discover Scuba Divingプログラムを実施する。
- DSD プログラム中：
 - 参加者へのDSD教材の配布する
 - 記入された管理書式の確認をする
 - 効果的な知識と安全の復習/ブリーフィングを実施する
 - 水中での適切な監督をデモンストレーションする
 - 効果的なディブブリーフィングを実施する
- インターンシップ中、DSD Leader候補者は各達成条件のリーダーシップ評価基準で3点以上を得点する。
- Discover Scuba Diving Leader 評価を修了する

書式(フォーム)

最新の書式をPADIプロサイトからダウンロードすること。各国固有の免責関連、申請書、書式については、所属のPADI リージョナル・ヘッドクォーターに確認する。

必須

PADI Divemaster – DSD Internship 修了書 (10151J)

DSD Leader アセスメント (584DTJ)

推奨

実践応用記録シート (10149J)

インストラクター資格

インストラクター

監督

PADI Instructor は:

- **DSD Leader候補生とすべての活動を直接監督しなければならない**
- **Discover Scuba Divingプログラム参加者への Divemasterの説明や指導が不十分だった場合には、監督の行き届いた完全なDiscover Scuba Divingプログラムになるように必要に応じて内容を補う。**

リーダーシップ評価

得点	基準
5	ミスをせず、自分の力で目標を達成した。参加者が必要とすることを予測して行動した。
4	ミスをせず、インストラクターやスタッフの大幅な手助けを借りずに目標を達成した。
3	いくつか多少の失敗はあったが、適切に目標を達成した。インストラクターによる訂正と途中のアドバイスも、短い注意やヒントの範囲内にとどまった。
2	目標達成の条件となる課題についての理解が不十分だった。大きなミスや手抜かりがあった。要求にかなう結果にするには、インストラクターによる訂正と途中のアドバイスが必要だった。
1	大きなミスや手抜かりが多数あった。目標は達成されなかった。

達成条件

候補生は、各達成条件のリーダーシップ評価基準で少なくとも3点を獲得しなければならない。

ブリーフィング／安全の復習

- 参加者とダイブマスターの役割をはっきりと説明した。
- Discover Scuba Diving Program Instructor Guideにリストされているブリーフィングのポイントをすべてカバーした。
- Discover Scuba Divingの知識と安全の復習が、Discover Scuba Diving eLearningを通じて修了したことを確認した、または参加者にDiscover Scuba Diving参加者ガイドを修了して署名させた。
- プログラムに参加する準備が整っているか参加者を評価した。

スキル

- 参加者の器材をセッティングしチェックした。
- 浅い水面で、以下のスキルを参加者に練習させた：
 - 水中での呼吸
 - レギュレーター・クリア
 - レギュレーター・リカバリー
 - マスク・クリア
 - 圧平衡のテクニック
 - 水面でBCDに空気を出し入れ
- 素早く浮力を調節するなど、水中で参加者にトラブルが生じた場合に対応できる位置にいて参加者を監督した。
- 参加者の浮力を効果的に調節した。
- 参加者のトラブルに効果的に対処した。
- すべての限定水域活動を手際よく実施しコントロールした。
- 参加者に積極的で楽しい経験をさせてあげることができた。
- すべてのPADI規準に従った。

ディブリーフィング

- プログラムの制限事項を説明した。
- PADI認定コースへ進むよう参加者に勧めた。

手順

DSD Leaderインターンシップを実施するPADI Instructorは、Discover Scuba Diving Program Instructor Guideに記載されているようにDSD参加者を登録する必要がある。

すべてのインターンシップ条件を修了したら、PADI Divemaster Discover Scuba Diving Internship 修了書を PADI リージョナル・ヘッドクォーターに提出する。候補生には、DSD プログラムを実施する前に、DSD Leader資格が承認されるまで待つようにアドバイスする。

参加者がオプションのオープンウォーター・ダイブに参加しない場合、DSD LeaderがDiscover Scuba Divingをプールまたは限定水域で単独で実施できる。

DISCOVER SCUBA® DIVING PROGRAM

INSTRUCTOR GUIDE



本ガイドで別途指定されている場合を除き、「一般
規準と手続きガイド」に概説されている規準はPADI
Discover Scuba Divingプログラムに適用される。

このプログラムを完了する参加者は、スクーバ・ダイビン
グの入門プログラム、ISO 11121要件を満たしている

セクション 1

プログラム規準

深度

限定水域 — 6メートル／20フィート

オープンウォーター — 12メートル／40フィート

ダイバーの参加前条件

10歳以上

器材

マスク、フィン、スクーバ・シリンダー、パワー・インフレーター付きBCD、レギュレーター、残圧計

インストラクター資格

限定水域 — **Discover Scuba Diving (DSD®) Leaderの資格を持つDivemaster**

注意: Discover Scuba Diving Leaderのトレーニング必要条件については、「プロフェッショナル・メンバーシップ・ガイド」を参照。

オープンウォーター — **Instructor**

注意: DSDリーダーインターンシップ指導者ガイド参照

教材

必須

参加者 — PADI *Discover Scuba Diving Participant Guide* または *Discover Scuba Diving eLearning*

インストラクターもしくはDSD Leaderは、知識開発／*Discover Scuba Diving Participant Guide* もしくはDiscover Scuba Diving キューカードまたはフリップチャートを使ったブリーフィングを実施する。

推奨

PADI *Discover Scuba Diving Video* (ビデオ)

参加者登録

Discover Scuba Diving参加者を体験7日以内に所属PADIオフィスに登録する。クオリティ・マネージメントを目的とした、参加者の正確な連絡先が含まれた情報を提出する。

DSD 参加者の管理ページからeLearningへ登録するか、*Discover Scuba Diving Participant Guide*の登録ページを使用して、オンラインで登録する、またはDiscover Scuba Divingプログラム登録用紙(10119J)を使用する。

人数比

ダイビング前、ダイビング中、そしてダイビング後も、継続して正しい判断を働かせる必要がある。様々な要素を検討してリスク評価を実施することは、プロとしてのインストラクターの責任である。水温、透視度、流れ、エントリー／エキジット、参加者の能力、認定アシスタントの数、自分とアシスタントの限界といったような要素を考慮して、どの程度の人数比が状況に適しているかを決定し、必要であれば人数比を減らす。変化する状況や、参加者を直接的に監督し、目を配ることについての自分自身の能力を考慮に入れ、ダイビング中もリスク評価を継続する。

参加者対インストラクター

PADIメンバー	プール	限定 オープンウ ォーター	オープンウ ォーター	追加 オープンウオー ター・ダイブ**
Instructor	1:8	4:1*	4:1*	4:1*
Assistant Instructor	1:8	4:1*	—	1:2
DSD Leader	1:4	1:2	—	1:2
Divemaster	—	—	—	1:2

* 認定アシスタント1人につき、最大2人まで参加者を追加できる。

** 参加者がインストラクターと最初のオープンウォーター・ダイブを修了した後。

認定ダイバーがDiscover Scuba Diving参加者に加わる場合には、認定ダイバーを人数比に数え入れ、Discover Scuba Divingの参加者対インストラクター人数比の範囲内に留める。

監督

水面でも水中でも、誰も生徒ダイバーに付き添っていない状態にしてはならない。

- 自分が認定アシスタントがすぐに手を伸ばし、浮力を調節し、生徒ダイバーをアシストできる位置に自分自身を配置する。
- ダイブを先導し、個々の参加者をアシストするために短い時間だけ目を離す以外、参加者全員に目を配り続ける。
- 参加者を監督している間は、写真やビデオを取るなど他の活動を行ってはならない。

Discover Scuba Diving Leaderの資格を持つDivemasterとAssistant Instructorは、プールまたは限定オープンウォーターでのみ、このプログラムを実施できる。

注意：Discover Scuba Diving Leaderのトレーニング必要条件については、「プロフェッショナル・メンバーシップ・ガイド」を参照。

最初のオープンウォーター・ダイブはインストラクターが直接的に監督する。Discover Scuba Divingの全行程を終了してから14日以内であれば、認定アシスタントまたはインストラクターの直接監督下で追加のオープンウォーター・ダイブに参加することができる。インストラクターは、認定アシスタントが行う追加ダイブを間接的に監督する。

14日以上経過した場合や、最初のプログラムを実施していない別のPADI Instructor、ダイブセンター、リゾートでダイビングを希望する場合、オープンウォーターダイブを行う前にDSDの全プログラムを修了する必要がある。

セクション 2

知識開発

*Discover Scuba Diving eLearning*を使用している参加者の場合、修了を確認し、安全の知識とスキルの復習を行う。

*Discover Scuba Diving Participant Guide*を使用している参加者の場合、知識開発セッション／ブリーフィングで、以下の内容をカバーする：

- 呼吸のルールと圧平衡のテクニック
- 器材の目的と使い方
- ハンドシグナル
- レギュレーターとマスククリアのテクニック
- 水中動植物への敬意（該当する場合）
- インストラクターをよく見て、常にそばにいることの大切さ
- プログラムの制限と、さらにトレーニングを受けることの価値

*Discover Scuba Diving*の知識と安全の復習を含めて、参加者は*Discover Scuba Diving Participant Guide*に必要事項を記入し、署名する。

セクション 3

限定水域

- **ブリーフィングを実施する**（セクション2 - 知識開発を参照）。
- 参加者が器材を装着するのを手伝う。
- プール体験の場合には、浅い水面でBCDに空気を出し入れする練習をさせる。
- 限定オープンウォーターの場合には、参加者はスキル達成条件を満たさなければならない。

- 参加者が浅い場所で水中を泳ぎまわるのを監督する。慣れてきたら、深い場所へ連れて行き、落ち着きとエアの消費量をモニターしながら見守る。
- デイブリーフィングを実施し、PADI認定コースへ進むよう参加者を誘う。

スキルの達成条件

浅い場所で以下のスキルを参加者に修了させる:

例外: プール体験の場合は、BCDに空気を出し入れするスキルのみ必修。

- 水中での呼吸
- レギュレーター・クリア
- レギュレーター・リカバリー
- マスク・クリア
- 圧平衡のテクニック
- 水面でBCDの給気と排気

参加者がオープンウォーター・ダイブに進むことになっていて、スキル練習に適した浅い場所がない場合には、深度2メートル／6フィート以内の潜降ライン、ハングバー、プラットフォームを使って、ボート、栈橋、その他の水面サポートステーションからスキル練習セッションを実施する。潜降ラインを使用する場合の人数比は1:1。

Open Water Diver コース – 限定水域ダイブ1

PADI Instructor は、DSD スキルの達成条件を満たすために、Open Water Diver コースの限定水域ダイブ 1の全てを実施することができる。インストラクターの裁量により、スキルを正常に修了した Discover Scuba Diving 参加者は、限定水域ダイブ 1を修了したクレジットを獲得できる。

セクション 4

オープンウォーター(オプション)

インストラクター:

- セクション 2 - 知識開発を実施する。
- スキル達成条件を実施する(セクション3 - 限定水域を参照)。
- 落ち着きとエアの消費量をチェックしながら、参加者をガイドしてダイビング・ポイントのツアーをする。

BUBBLEMAKER PROGRAM

INSTRUCTOR GUIDE



本ガイドで別途指定されている場合を除き、「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準は PADI Bubblemakerプログラムに適用される。

プログラム規準

深度

限定水域 — 2メートル／6フィート

ダイバーの参加前条件

8歳以上

器材

マスク、フィン、スクーバ・シリンダー、パワー・インフレーター付きBCD、レギュレーター、残圧計

インストラクター資格

アシスタント・インストラクター(Assistant Instructor)

教材

参加者と親／保護者が署名したPADI Bubblemaker声明書(10268J)

認証

ダイビング体験後、Bubblemaker参加証とカードを渡して参加者を表彰する。参加者のBubblemaker口グブックに記入する。Bubblemakerのワッペンとステッカーをプレゼントする。

人数比 — 参加者対インストラクター

PADIメンバー	プール	限定オープンウォーター
Assistant Instructor	1:4	1:4
Instructor	1:6	4:1*

* 認定アシスタント1人につき、最大2人まで参加者を追加できる。

注意: 浅い深度制限のため、10～11歳以上を対象とする限定オープンウォーター制限は適用されない。

監督

直接的監督 — 水面でも水中でも、誰も生徒ダイバーに付き添っていない状態にしてはならない。

限定水域

一般的な注意事項

- ブリーフィング - 器材の使い方、圧平衡の方法、レギュレーターとマスクをクリアする方法、呼吸のルールについて説明する。
- 足がつく浅い場所に参加者を連れて行く。
- 参加者が器材を装着するのを手伝い、水中で監督する。
- ディブブリーフィング - プログラムの制限について説明し、監督者なしでダイビングするには、さらにトレーニングを受ける必要があることを伝える。

PADI SEAL TEAM™ PROGRAM

INSTRUCTOR GUIDE



本ガイドで別途指定されている場合を除き、「一般
規準と手続きガイド」に概説されている規準はPADI
Seal Teamプログラムに適用される。

セクション 1

プログラム規準

修了条件

PADI Seal Teamのメンバー資格を取得するには、参加者はアクアミッション1~5を修了しなければならない。

PADI Master Seal Teamのメンバー資格を取得するには、PADI Seal Teamメンバーは10種類のスペシャルティ・アクアミッションを修了し、一人で器材のセッティングと取り外しができなければならない。

深度

アクアミッション1 - 2メートル／6フィート

アクアミッション1以降 - 4メートル／12フィート

ダイバーの参加前条件

8歳以上

器材

マスク、フィン、スクーバ・シリンダー、パワー・インフレーター付きBCD、レギュレーター、予備の空気源、残圧計

必要に応じて保護スーツとウエイト

アクアミッション・ナイト・ダイブには、各参加者が水中ライトを持つ。予備の水中ライトとマーカー／ケミカルライトの携帯が推奨される。

インストラクター資格

アシスタント・インストラクター(Assistant Instructor)

例外: Divemastersはアクアミッション: Skin Diver Specialistを行うことができる。

教材

- PADI Seal Team *AquaMission* と *Log Book*, ステッカー
- PADI Seal Team 証書、メンバー・カード申請書
- 参加者と親／保護者が署名したPADI Seal Team 声明書 (10264J)

参加者は「PADI Seal Teamビデオ」を見なくてはならない。

参加者の表彰と登録

各アクアミッション後、参加者のログブックに該当するアクアミッション・ステッカーを貼り、ログページに署名し、日付を入れる。

PADI Seal Team または Master Seal Team メンバー・カード申請書を提出して参加者をPADIオフィスに登録する。クオリティ・マネジメントを目的とした、参加者の正確な連絡先情報が含まれる。

人数比 — 参加者対インストラクター

PADIメンバー	深度/アクティビティ	人数比
Assistant Instructor	2m/6ftより浅い	1:4
Instructor	2m/6ftより浅い	1:6*
Assistant Instructor/ Instructor	2~4m/6~12ft	2:1*
Divemaster/ Assistant Instructor/ Instructor	AquaMission: Skin Diver Specialist	16:1

* 認定アシスタント1人につき、最大2人まで参加者を追加できる。

順序

アクアミッション1~5を順序通りに実施する。

監督

直接的監督 — 水面でも水中でも、誰も生徒ダイバーに付き添っていない状態にしてはならない。

セクション 2

知識開発

PADI Seal Team フリップチャートまたは PADI Seal Team *AquaMission* と *Log Book* を使って、各アクアミッションの内容を参加者に説明する。

参加者はプールダイブの前または後に、PADI Seal Team *AquaMission* と *Log Book* から該当するチャレンジを修了する。

セクション 3

限定水域

一般的な注意事項

- アクアミッションは水泳用プールでのみ実施する。
- アクアミッション2、3、4で、参加者は浅い場所でスキルを練習してから深い場所へ移動する。

アクアミッションのゲームについてのアイデアは、PADIのプロサイトを参照。

アクアミッション 1

達成条件

水面

1. 浅い場所へエントリー
2. 手助けを借りて器材を装着し調節する

水中

3. 息を止めずに普通に呼吸する
4. 泳ぎながら深度と方向をコントロール
5. 耳とマスクの圧平衡
6. 残圧をチェックし、エアが十分か少ないか合図する

7. ハンドシグナルを使ってコミュニケーション
8. 正しい浮上をデモンストレーション

アクアミッション 2

達成条件

水面

1. 浅い場所へエントリー
2. 器材を装着して調整する。

水中

3. パージボタンを使ってレギュレーターをクリアし、呼吸を再開する
4. 耳とマスクの圧平衡
5. ハンドシグナルを使ってコミュニケーション
6. 正しい浮上をデモンストレーション

アクアミッション 3

達成条件

水面

1. 浅い場所へエントリー
2. 器材を装着して調整する。
3. パワー・インフレーターを使ってBCDに空気を出し入れする

水中

4. 下半分に水を入れたマスクをクリアする
5. インストラクターの予備の空気源から少なくとも30秒間以上呼吸する
6. ハンドシグナルを使ってコミュニケーション
7. 正しい浮上をデモンストレーション

アクアミッション 4

達成条件

水面

1. 浅い場所へエントリー
2. 器材を装着して調整する。

水中

3. 肩越しにレギュレーターをリカバリーする
4. 息を吐く方法でレギュレーターをクリアし、呼吸を再開する
5. パワー・インフレーターを使って中性浮力 - 息を吸ったり吐いたりしながら、コントロールされた形で身体をゆっくりと上下させる。
6. キックしたり手を使ったりせずにホバリング
7. 正しい浮上をデモンストレーション

アクアミッション 5

達成条件

水面

1. ブラスト法でスノーケルをクリアする
2. 水から顔を上げずにスノーケル／レギュレーター交換を何度か繰り返す
3. スクーバ器材を装着し、スノーケルを使って呼吸しながら泳ぐ
4. BCDから空気を抜き、それからプラス浮力になるまでオーラルで膨らませる。

スキル・サーキット

5. 浅い場所へエントリー
6. スノーケルからレギュレーターへ交換、潜降ポイントまで泳ぐ

7. BCDの空気を抜く
8. 潜降
9. 耳抜き
10. 普通に呼吸し、泳ぎながら残圧をチェックする
11. 下半分に水を入れたマスクをクリア
12. インストラクターの予備の空気源から呼吸する

13. ハンドシグナルを使ってコミュニケーション
14. 肩越しにレギュレーターをリカバリーする
15. 息を吐く方法とパージボタンを使う方法でレギュレーターをクリアする
16. パワー・インフレーターを使って中性浮力 – 息を吸ったり吐いたりしながら、コントロールされた形で身体をゆっくりと上下させる。
17. ホバリング
18. 浮上
19. 水面でBCDに空気を入れる

AquaMission Creature ID Specialist

1. 少なくとも1種類の水中生物を名前で見分ける
2. ハンドシグナルを使って、少なくとも1種類の水中生物を見分ける

AquaMission Environmental Specialist

1. 水中クリーンナップで使われる、足を高くして頭を低くした搜索姿勢での泳ぎ方をデモンストレーションする
2. 水中クリーンナップで使われる、基本的なサーチパターンを実施する

AquaMission Inner Space Specialist

1. パワー・インフレーターを使って中性浮力 – 息を吸ったり吐いたりしながら、コントロールされた形で身体をゆっくりと上下させる。
2. キックしたり手を使ったりせずにホバリング

AquaMission Navigation Specialist

1. コンパスの使い方をデモンストレーションする
2. 泳ぎながらコンパスを持つ姿勢をデモンストレーションする
3. キックする回数(キック・サイクル)を使い、水中で距離を見積るための方法をデモンストレーションする

AquaMission Night Specialist

1. 水中ライトの使い方をデモンストレーションする

AquaMission Safety Specialist

1. プレダイブ・セーフティ・チェックをバディに実施する
2. 自分とバディの足がつったときの治し方をデモンストレーションする
3. レスキュー用ラインまたはフロートを投げる
4. 水面で自分とバディの浮力を確保する
5. ダイバーを曳行する

AquaMission Search and Recovery Specialist

1. サーチパターンを使って、落としたものを捜す
2. リフトバッグを使って、小さい物を引き上げる

AquaMission Skin Diver Specialist

1. 水面で手を使わずにスノーケルで泳ぐ
2. スノーケルで呼吸しながら、水を飲まない様に気道をコントロールする
3. ブラスト法でスノーケルをクリアする
4. 水面をスノーケリングしながら下半分に水を入れたマスクをクリアする

AquaMission Snapshot Specialist

1. 基本的な水中写真撮影のルールを用いて、水中カメラを使用する

AquaMission Wreck Specialist

1. 浮力コントロールをデモンストレーションする
2. 水中のレック(物体)の大きさを測り、スレートに記録する

ReACTIVATE® PROGRAM

INSTRUCTOR GUIDE



本ガイドで別途指定されている場合を除き、「一般規準と手続きガイド」に概説されている規準はPADI ReActivateプログラムに適用される。

セクション 1

プログラム規準

修了条件

ReActivateのeCardを取得するには、認定ダイバーは以下を満たさなければならない:

- ReActivateナレッジレビューを修了する。
- ReActivate水中スキル・ダイブを修了する。

ダイバーの参加前条件

- 10歳以上
- ダイバー認定 - 次のいずれかを満たす:
 - PADI (Junior) Scuba Diver
 - 別のトレーニング組織からのエントリー・レベルのダイバー認定(最低4回のオープンウォーター・トレーニング・ダイブ)

ダイブ

1回の限定水域ダイブまたはオープンウォーター・ダイブ

器材

「一般規準と手続きガイド」を参照。

書式(フォーム)

Release of Liability/Assumption of Risk/Non-agency Acknowledgment Form - ダイバーアクティビティ (10086J または 10651EU)、ダイバーメディカル・フォーム (10346J) および PADI安全潜水実施了解声明書 (10060J)

または

継続教育専用書式 (10038J or EU 10541) とダイバーメディカル／参加者チェックシート (10346J)

最新の書式をPADIプロサイトからダウンロードすること。各国固有の免責同意書または書式については、所属PADIオフィスに確認する。

インストラクター資格

ダイブマスター

教材

必須

PADI ReActivate eLearning

人数比

限定水域

10:1

インストラクターは認定アシスタント1名につきダイバー4名を追加できる。

オープンウォーター

1:8

最大12名まで、認定アシスタント1名につき生徒ダイバー2名を加えることができる。

認証

オンラインでナレッジレビューとReActivateクイックレビューを修了したダイバーは、ReActivate終了証を受け取る。

- ナレッジレビューとダイブスキル・リフレッシュの両方を修了したPADIダイバーに対し、ReActivateの新しいPADI認定カードの発行手続きを取る。
- ナレッジレビューとダイブスキル・リフレッシュの両方を修了した別のトレーニング組織によって認定されたダイバーに対し、ReActivateの新しいPADI認証カードの発行手続きを取る。

ReActivateを使ってダイバーの準備態勢を評価する

その他、ダイバーの準備態勢を評価する手段としてReActivateを使うことができる。評価方法の指標はPADI's *Guide to Teaching* を参照。

セクション 2

ナレッジレビュー

ダイバーはPADI *ReActivate eLearning* を使って知識を復習する。必要に応じて補習を行なう。参加者のReActivateのeレコードはオンラインで確認でき、ReActivateクイックレビューをまだ修了していない場合には、ここで実施する。問題の答えを間違えた場合には、内容を完全に理解するまで補習を行なう。

ReActivateクイックレビューはPADIのプロサイトに記載されている。

セクション 3

水中スキル

処方的なReActivate手法と一般的注意事項

1. 事前の面談のときに、ダイバーのログブックがあればチェックし、以下の質問をする：
 - ダイビングの経験本数と、これまでにどのようなコンディションや環境でダイビングしたか？
 - 最後にダイビングしたのはいつ、どこで？
 - 最後のダイビングはどうだったか？ どうすればもっと良くなると思うか？
 - どのようなスキルを練習したいか？
2. 限定水域ダイブまたはオープンウォーター・ダイブを実施し、プレダイブ・プランニング、器材のセッティングと調整、プレダイブ・セーフティ・チェック、エントリー、潜降、浮力コントロー

ル、浮上、エキジットの間にダイバーをよく観察し、圧平衡と
いったような一般的なダイビングスキルがきちんとできている
かチェックする。観察した事柄に基づいて、必要に応じて
アドバイスし、デモンストレーションを見せて調整し、その他
の補習や練習を行なってマスターさせる。

3. Open Water Diver Course Instructor Guideに記載されて
いるスキルの達成条件およびスキルのレベルに関する必要
条件に従う。

達成条件

1. 限定水域ダイブまたはオープンウォーターでガイド付きの
ダイブを修了し、以下を含む一般的なダイビング・スキルを
練習してデモンストレーションする：
 - a. マスクを取り外し、元通り装着し、クリアする。
 - b. 中性浮力をとってホバリングする。
 - c. 足がつかない深さの水面で、BCDから空気を抜き、ウエ
イト・システムのクイックリリースを使って、プラス浮力
になるだけの分のウエイトを外し、身体から離して落と
す。
 - d. 予備の空気源を使って正しく浮上し、水面でプラス浮
力を確保する。与える側と受ける側の両方の役割を果
たす。
2. 事前の面談のときにダイバーが練習したいと言ったスキル
と、ダイバーを観察した結果、もっと練習が必要だと思われ
るスキルを練習させる。
 - a. 限定水域では、コントロールされた緊急スイミング・ア
セントを水平または斜めでのみ実施する。

DISCOVER LOCAL DIVING PROGRAM

INSTRUCTOR GUIDE



本ガイドで別途指定されている場合を除き、「一般
規準と手続きガイド」に概説されている規準はPADI
Discover Local Divingプログラムに適用される。

プログラム規準

ダイバーの参加前条件

- PADI (Junior) Scuba Diver認定
- 10歳以上

器材

「一般規準と手続きガイド」を参照。

インストラクター資格

ダイブマスター

教材

PADI Release of Liability/Assumption of Risk/Non-agency Acknowledgment Form – ダイバーアクティビティ (10086J または 10651EU)

人数比

「一般規準と手続きガイド」に従って、ダイバーの落ち着き、経験、年齢、環境のコンディション、人数などの要素に基づいて人数比を決定する。

オープンウォーター

一般的な注意事項

1. ブリーフィング
 - コンディション、危険物、見どころなど、ダイビング・ポイントの概要をブリーフィングする
 - 水中環境を保護する為の節度ある接し方について説明する。
 - その地域で一般的に使われているダイビング手順と方法について説明する。
2. ダイビング・ポイントのガイド付きツアーを実施する。
3. デイブリーフィング - 観察した事柄について話し合う。
4. Discover Local Divingのログを記入 - 各ダイバーのログブックに署名する。

ADVANCED SNORKELER (SKIN DIVER) COURSE

INSTRUCTOR GUIDE



本ガイドで別途指定されている場合を除き、「一般規準と
手続きガイド」に概説されている規準は PADI Advanced
Snorkeler (Skin Diver)コースに適用される。

セクション 1

コース規準

認定条件

- 知識開発セッションに参加する。
- 限定水域の達成条件を満たす。

深度

5メートル／15フィート

ダイバーの参加前条件

8歳以上

器材

マスク、フィン、スノーケル、浮力調整具

注意:スノーケリング・ベストまたは浮力のある保護スーツを使用することができる。ウエイトを装着する場合、水面では息を吐き出した状態でも浮くことができ、5メートル／15フィートでもプラス浮力であること。

インストラクター資格

DivemasterあるいはFreediver Instructor

教材

最新のPADIディスカバー・スノーケリング／スキン・ダイビング
免責同意書(10089J) (日本の場合はディスカバー・スノーケリング／スキン・ダイビング／サブライド・エア・スノーケリングの
確認書(成年用、中学生以上用、中学生未満用))

人数比

限定水域

16:1

オープンウォーター

10:1

セクション 2

知識開発

知識開発セッション／ブリーフィングを実施し、以下を含むスノーケリングの理念を説明する：

- 器材
- スキン・ダイバーに影響を及ぼす圧力と体積の関係
- ダイビング環境
- ハンドシグナルとコミュニケーション
- 水中生物との責任ある接し方
- トラブル管理
- 圧平衡
- 呼吸を止めたダイビングのための適切な呼吸法、およびハイパーベンチレーションを使ってはいけない理由。
- 潜降時には口からスノーケルを外すこと、およびその理由。
- フリーダイビング実施方法に基づく適切なウエイト量
- ワンアップ・ワンダウン・バディシステム
- 地域の安全なダイビング実施方法

セクション 3

限定水域

達成条件

1. マスク、フィン、スノーケル及び浮力器材のセッティング、調整、準備、装着、取り外しを行なう。
2. バディとプレダイブ・セーフティ・チェックを行なう。
3. 状況に合った方法を使って、適切なエントリーとエキジットをデモンストレーションする。

4. フリーダイビング実施方法に基づく適切なウエイト量を調整する。
5. 足がつかない深さの水面で、気道をコントロールしながらスノーケルを使って泳ぐ。
6. 水面でブラスト法を使いスノーケルをクリアする。
7. 足がつかない深さの水面で、浮力を確保する。ウエイトベルトを外す(使用されている場合)、またはスノーケル・ベストを口で膨らませる(使用されている場合)。
8. 水面にいる間、常にバディと3メートル／10フィートの範囲内にいる。
9. 足がつかない深さの水面でリラックスした呼吸の後、息を止め、口からスノーケルを外して垂直にヘッドファーストで潜る。
10. 一呼吸で水中を水平に15メートル／50フィート以上泳ぐ。
11. 周囲を確かめながら上を向いて、片手を上に伸ばして浮上する。
12. 浮上後、やさしく息を吐き、リラックスした呼吸をしながらバディにOKシグナルをする。
13. 水面から、バディの潜降を見守り、アシストするためいつでも潜れるよう備える。バディの浮上後、回復呼吸(リカバリー呼吸)の間は1-2分間、手の届く範囲内にとどまる。
14. 水面と水中で、ハンド・シグナルを使ってコミュニケーションする。

セクション 4

オープンウォーター (オプション)

達成条件

1. 器材を装着して調整する。
2. プレダイブ・セーフティ・チェックを実施する。
3. ウェイトを調整する。
4. 地域環境に適したエントリーとエキジットをデモンストレーションする。
5. 限定水域で習得したスキルを実践でデモンストレーションする。
6. 環境に対し責任のある行動をとる。

プロフェッショナル・ メンバーシップ ガイド



メンバーシップ・ステータス

アクティブ・ステータス

アクティブ・ステータスとは、規定されている通りに認定アシスタントとしての任務を果たし、コースを実施する権限をPADI Divemasterに与えるステータスである。

必要条件

1. 所属PADIオフィスでPADIメンバーシップを更新し、年会費を支払う。
2. PADIメンバーシップ更新同意書／ライセンス同意書に合意する。
3. 所属PADIオフィスの規定通りに、PADIメンバー賠償責任保険に加入している（PADIのプロサイト参照）。
4. 次のいずれかを満たす：
 - 前年にPADI Divemasterになった
 - 前年にアクティブ・ステータスで更新した
 - アクティブ・ステータスの必要条件を満たしている

インアクティブ・ステータス

インアクティブ・ステータスのPADI DivemasterはPADI Professional資格/Divemasterで規定されている任務を遂行する権限はない。更新した場合、メンバーシップは継続できる。

ティーチング・ステータス

ティーチング・ステータスとは、PADIコースを教え、生徒をPADIダイバーとして認定する権限をPADI InstructorおよびAssistant Instructorに与えるステータスである。

ティーチング・ステータスにあり、規定されている通りにアップデートをすませているPADI Course Directorは、PADI Instructorレベルのコースを教える権限を有する。

必要条件

1. 所属PADIオフィスでPADIメンバーシップを更新し、年会費を支払う。
2. PADIメンバーシップ更新同意書／ライセンス同意書に合意する。
3. ダイビング指導のPADIメンバー賠償責任保険に加入している。PADI TecRec InstructorはTecRecコースをカバーする賠償責任保険に加入している必要がある。

例外: PADIオフィスから保険免除と指定された地域で居住/活動している場合。

4. 次のいずれかを満たす:
 - 前年にPADI Open Water Scuba InstructorまたはPADI Assistant Instructorになった。
 - 前年にティーチング・ステータスで更新した。
 - ティーチング・ステータスの再トレーニングの必要条件を満たしている。

ノンティーチング・ステータス

ノンティーチング・ステータスのメンバーには、PADIコースを教え生徒をPADIダイバーとして認定する権限はない。更新した場合、メンバーとしての特典は引き続き受けることができる。

レビュー・ステータス

レビュー・ステータスのメンバーは、ティーチング・ステータスの資格条件を維持している限りにおいて、PADIコースを教えPADIダイバーを認定する権限を有する。レビュー・ステータスのメンバーは、PADI Master InstructorおよびCourse Directorの資格を取得することはできない。

アドミニストレーティブ・ホールド、サスペンド(資格停止)、ターミネイト(追放処分)、エクスペルド(永久追放処分)、およびインアクティブ・ステータス

アドミニストレーティブ・ホールド、インアクティブ、またはサスペンド・ステータスのメンバーおよび、メンバー資格のターミネイトまた

はエクスペルドを受けたメンバーは、PADIコースまたはEFRコースを教えたり、PADIダイバーの認定またはEFRコース修了カードを発行することや、認定アシスタントとしての任務を果たす権限を失い、メンバーとしての特典を受けることはできなくなり、PADIメンバーと称することは認められない。

メンバー資格のサスペンド、ターミネイト、エクスペルドを受けたメンバーの氏名は、「*The Undersea Journal*」の誌面で発表され、PADIサイトのクオリティ・マネージメント・セクションにも掲載される。

アラムナイ・ステータス

アラムナイ・ステータスとは、「引退」し、今後はPADIコースを教えたり、積極的にダイバーの監督をしたりするつもりはないPADIメンバーのためのステータスである。PADIアラムナイには、PADIダイバーを教える、監督する、あるいは認定する権限はないが、引き続きメンバーとしての一部特典を受けることができ、PADIメンバーと称することも認められる。

メンバーシップ書式

最新の書式をPADIプロサイトからダウンロードすること。各国固有の免責同意書、申請書、書式については、所属PADIオフィスに確認する。

PADI Professional資格

PADI Professionalレベルのコースおよび資格には、PADI、TecRec、またはEFRの認定前条件がある。別途指定のない限り、他の資格または認定は同等として認められない。

PADI Snorkel Guide

コース参加前条件

1. 18歳以上
2. ダイビングに適した健康体であることを証明する過去12ヶ月以内の医師の署名入り健康診断書
3. 過去24カ月以内にEmergency First Response Primary and Secondary Care コースの修了 (またはそれに相当するトレーニング), またはこのコースと同時にEFR Primary and Secondary Care コースに登録する

Snorkel Guide の任務

PADI Snorkel Guide はスノーケル・ツアーのガイドのみが可能であり、PADI プログラムのリーダーとしての資格はない。

Divemaster (ダイブマスター)

コース参加前条件

1. PADI Advanced Open WaterおよびPADI Rescue Diver 認定 (または参加受入資格を満たす認定)
2. 18歳以上
3. ダイビングに適した健康体であることを証明する過去12ヶ月以内の医師の署名入り健康診断書
4. ログに記録されているダイブ経験本数が40本以上
5. 過去24カ月以内に、Emergency First Response Primary and Secondary Careコース (またはそれに相当するトレーニング) を修了

認定条件

1. 過去24カ月以内に、**Emergency First Response Primary and Secondary Care**コース（またはそれに相当するトレーニング）を修了
2. ログに記録されている**ダイブ経験本数が60本以上**；**アンダーウォーター・ナビゲーション、ナイト・ダイビング、ディープ・ダイビングの経験**

Divemasterの任務

アクティブ・ステータスのDivemasterには、以下の権限が与えられる：

1. 潜水計画を立て、準備し、指揮するという形で、トレーニングとトレーニング以外の活動の両方を監督する。
2. 限定水域とオープンウォーター・トレーニングでインストラクターをアシストする。
3. Open Water Diverコースのオープンウォーター・ダイブ2、3、4のツアー部分で、1:2の人数比でコースの生徒ダイバーをインストラクターの間接的監督下でガイドする。
4. インストラクターの間接的な監督下で、エントリー／エキジット・ポイントへの往復水面移動とナビゲーション練習の際に Open Water Diverコースの生徒に付き添う。また、インストラクターがスキルを実施している間に、残りの生徒ダイバーを監督する。
5. インストラクターの間接的な監督下で、アドベンチャー・ダイブまたはスペシャルティ・コースのダイブで生徒ダイバーに付き添う。
6. PADI Advanced Snorkelers (Skin Divers) を単独で教えて認定する。これには、PADI Seal Teamアクアミッション：Skin Diver Specialistも含まれる。
7. Discover Snorkelingプログラムを実施する。
8. Discover Scuba Divingの参加者がインストラクターと最初のダイブを修了した後、インストラクターの間接的な監督下で、その後のダイブを1:2の人数比で実施する。
9. Discover Local Divingを実施する。

10. 認定ダイバーにReActivateを実施する。
11. 限定水域ダイブ2、3、4または5で、Open Water Diverコースの advanced snorkeling のスキル部分を実施する。
12. 認定PADI Scuba Diverのその後のダイブに付き添う。

Divemaster – 追加の機会

Discover Scuba Diving Leader – Discover Scuba Diving Leaderの資格を有していて (DSD Leader Internship Instructor Guideを参照)、参加者がオプションのオープンウォーター・ダイブに参加しない場合、Discover Scuba Divingをプールまたは限定水域で単独で実施する。

Specialty Instructor – 該当するインストラクター・トレーニングを修了し Specialty Instructor資格を取得後、以下のコースを実施する：

- PADI Instructorの指示の下で、Digital Underwater Photographerスペシャルティ・コース
- ダイブを伴わないスペシャルティ・コース

Assistant Instructor (アシスタント・インストラクター)

コース参加前条件

1. PADI Divemaster、または他のダイバー指導団体でのリーダーシップ・レベルの認定
2. 18歳以上
3. ログに記録されているダイブ経験本数が60本以上；ナイト・ダイビング、ディープ・ダイビング、アンダーウォーター・ナビゲーションの経験
4. ダイビングに適した健康体であることを証明する過去12ヶ月以内の医師の署名入り健康診断書
5. 過去24カ月以内に、Emergency First Response Primary and Secondary Careコース（またはそれに相当するトレーニング）を修了
6. PADI Divemasterでない場合には、PADI Divemasterコースのダイブ・レスキュー評価を修了し、他のレクリエーション・ダイバー指導団体から発行されたエントリー・レベル、ア

ドヴァンス、レスキュー、リーダーシップレベルに相当する資格認定に関する書類をPADIへ提出する。

Assistant Instructorの任務

ティーチング・ステータスのAssistant Instructor (1995年以降に認定／アップグレード) には、以下の権限が与えられる：

1. インストラクターの間接的な監督下で、PADIダイバー・コースの知識開発を行なう。生徒ダイバーの知識レベルについての評価は、インストラクター自身が実施する。
2. 限定水域ダイブで、インストラクターの直接的な監督下で最初のスキル・トレーニングをプレゼンテーションする。
3. Open Water Diverコースのトレーニング・ダイブで、インストラクターの間接的な監督下でオープンウォーター水面スキルの評価を行なう。
4. インストラクターの指示の下で、Peak Performance Buoyancy スペシャルティ・ダイバーを教えて認定する。
5. インストラクターの指示の下で、AWARE Dive Against Debris スペシャルティ・ダイバーを教えて認定する。
6. PADI AWARE スペシャルティ・コース (ノンダイビング) を単独で教える。
7. Coral Reef Conservation スペシャルティ・コース (ノンダイビング) を単独で教える。
8. 参加者がオプションのオープンウォーター・ダイブに参加しない場合、Discover Scuba Divingをプールまたは限定水域で単独で実施する。
9. Bubblemakerプログラムを単独で実施する。
10. PADI Seal Team アクアミッションを単独で実施する。
11. ノンダイビングのスペシャルティのSpecialty Instructor トレーニング・コース修了し、Specialty Instructor 資格を取得した後、生徒ダイバーを教えて認定する。
12. 対応するインストラクター・トレーニングを修了し、Specialty Instructor 資格を取得した後、PADI Instructorの指示の下で、Digital Underwater Photographer スペシャルティ・コースを教えて認定する。

Open Water Scuba Instructor (オープン・ウォーター・スクーバ・インストラクター)

Instructor Development Course (IDC)

コース参加前条件

1. PADI Divemaster、または他のダイバー指導団体でのリーダーシップ・レベルの認定
2. 18歳以上
3. ログに記録されているダイブ経験本数が60本以上; ナイト・ダイビング、ディープ・ダイビング、アンダーウォーター・ナビゲーションの経験
4. PADI Divemasterでない場合には、PADI Divemasterコースのダイブ・レスキュー評価を修了する
5. 認定ダイバーになってから6ヶ月以上経過
6. ダイビングに適した健康体であることを証明する過去12ヶ月以内の医師の署名入り健康診断書
7. 過去24カ月以内に、Emergency First Response Primary and Secondary Careコース(またはそれに相当するトレーニング)を修了

Open Water Scuba Instructor (OWSI)プログラム

コース参加前条件

1. IDCの全参加前条件
2. PADI Assistant Instructorまたは、レクリエーション・ダイバー指導団体に6ヶ月以上所属している良好な状態(更新資格のある*)のインストラクターメンバー。

*資格についての詳細は、PADIオフィスへ問い合わせること。

Instructor Examination

PADI Open Water Scuba Instructor認定を取得するには、PADI Instructor Examinerが実施するPADI Instructor Examination (IE)を修了しなければならない。

IE参加前条件

1. ログに記録されているダイブ経験本数が100本以上

例外：PADI5スター・キャリア・ディベロップメント・センター（CDC）で5つのIDCブレもしくはポスト・コース、または6週間プログラムに登録している候補生。

2. 過去12ヶ月以内にIDCまたはOWSIプログラムを修了している

認定条件

1. Emergency First Response Instructor、または他の救急ケア団体のCPR／ファーストエイド・インストラクター

2. CDC卒業の場合、100回記録されたダイブの証明

Open Water Scuba Instructorの任務

ティーチング・ステータスのOpen Water Scuba Instructorには、以下のPADIコースを教える権限が与えられる：

- PADI Scuba Diver/Open Water Diver
- Adventure Diver/Advanced Open Water Diver
- Rescue Diver
- Divemaster (ダイブマスター)
- Advanced Snorkeler (Skin Diver) と Discover Snorkeling
- Discover Scuba Diving
- PADI Seal TeamとBubblemaker
- ReActivateとDiscover Local Diving
- Peak Performance Buoyancy
- PADI AWARE Specialty
- Coral Reef Conservation (サンゴ礁の保護)
- AWARE Dive Against Debris Specialty
- PADI Snorkel Guide

Specialty Instructor (スペシャルティ・インストラクター)

PADIメンバーは、PADI Course Directorが実施するSpecialty Instructor Training Coursesを受けるか、所属PADIオフィスへ直接申請することによって、PADI Specialty Instructor資格を得ることができる(下記例外を除く)。

Specialty Instructor Training Course

コース参加前条件

すべてのスペシャルティ

- PADI Instructor、または過去12か月以内に現在の IDC/OWSIプログラムに参加、もしくは修了。IDC/OWSI 候補生はIEに合格した場合のみ、Specialty Instructor認定を申請することができる。

ダイブを伴わないスペシャルティ

- PADI Assistant Instructor
- PADI Divemasterは以下のコースに参加することができる:
Emergency Oxygen Provider, Equipment Specialist, Coral Reef Conservation, PADI AWARE Specialist, PADI Distinctive Specialty Diver (承認済み)

例外: DivemasterとAssistant InstructorはDigital Underwater Photographer Specialty Instructorトレーニング・コースに参加することができる。

特定のスペシャルティ・インストラクター・トレーニング・コースのその他の参加前条件:

- Cavern — PADIに認められているケープ・ダイビング認定団体によるフル・ケープのダイバー認定
- Enriched Air — PADI Enriched Air Diver認定(または相当する資格)
- Ice — PADI Ice Diver認定(または相当する資格)
- Self-Reliant — PADI Self-Reliant Diver認定(または相当する資格)もしくはTecRecダイバー

認定条件

1. 申請対象のスペシャルティ分野で、ログに記録されているダイブ経験本数が10本以上

例外：PADI Semiclosed Rebreather Specialty Instructorの場合は、20本以上。

2. PADI DivemasterはIDCカリキュラムにある「学習と指導のワークショップ」を特定のスペシャルティ・ダイバー・コースに合わせたシナリオで修了する。

PADIオフィスへ直接申請する場合

参加前条件

1. PADI Instructor
2. これまでに25名以上のダイバーを認定
 - a. そのうち、ノンダイビング・コースでの認定は5名以下
 - b. PADI Seal TeamまたはMaster Seal Team登録は5名以下
3. 申請対象のスペシャルティで、ログに記録されているダイブ経験本数が20本以上
4. 申請書の声明文に署名することで、PADI Specialty Course Instructor Guideを使うことに同意する、もしくはインストラクター自身が作成したアウトラインを審査のためPADIオフィスへ提出する。

特定のスペシャルティ・コースのその他の前条件：

- Adaptive Techniques — アダプティブ・テクニクのトレーニング、および／もしくは特化しているダイビング機関から障害を持つダイバーの訓練を経験する。
- Equipment Specialist — 器材メーカーによるリペア・クリニックに参加したことを証明する文書か、メーカーから器材リペアの免許を受けていることを証明する文書。ダイブ経験の証明は必要ない。
- Emergency Oxygen Provider – Emergency Oxygen Provider 認定（または参加受入資格を満たす認定）
- Cavern — Padiに認められているケーブ・ダイビング認定団体によるフル・ケーブのダイバー認定

- **Enriched Air** — PADI Enriched Air Diver認定(または相当する資格)
- **Ice** — PADI Ice Diver認定(または相当する認定)
- **Self-Reliant** — PADI Self-Reliant Diver認定(または相当する認定)もしくはTecRecダイバー
- **Sidemount** — PADI Sidemount Diver認定(または同等の資格)またはサイドマウント・コンフィギュレーションを使用した50回のダイブの証明。

指導経験のクレジット

PADI Specialty Instructor (申請方法2または3), Master Scuba Diver Trainer, Master Instructor, またはCourse Director格を申請する場合、規定数の指導経験があることが求められる。以下に従って指導経験の追加クレジットを得ることができる。

1. すべての知識開発、限定水域ダイブ、および水中能力評価を実施したことを条件として、Open Water Diverコース委託紹介2件につき、Open Water Diver認定1名分のクレジットを取得できる。委託紹介クレジットを受けるには、トレーニング修了記録(10234J)をPADIオフィスへ送付する。
2. Discover Scuba Diving登録者5名につき、Open Water Diver認定1名分のクレジットを取得できる。
3. ReActivateプログラムをダイバーと終了した5名につき、Open Water Diver認定1名分のクレジットを取得できる。
4. IDC Staff Instructorは、IDCのスタッフとして働くことで、Master Instructor資格へ向けて、Adventure Diverまたはそれ以上の認定クレジットを取得できる。
 - スタッフとして1回の全IDCに参加。コースを受けているインストラクター候補生1名につき1クレジットで、1回のIDCで最高8クレジットまで取得できる。
 - スタッフとして2回の全IDCに参加すると、Assistant Instructor5名分のクレジットになる。
 - スタッフとして1回の全IDCに参加し、3名のAssistant Instructorを認定すると、Assistant Instructor5名分のクレジットになる。

例外: IDCでスタッフとして働き、そこに参加していた候補生にAssistant Instructor認定を発行した場合には、同じ候補者で複数のクレジットを受けることはできない。

クレジットを取得するには、Master Instructor資格申請書と一緒に、インストラクター・コース報告書を提出する。

Master Scuba Diver Trainer

参加前条件

1. PADI Instructor
2. 以下のうち、いずれか5つの PADI Specialty Instructor 資格の組み合わせ:
 - a. PADI Specialty Instructor 資格 (PADI Peak Performance Buoyancy、PADI AWARE、AWARE Dive Against Debris、Coral Reef Conservation Specialty Instructor 資格は除く)
 - b. PADI TecRec Instructor 資格は1つだけ
 - c. PADI Freediver Instructor 資格は1つだけ
 - d. PADI Mermaid Instructor 資格は1つだけ(Basic Mermaid Instructorは除く)
3. これまでに25名以上のダイバーを認定
 - a. そのうち、スクーバダイビングではないコース (Equipment Specialist、PADI AWARE、Freediver、Mermaidなど)での認定は5名以下
 - b. PADI Seal TeamまたはMaster Seal Team登録は5名以下

Dedicated Master Scuba Diver Trainer

PADI Instructorは以下の方法でDedicated Master Scuba Diverの認定を行なう資格がある:

- 特定の地域またはダイビングのテーマに特化した5つのPADI Distinctive Specialty Instructorになる。
- Master Scuba Diver Trainerの前条件である25名以上のPADIダイバーを認定を満たす。
- レビューと承認のために、PADI Master Scuba Diver Trainer申請をPADIリージョナル・ヘッドクォーター(各地域本部)に提出する。

IDC Staff Instructor

インストラクターは、PADI Course Directorが実施するIDC Staff Instructorコースに参加することで、PADI IDC Staff Instructorとして資格を得ることができる。

コース参加前条件

1. **Master Scuba Diver Trainer**
2. **Emergency First Response Instructor**
3. **すべてのPADI認定コースと体験プログラムを、PADI *Instructor Manual*およびPADI's *Guide to Teaching*に規定されているPADI規準と理念に従った方法で実施することに同意する。**
4. **PADIシステムとその構成要素をすべて使用することに同意する。**

IDC Staff Instructorの任務

ティーチング・ステータスで資格更新済みのIDC Staff Instructorには、以下の権限が与えられる：

1. PADI Assistant Instructorを単独で教えて認定する (PADI5スター・ダイブセンターまたはPADI5スター・ダイブリゾートで実施)。
2. PADI Course Directorが現場にいて、いつでもアドバイスを受けられる状況で、IDCトレーニングのセグメントを実施する。
3. インストラクター候補生の知識開発、限定水域、およびオープンウォーター講習プレゼンテーションを評価して講評する。
4. インストラクター候補生とIDC Staff Instructor候補生にカウンセリングと補習トレーニングを行なう。
5. インストラクター・レベルの継続教育プログラムでトレーニングをアシストする。

Master Instructor (マスター・インストラクター)

参加前条件

1. **PADI IDC Staff Instructor**

2. PADI Instructorになってから2年以上経過している。
3. Emergency First Response Instructor
4. PADIセミナーに3回以上参加している。
5. これまでに150名以上のPADI認定を発行している：
 - a. そのうちの50名以上が以下を含む継続教育認定 (Adventure Diver以上のレベル) : Specialty Diver15名以上、Rescue Diver5名以上、Divemaster5名以上、Assistant Instructor5名以上
Assistant Instructor5名以上認定の条件を満たす方法：
 - ・ 2回の全IDCでスタッフとして働く。
 - ・ 1回の全IDCでスタッフとして働き、3名のAssistant Instructorを認定する。
 - b. 150名のうち、Discover Scuba Divingのクレジットは75名以下
 - c. 150名のうち、スクーバダイビングではないスペシャルティ／コース (Equipment Specialist、PADI AWARE、Freediver、Mermaidなど)での認定は25名以下
 - d. 150名のうち、PADI Seal TeamまたはMaster Seal Team登録は10名以下
 - e. IDCのスタッフとして働いたことから得たクレジットは50名以下
6. これまでに10名以上のEmergency First Responseコース修了カードを発行している。
7. PADIプログラムを実施する際には、すべての適切なPADIトレーニング教材を含む、完全なPADIダイバー教育システムを使用している。
8. PADI認定の発行をメインとし、すべてのPADI認定コースおよび体験プログラムを、PADI *Instructor Manual* および PADI's *Guide to Teaching* に規定されているPADI規準と理念に従った方法を用いて実施している。

9. 過去6ヶ月間にクオリティ・アシュアランス違反の記録がなく、現在クオリティ・アシュアランス調査中の案件はない。

Course Director

コース参加前条件

1. PADI Master Instructor
2. コース開始日までの12ヶ月間：
 - a. 確認されたクオリティ・アシュアランスの案件がない。
 - b. すべてのPADI認定コースと体験プログラムを、PADI *Instructor Manual* および PADI's *Guide to Teaching* に規定されているPADI規準と理念に従った方法で実施する。
 - c. 適切な全てのPADIトレーニング教材を含む完全なPADIダイバー教育システムを使用している。
 - d. PADIダイバー・コースだけを教えている。

例外: PADIが現在提供していないテクニカル・ダイビング、コマーシャル・ダイビング、その他のコースや、エントリー・レベルのトレーニングを修了するという目的で他の団体から委託紹介された生徒は例外とする。

3. IDC Staff Instructor認定の後に、全IDCで2回以上スタッフとして働いた。
4. Emergency First Response Instructor Trainer
5. ログに記録されているダイブ経験本数が250本以上
6. PADIダイブセンターやリゾートで働いた経験がある。
7. 最新の申請書に記載されているその他すべての条件を満たし、コース開始前に21歳であること。

参加前条件をすべて満たしているからといって、自動的にコース参加が許可されるわけではない。申請書は厳正な評価基準によって審査され、申請者のランクがつけられる。上位にランクされた申請者にコース参加が認められる。

Course Directorの任務

ティーチング・ステータスで資格更新済みのPADI Course Directorには、IDC、OWSIプログラム、IDC Staff Instructorコース（認可を受けた場所で実施されるもの）、ステータス・アップデートを実施する権限が与えられる。

Specialty Course Instructor Trainer

参加前条件

1. PADI Course Director
2. 該当するスペシャルティ分野でのPADI Specialty Instructor資格
3. PADI Specialty Course Instructor Guidesを使用することに同意するか、自分で作成した模範的アウトラインをPADIオフィスへ提出して審査を受ける。

PADI® TecRec® Professional 資格

詳細については、該当するPADI TecRec Instructor Guideを参照。

Gas Blender Instructor

参加前条件

1. PADI Instructor
2. PADI Enriched Air Diver Specialty Instructor
3. PADI Gas Blender (もしくは相当する認定)

以下のいずれかを満たしている:

1. PADI Gas Blender Instructorコースを修了
2. PADI Gas Blender (または参加受入資格) 認定を受けてから6ヶ月以上経過し、さらに:
 - エンリッチド・エア充填を50回以上ブレンドした経験があり、希望するブレンドの酸素含有量に対して1%以内の分析結果を得ている。
 - PADI *Gas Blender Manual*とPADI Gas Blender Instructor Guideを入手して読んだ。

Trimix Blender Instructor

参加前条件

1. PADI Instructor
2. PADI Enriched Air Diver Specialty Instructor
3. PADI Trimix Blender (もしくは相当する認定)

以下のいずれかを満たしている:

1. PADI Trimix Blender Instructorコースを修了
2. PADI Trimix Blender (または参加受入資格) 認定を受けてから6ヶ月以上経過し、さらに:
 - a. トライミックス充填を50回以上ブレンドした経験があり、希望するブレンドの酸素含有量に対して1%以内の分析結果を得ている。

- b. *PADI Gas Blender Manual*と*PADI Gas Blender Instructor Guide*を入手して読んだ。

PADI Rebreather Instructor

参加前条件

1. PADI Instructor
2. PADI Enriched Air Diver Specialty Instructor
3. PADI Deep Diver Specialty Instructor
4. 特定のリブリーザー・ユニットのPADI Advanced Rebreather Diver認定(または参加受入資格を満たす認定)
5. 150本以上のダイブ経験をログに記録していて、少なくとも30本と30時間を特定のユニットを使って行なったダイブ。

認定条件

1. PADI Rebreather Instructorコースを修了している。
2. 少なくとも1回のPADI Rebreatherコース、または1回のPADI Advanced Rebreatherコースをアシストした経験がある。

Tec 40 Instructor

参加前条件

1. PADI Instructor
2. PADI Enriched Air Diver Specialty Instructor
3. PADI Deep Diver Specialty Instructor
4. 少なくとも25本が30メートル/100フィートを超えるエンリッチド・エア・ダイブ
5. Tec 45 Diver
6. 少なくとも10本以上、完全なテクニカル器材を使用した減圧ダイブの経験

認定条件

1. これまでに25名以上のダイバーを認定
 - そのうち、ノンダイビング・コースでの認定は5名以下
 - PADI Seal TeamまたはMaster Seal Team登録は5名以下
2. 少なくとも20本以上の減圧ダイブの経験

以下のいずれかを満たしている：

1. PADI Tec 40 Instructor コースの修了
2. 他団体で Tec 50 Instructor の資格を持っていて、さらに：
 - Tec 40 Diver コースを1回アシストした経験がある、もしくは必要条件を満たすコースを2回教えた経験がある
 - 申請から12ヶ月以内にTec 40 Instructor エグザムに合格している

Tec 40 Trimix Instructor

Tec 40 Instructor と同じ前条件および認定条件を満たし、さらに：

1. Tec 50 Trimix Diver (またはそれ以上のレベルのトライミックス) 認定
2. 少なくとも10本以上のトライミックス・ダイブの経験
3. Tec Diver Trimix Instructor コースの修了、または他団体のトライミックス・インストラクター資格を持っている
4. Tec Diver Trimix Instructorエグザムの修了

Tec 45 Instructor

参加前条件

1. PADI Instructor
2. PADI Enriched Air Diver Specialty Instructor
3. PADI Deep Diver Specialty Instructor

4. 少なくとも25本が30メートル/100フィートを超えるエンリッチド・エア・ダイブ
5. Tec 45 Diver
6. 少なくとも10本以上、完全なテクニカル器材を使用した減圧ダイブの経験

認定条件

1. これまでに25名以上のダイバーを認定
 - そのうち、ノンダイビング・コースでの認定は5名以下
 - PADI Seal TeamまたはMaster Seal Team登録は5名以下
2. 150本以上のダイブ経験をログに記録していて、そのうちの少なくとも20本以上が30メートル／100フィートを超える減圧ダイブ。

以下のいずれかを満たしている：

1. PADI Tec 45 Instructor コースの修了
2. 他団体で Tec 50 Instructor の資格を持っていて、さらに：
 - PADI Tec 40 Instructor 資格を所有しているか、PADI Tec 40 Diver コースを一回アシストしているか、もしくは必要条件を満たすコースを2回教えた経験がある
 - Tec 45 Diver コースを1回アシストした経験がある、もしくは必要条件を満たすコースを2回教えた経験がある
 - 申請から12ヶ月以内にTec 45 Instructor エグザムに合格している

Tec 45 Trimix Instructor

Tec 45 Instructor と同じ前条件および認定条件を満たし、さらに：

1. Tec 50 Trimix Diver (またはそれ以上のレベルのトライミックス) 認定
2. 少なくとも10本以上のトライミックス・ダイブの経験

3. Tec Diver Trimix Instructor コースの修了、または他団体のトライミックス・インストラクター資格を持っている
4. Tec Diver Trimix Instructor エグザムの修了

Tec 50 Instructor

参加前条件

1. PADI Instructor
2. PADI Enriched Air Diver Specialty Instructor
3. PADI Deep Diver Specialty Instructor
4. 少なくとも25本が30メートル/100フィートを超えるエンリッチド・エア・ダイブ
5. Tec 50 Diver
6. 少なくとも10本以上、完全なテクニカル器材を使用した減圧ダイブの経験

認定条件

1. これまでに25名以上のダイバーを認定
 - そのうち、ノンダイビング・コースでの認定は5名以下
 - PADI Seal Team または Master Seal Team 登録は5名以下
2. 250本以上のダイブ経験をログに記録していて、そのうちの少なくとも25本以上が40メートル／130フィートを超える減圧ダイブ。

以下のいずれかを満たしている:

1. PADI Tec 50 Instructor コースの修了
2. 他団体で Tec 50 Instructor の資格を持っていて、さらに:
 - PADI Tec 40 Instructor 資格を所有しているか、PADI Tec 40 Diver コースを一回アシストしているか、もしくは必要条件を満たすコースを2回教えた経験がある
 - PADI Tec 45 Instructor 資格を所有しているか、PADI Tec 45 Diver コースを一回アシストしてい

るか、もしくは必要条件を満たすコースを2回教えた経験がある

- Tec 50 Diver コースを1回アシストした経験がある、もしくは必要条件を満たすコースを2回教えた経験がある
- 申請から12ヶ月以内にTec 50 Instructor エグザムに合格している

Tec 50 Trimix Instructor

Tec 50 Instructor と同じ前条件および認定条件を満たし、さらに:

1. Tec 50 Trimix Diver (またはそれ以上のレベルのトライミックス) 認定
2. 少なくとも10本以上のトライミックス・ダイブの経験
3. Tec Diver Trimix Instructor コースの修了、または他団体のトライミックス・インストラクター資格を持っている
4. Tec Diver Trimix Instructor エグザムの修了

Tec Trimix Instructor

参加前条件

1. PADI Master Scuba Diver Trainer
2. Tec 50 または Tec 50 Trimix Instructor

認定条件

1. Tec Trimix Diver (または参加受入資格を満たす認定)
2. 350本以上のダイブ経験をログに記録している:
 - a. 50本以上が40メートル／130フィートより深いテクニカル減圧ダイブ(認定のためのトレーニング・ダイブは含まない)
 - b. 30本以上が40メートル／130フィートより深く、トライミックスをボトムガスとして使用
 - c. 10本以上が50メートル／165フィートより深く、21%未満の酸素割合のトライミックスを使用

以下のいずれかを満たしている：

1. PADI Tec Trimix Instructorコースを修了している。
2. Tec Trimix Diverコースのアシストを行なう。申請から12か月以内にTec Trimix Instructorエグザムに合格する。

Tec Specialty Instructor

PADI Instructorは、PADI Tec Specialty Instructor Trainerが実施するSpecialty Instructorトレーニング・コースを受けるか、所属PADIオフィスへ直接申請することによってPADI Tec Specialty Instructor資格を取得することができる。

Tec Sidemount Instructor

参加前条件

1. PADI Instructor
2. PADI Enriched Air Diver Specialty Instructor
3. PADI Deep Diver Specialty Instructor
4. 100本以上のダイブ経験をログに記録していて、そのうちの少なくとも20本以上がエンリッチド・エアを使用したダイブで25ダイブが18メートル／60フィートより深いダイブで15本以上が30メートル／100フィートより深いダイブ。
5. Tec 45 Diver (直接申請の場合はTec 50ダイバー)

認定条件

1. Tec 40 Instructor

以下のいずれかを満たしている：

1. Tec Sidemount Diver、Tec Sidemount Instructorコースを修了していて、20本のテクニカル・サイドマウント・ダイブ - 少なくとも10本以上は3本以上のシリンダー（2本がメインで少なくとも残りの1本は減圧用シリンダー）を使う。

2. PADI Tec Sidemount Diver (または相当する資格) と3本以上のシリンダーを使った30本のダイブを含む、少なくとも50本以上のテクニカル・サイドマウント・ダイブの証明。
3. PADI Sidemount Diver (または相当する資格) と3本以上のシリンダーを使った35本のダイブを含む、少なくとも60本以上のテクニカル・サイドマウント・ダイブの証明 (2本がメインで少なくとも残りの1本は減圧用シリンダー)。
4. 3本以上のシリンダー (2本がメインで少なくとも残りの1本は減圧用シリンダー) を使った少なくとも40本のダイブを含む、80本のサイドマウント・ダイブ。

Tec 40 CCR Instructor

参加前条件

1. PADI Master Scuba Diver Trainer
2. PADI Enriched Air Diver Specialty Instructor
3. PADI Deep Diver Specialty Instructor
4. 特定のタイプT CCRに精通するTec 40 CCR Diver (または相当する資格)
5. 150本以上のダイブ経験をログに記録していて、少なくとも特定のタイプT CCRでの100本以上のダイブと100時間以上の経験

認定条件

1. Tec 40 CCR Instructor トレーニング・コースの修了。
2. 少なくとも1回のTec 40 CCRコースのアシスト。

Tec 60 CCR Instructor

参加前条件

1. 特定のタイプT CCRでのTec 40 CCR Instructor
2. 特定のタイプT CCRに精通するTec 60 CCR Diverもしくは相当する認定)
3. 300本以上のダイブ経験をログに記録していて - 少なくとも特定のタイプT CCRでの120本以上のダイブと120時間以上の経験を含む、特定のタイプT CCRでの150本以上の

ダイブと150時間以上の経験。少なくとも25本以上のトライミックス／ヘリオックスを使って40メートル／130フィート以深へのCCRダイブ。

4. 少なくとも1回Tec 40 CCRコースをすべて開催し、1名以上 Tec 40 CCR Diverを認定。

認定条件

1. Tec 60 CCR Instructorトレーニング・コースの修了。
2. 少なくとも1回のTec 60 CCRコースのアシスト。

Tec 100 CCR Instructor

参加前条件

1. 特定のタイプT CCRでのTec 60 CCR Instructor
2. 特定のタイプT CCRに精通するTec 100 CCR Diver (もしくは相当する認定)。
3. 350本以上のダイブ経験をログに記録していて - 少なくとも特定のタイプT CCRでの120本以上のダイブと120時間以上の経験を含む、タイプT CCRでの200本以上のダイブと200時間以上の経験。少なくとも50本以上のトライミックス／ヘリオックスを使って40メートル／130フィート以深へのCCRダイブ、そのうち25本はトライミックス／ヘリオックスを使った60メートル／200フィート以深へのCCRダイブ。
4. 少なくとも1回Tec 60 CCRコースをすべて開催し、1名以上 Tec 60 CCR Diverを認定。

認定条件

1. Tec 100 CCR Instructorトレーニング・コースの修了。
2. 少なくとも1回のTec 100 CCRコースのアシスト。

Gas Blender Instructor Trainer

参加前条件

1. PADI Course Director、もしくはTecRec Instructor Trainer
2. PADI Gas Blender Instructor

Trimix Blender Instructor Trainer

参加前条件

1. PADI Course Director、もしくはTecRec Instructor Trainer
2. PADI Trimix Blender Instructor

PADI Rebreather Instructor Trainer

参加前条件

1. PADI Course Director、もしくはTecRec Instructor Trainer
2. 特定ユニットに関するPADI Rebreather Instructor
3. PADI Rebreather Instructor Trainerコースを修了。
4. 150本以上のリブリーザー・ダイブ経験 - そのうちの少なくとも75本以上のダイブと75時間以上の経験を特定のユニットを使って行なったダイブ。
5. 少なくとも5人のPADI Rebreather Diverと5人のPADI Advanced Rebreather Diverの認定、そのうち少なくとも4回は特定のユニットを使っての認定。

Tec 50 Instructor Trainer

参加前条件

1. Tec 50 Instructor
2. Tec 40、Tec 45、Tec 50の各ダイバーレベルで、それぞれに少なくとも5つのTecRecコースから少なくとも30名の認定を発行。
3. 過去12ヶ月間にクオリティ・アシュアランス違反の記録がない。

以下のいずれかを満たしている:

1. 少なくとも1つのTec 40, 45, 50 Instructorコースをアシストし、Tec 50 Instructor Trainer OrientationまたはTec Deep Instructor Trainerコースを修了したPADI Course Director。
2. Tec 50 Instructor Trainer コースの修了

Tec 50 Trimix Instructor Trainer

Tec 50 Instructor Trainer の前条件と認定条件をすべて満たし、Tec 50 Trimix Instructor またはより高いレベルのトライミックス・インストラクター資格を保有している。

Tec Trimix Instructor Trainer

参加前条件

1. PADI Tec 50 Instructor Trainer
2. PADI Tec Trimix Instructor
3. Tec Trimix 65およびTec Trimixコースから、少なくとも4つのTec Trimix認定を含む、少なくとも8つの認定を発行している。
4. Tec Trimix Instructor Trainer Orientationおよびナレッジレビューを修了している。

Tec Specialty Instructor Trainer

参加前条件

1. PADI Course Director、もしくはTecRec Instructor Trainer
2. Tec 50 Instructor/Tec CCR Instructor
3. 該当するスペシャルティ分野でのTec Specialty Instructor

Tec Sidemount Instructor Trainer

参加前条件

1. PADI Course Director、もしくはTecRec Instructor Trainer
2. PADI Tec Sidemount Instructor

Tec 40 CCR Instructor Trainer

参加前条件

1. PADI Course Director、もしくはTecRec Instructor Trainer
2. 特定のタイプT CCRに精通するTec 40 CCR Instructor

3. 350本以上のダイブ経験をログに記録していて、そのうちの少なくとも200本のCCRダイブのうち100本以上のダイブと100時間以上の経験を特定のタイプT CCRユニットを使って行なったダイブ。
4. 30人以上のリブリーザー・ダイバー、そのうち少なくとも4人は特定のユニットを使っての認定を含む10人以上のTec 40 CCR Diver認定。最大15名のレクリエーショナル・リブリーザー・ダイバー認定が適応される場合がある。
5. Tec 40 CCR Instructor Trainerコースの修了。

Tec 60 CCR Instructor Trainer

参加前条件

1. PADI Course Director、もしくはTecRec Instructor Trainer
2. 特定のタイプT CCRでのTec 60 CCR Instructor。
3. 特定のタイプT CCRでのTec 40 CCR Instructor Trainer
4. 少なくとも40人のTec CCR Diver認定を行ない、その内少なくとも10人がPADI Tec 60 CCR Diverでその内4人は特定のタイプT CCRでの認定
5. 少なくとも2人のTec 40 CCR Instructor認定を行なっている

Tec 100 CCR Instructor Trainer

参加前条件

1. PADI Course Director、もしくはTecRec Instructor Trainer
2. 特定のタイプT CCRでのTec 100 CCR Instructor
3. 特定のタイプT CCRでのTec 60 CCR Instructor Trainer
4. 少なくとも50人のTec CCR Diver認定を行ない、その内少なくとも4人がPADI Tec 100 CCR Diverでその内2人は特定のタイプT CCRでの認定
5. 少なくとも2人のTec 60 CCR Instructor認定を行なっている

EFR® Professional資格

Emergency First Response Instructor

EFR Instructor Trainerが実施するEFR Instructorコースを受けることにより、EFR Instructor資格を取得することができる。

コース参加前条件

1. 過去24カ月以内に、EFR Primary and Secondary Care (または参加受入資格を満たすトレーニング)を修了
2. 18歳以上

Emergency First Response Instructor Trainer

EFR Instructor Trainerコースを受けることにより、EFR Instructor Trainer資格を取得することができる。

コース参加前条件

1. EFR Instructor (Care for Children Instructorを含む)
2. 25人以上のEFRコース修了カードを発行している(または、少なくとも5回のEFRコースを開催)。
3. 過去12ヶ月間にクオリティ・アシュアランス違反の記録がない。

PADI Freediver™ Professional 資格

PADI Freediver Instructor (フリーダイバー・インストラクター)

PADI Freediver Instructor認定を受けるには、PADI Freediver Instructor Training Courseに参加する、もしくはPADI Freediver Instructor Orientationを受ける。

PADI Freediver Instructor参加前条件

1. 次のいずれかを満たす：
 - a. PADI Master Freediver
 - b. PADI Instructor及びPADI Advanced Freediver
 - c. 参加受入資格を満たすフリーダイバー・インストラクター認定およびPADI Advanced Freediver
2. 18歳以上
3. 過去12カ月以内に医師が署名した最新の病歴書
4. PADI Freediver Instructor Training Courseを修了するか、他団体からの参加受入資格を満たすフリーダイバー・インストラクターの場合は、PADI Freediver Instructor Orientationを修了する

認定条件

- 24か月以内にEmergency First Response (CPR/first aid) トレーニングを受けている

Freediver Specialty Instructor

PADIメンバーは、PADI Freediver Instructor Trainerが実施するPADI Freediver Specialty Instructor Training Courseを受けるか、所属PADIオフィスへ直接申請することによって、PADI Freediver Specialty Instructor資格を得ることができる（下記例外を除く）。

Freediver Specialty Instructor Training Course

コース参加前条件

PADI Freediver Instructor

注意: 特定のSpecialty Instructor Training Courseの追加参加前条件が適用される場合がある。

認定条件

1. 申請対象のスペシャルティ分野で、別々のオープンウォーター・セッション10回以上

PADIオフィスへ直接申請する場合の前条件

1. PADI フリーダイバー・インストラクター(PADI Freediver Instructor)
2. これまでに10名以上のフリーダイバーを認定
3. 申請対象のスペシャルティ分野で、別々のオープンウォーター・セッション20回以上
4. 申請書の声明文に署名することで、PADI Freediver Specialty Course Instructor Guideを使うことに同意する、もしくはインストラクター自身が作成したアウトラインを審査のためPADIオフィスへ提出する。

特定のスペシャルティ・コースのその他の前条件:

- Emergency Oxygen Provider Instructor資格 — PADI Emergency Oxygen Provider認定(または参加受入資格を満たす認定)

PADI Advanced Freediver Instructor

参加前条件

1. PADI Freediver Instructor(またはPADI Freediver Instructor Orientationを修了している参加受入資格を満たすフリーダイバー・インストラクター)
2. PADI Master Freediver認定または参加受入認定
3. 24か月以内にEmergency First Response (CPR/first aid) トレーニングを受けている

4. 25以上のPADI Freediver認定を発行

注意: PADI Basic Freediver認定5名につきPADI Freediver認定1名としてカウントされ、最大5クレジットまで加算することができます。

PADI Master Freediver Instructor

参加前条件

1. PADI Advanced Freediver Instructor (またはPADI Freediver Instructor Orientationを修了している参加受入資格を満たす認定)
2. PADI Master Freediver認定または参加受入認定
3. 現役のEmergency First Response (CPR/ファーストエイド) Instructor
4. 50以上のPADI Freediverプログラム認定を発行していて、そのうち最低10人はAdvanced Freediver認定

注意: PADI Basic Freediver認定5名につきPADI Freediver認定1名としてカウントされ、最大5クレジットまで加算することができます。1回のPADI Freediver Instructor コースのアシストをPADI Advanced Freediver 10認定のうち、5認定としてクレジットされる。

5. 過去6ヶ月間にクオリティ・アシュアランス違反の記録がなく、現在クオリティ・アシュアランス調査中の案件はない。

PADI Freediver Instructor Trainer

PADI Freediver Instructor Trainer Courseに参加するか、PADIリージョナル・ヘッドクォーター (各地域本部) に直接申請することによって、PADI Freediver Instructor Trainerの資格を得る。

Freediver Instructor Trainer Course申請の参加前条件

1. PADI Master Freediver Instructor
2. すべてのフリーダイバー・プログラム・レベルの講習経験があること
- 3.EFR Instructor
4. 過去12ヶ月間にクオリティ・アシュアランス違反の記録がない。

参加前条件をすべて満たしているからといって、自動的にPADI Freediver Instructor Training Course参加が許可されるわけではない。

PADIリージョナル・ヘッドクォーター（各地域本部）に直接申請する前条件

- 1. PADI Course Director**
- 2. PADI Master Freediver Instructor**

Freediver Specialty Instructor Trainer

参加前条件

- 1. PADI Freediver Instructor Trainer**
- 2. 該当するスペシャルティ分野でのPADI Freediver Specialty Instructor認定**
- 3. PADI Freediver Specialty Course Instructor Guideを使用することに同意するか、自分で作成した模範的アウトラインをPADIオフィスへ提出して審査を受ける。**

PADI Mermaid Program™ Professional 資格

PADI Basic Mermaid Instructor™

Basic Mermaid Instructor 資格を得るには、記載されている知識、スキルおよび経験を満たす必要がある。

参加前条件

1. 18歳以上
2. PADI Advanced Mermaid (または参加受入資格を満たす認定)
3. 過去24ヶ月以内にEFR® Primary and Secondary Careのトレーニングを受けている (または参加受入資格を満たす認定)
4. 過去12カ月以内に医師が署名した最新の病歴書

例外: 現役のPADI Instructor またはPADI Freediver Instructor

認定条件

1. Mermaid Instructor コースの知識開発の修了
2. Mermaid Instructor エグザムを75%以上の合格点で修了
3. PADI Mermaid Instructor または Instructor Trainerと以下のウォータースキル課題を修了する:
 - 水泳用の補助具を使わずに400メートル／ヤードをノンストップで泳ぐ。泳ぎ方はどのようなものでもよく、組み合わせてもよい。
 - 用具を使わず水着だけを着用して、10分間の立ち泳ぎ、またはボビングもしくはフローティングで浮いている状態を保つ。
 - マスク、スノーケル、フィンを使い、浮き具なしで手を使わずに、顔を水につけたままノンストップで800メートル／ヤードを泳ぐ。

例外: 身体障害により脚の動きが制限されているため、普段のダイビングで腕を使って泳いでいる候補生は、腕を使ってもよい。

- アシストなしで、モノフィン(マーメイド・テール)を使用し、ダイバーをノンストップで100メートル/ヤード曳行する(または押す)。
 - 水面で反応がなく呼吸していないマーメイド・ダイバーのレスキューおよび、モノフィンを使用して事故者の50メートル/ヤード曳行をデモンストレーションする。
4. Mermaid Instructor または Instructor Trainer と以下のスキルをロールモデル(お手本となる)・レベルでデモンストレーションする:
- ダイブの前、最中、後の適切な呼吸
 - 足がつかない深さの水面から垂直にヘッドファーストでダックダイブをする
 - 水中で方向をコントロールしながらの、効率的なドルフィンキック
 - バック・サマーソルト・ターン
 - 水中ハンドシェイク(チーム動作)
 - マーメイド・バブル
 - バック・グライド
5. ティーチング・ステータスのMermaid Instructor または Instructor Trainer による 1回の Discover Mermaid プログラムおよび、2回のBasic Mermaid/Mermaid コースの限定水域セッション1のアシスト

PADI Mermaid Instructor™

PADI Mermaid Instructor認定を受けるには、PADI Mermaid Instructor Training Courseに参加する、もしくはPADI Mermaid Instructor Orientationを受ける。

参加前条件

1. 18歳以上
2. PADI Advanced Mermaid 認定 (または参加受入資格を満たす認定) または少なくとも3回のオープンウォーター・マーメイド・セッションを含む15回のマーメイド・ダイブ・セッションのマーメイド・ダイビング経験の証明
3. 過去24ヶ月以内にEFR® Primary and Secondary Care のトレーニングを受けている (または参加受入資格を満たす認定)
4. 過去12カ月以内に医師が署名した最新の病歴書

例外: 現役のPADI Instructor またはPADI Freediver Instructor

認定条件

オプション1

- PADI Mermaid Instructorコースの修了
または
- PADI Freediver Instructor 資格を有し、以下のスキルが熟練されたデモンストレーション・レベルであること:

オプション2

- 他団体が認定しているマーメイド・インストラクター資格
- PADI Mermaid Instructorオリエンテーションの修了
- PADI Mermaid コースの条件を満たす2回のコースを実施またはアシストしている、または、1回の PADI Mermaid コースをアシストしている

PADI Mermaid Instructor Trainer (マーメイド・インストラクター・トレーナー)

PADI Mermaid Instructor Trainer Course/Orientationに参加するか、PADIリージョナル・ヘッドクォーター(各地域本部)に直接申請することによって、PADI Mermaid Instructor Trainerの資格を得る。

参加前条件

1. 18歳以上
- 2.EFR Instructor(または相当する資格)
3. 過去12ヶ月間にクオリティ・アシュアランス違反の記録がない。

認定条件

- 50以上の Basic Mermaid (もしくはそれ以上) 認定を発行していて、すべてのレベルのPADI Mermaidプログラムの講習経験があるPADI Mermaid Instructor
- Mermaid Instructor Trainerコースの修了
または
- 他のトレーニング組織で取得した、参加受入資格を満たすマーメイド・インストラクター・トレーナー資格および、最低5回のマーメイド・インストラクター・コースを開催した証明
- PADI オフィス・スタッフによる Mermaid Instructor Trainer オリエンテーションの修了

PADIリージョナル・ヘッドクォーター(各地域本部)に直接申請する前条件

1. 現役でティーチング・ステータスのPADI Freediver Instructor TrainerまたはPADI Course Director
2. PADI Advanced Mermaid(または参加受入資格を満たす認定)
3. 正式な形でインストラクターまたはアシスタントとして少なくとも1名のPADI Advanced Mermaid レベルを含む5人の Mermaid 生徒のトレーニングをした経験の証明

PADI Public Safety Diver™ Program Professional資格

PADI Public Safety Diver Instructor

参加前条件

1. PADI Public Safety Diver認定(または参加受入資格を満たす認定)
2. PADI Master Scuba Diver Trainer
3. PADI Full Face Mask Specialty Instructor
4. PADI Dry Suit Specialty Instructor
5. 次の資格のいずれか3つ:
 - PADI Emergency Oxygen Provider Specialty Instructor
 - PADI Ice Diver Specialty Instructor
 - PADI Night Diver Specialty Instructor
 - PADI Search and Recovery Diver Specialty Instructor
 - PADI Self-Reliant Diver Specialty Instructor
 - PADI Underwater Navigator Specialty Instructor
6. EFR Instructor(または相当する資格)
7. パブリック・セーフティ・ダイバー・チームへの所属証明
8. Incident Command Training (ICS) Level 100または200の証明(またはその地域での相当する資格)

以下のいずれかを満たしている:

1. Public Safety Diver Instructor コースの修了、及び10回のパブリック・セーフティ・ダイバー・ミッション経験証明
2. 他団体のパブリック・セーフティ・ダイビング・インストラクター資格証明、および:
 - 10以上のパブリック・セーフティ・ダイバー認定を発行している

- パブリック・セーフティ・ダイバーの経験が1年間あり、20回以上のパブリック・セーフティ・ダイビング・ミッション経験がある

PADI Advanced Public Safety Diver Instructor

参加前条件

1. PADI Public Safety Diver Instructor資格(または参加受入資格を満たす資格)
2. EFR Instructor(または相当する資格)
3. PADI Master Scuba Diver Trainer
4. 以下のいずれかを満たしている:
 - 30回以上のパブリック・セーフティ・ダイバー・ミッション、または演習
 - 15回以上のパブリック・セーフティ・ダイバー・ミッションと15以上のパブリック・セーフティ・ダイバー認定の発行
5. 5以上のPADI Public Safety Diverと5以上のPADI Surface Support Specialistsを認定している

以下のいずれかを満たしている:

1. Advanced Public Safety Diver Instructorコースの修了
2. 他団体でアドバンスド・パブリック・セーフティ・ダイビング・インストラクターとして認定され、2回以上のアドバンスド・パブリック・セーフティ・ダイバー・コースを指導またはアシストした証明、または少なくとも1回のPADI Advanced Public Safety Diverコースをアシストした証明を提出する

PADI Public Safety Diver Instructor Trainer

必要条件

1. PADI Course Director
2. PADI Public Safety Diver Instructor
3. PADI Full Face Mask Specialty Instructor Trainer
4. PADI Dry Suit Specialty Instructor Trainer
5. EFR Instructor Trainer
6. パブリック・セーフティ・ダイバー・チームへの所属証明
7. 50回以上のパブリック・セーフティ・ダイバー・ミッション、または演習
8. 1回以上、Public Safety Diver Instructorコースをアシストしている
9. 少なくとも以下の認定をしている：
 - 15人のPADI Public Safety Diverまたは Advanced Public Safety Diver
 - 15人のPADI Surface Support Specialists

PADI Advanced Public Safety Diver Instructor Trainer

必要条件

1. PADI Public Safety Diver Instructor Trainer
2. PADI Advanced Public Safety Diver Instructor
3. EFR Instructor Trainer
4. パブリック・セーフティ・ダイバー・チームへの所属証明
5. Incident Command Training (ICS) Level 700の証明(米国および米国運用ガイドラインのある地域、またはその他の地域での相当する資格)

6. 60回以上のパブリック・セーフティ・ダイバー・ミッションまたは演習を経験し、ボートを使用した任務や車両関連の被害者救助／リカバリーの経験の証明
7. 1回以上、Advanced Public Safety Diver Instructorコースをアシストしている
8. 15以上のPADI Advanced Public Safety Diverの認定